

ISSN 0385-0293

# 沖縄県立博物館年報

No.35



2002

沖縄県立博物館

表紙・小栗憲一作 紙本墨画「那覇港至首里城図」（部分）。明治 11 年頃の那覇港から首里までの風景を描いた巻物（21.3 × 634.8cm）。小栗（1834-1915）は号を布岳といい、本願寺の使僧として、浄土真宗の信者の刑を取り消すよう王府に要請するため来琉した。この絵はその際に描かれたものと思われます。

大分県在の桑門豪氏からご寄贈いただきました。

## 目 次

序	館長 真嗣 一
<b>I 概 要</b>	
1 沿革	1
2 日誌(抄)	3
3 施設・設備	5
4 組織	7
5 沖縄県立博物館協議会	9
6 予算	10
<b>II 入館者数</b>	
1 入館者数	11
2 県内外児童生徒学生団体見学者	14
<b>III 調査研究等の活動</b>	
1 調査研究の概要	16
2 調査研究	19
3 講演等	20
4 著作論文等	21
5 職員研修	22
<b>IV 展示活動</b>	
1 展示活動の概要	23
2 常設展	23
3 特別展	27
4 企画展	31
5 移動博物館	33
<b>V 教育普及活動</b>	
1 教育普及活動の概要	39
2 博物館文化講座	40
3 衛星通信を利用した子ども放送局	42
4 博物館シアター	43
5 博物館体験学習教室	44
6 ボランティア活動	48
7 支援活動	50
<b>VI 博物館実習</b>	51
<b>VII 資料の収集・保存管理</b>	
1 収蔵資料現在高	53
2 新収蔵資料高	53
3 新収蔵資料目録	54
4 所蔵の指定文化財	55
5 収蔵資料整理事業	57
6 資料貸出	58
7 煙蒸処理	59
<b>VIII 刊行物</b>	60
<b>IX その他の活動</b>	
1 沖縄県博物館協会	61
2 沖縄県立博物館友の会	62
<b>X 関係法規抄録</b>	64

## 序

平成13年4月1日から施行された国立博物館・美術館の独立行政法人化は、新世紀の博物館づくりを予感させるものです。

さて、本年度から始まった「学校完全週5日制」や「総合的な学習の時間」は、博物館の活用を益々増やすものと思われます。子どもたちに親しまれ、より良質な文化的・歴史的情報の提供、人々の様々なニーズに呼応する企画力や斬新性、話題性などを持つ柔軟かつ活力にあふれた博物館づくりをめざしているところです。

平成13年度は展示事業で特別展と企画展の開催をはじめ文化講座、体験学習教室、シアターなどの教育普及事業、全学芸員による総合的調査といった博物館事業に取り組んだ充実した1年でありました。

本書が、今後の博物館づくりの指標としてご活用されることを願っています。今後ともより親しまれる博物館づくりに努力していく所存です。当館へのより一層のご指導、ご協力をお願い申しあげます。

平成14年5月20日

沖縄県立博物館  
館長 當眞嗣一

# I 概要

## 1 沿革

### 〔前史〕

昭和 11 年（1936）沖縄縣教育會附設として旧首里城北殿を利用して「郷土博物館」が創設されたが、昭和 20 年の沖縄戦により全焼。終戦直後の昭和 20 年 8 月米国海軍軍政府は残欠文化財を収集し、石川市字東恩納に「沖縄陳列館」を設立した。一方、有志により首里城周辺の廃墟の中から残欠文化財の収集が行われ、昭和 21 年 3 月頃首里の汀良に「首里市立郷土博物館」が設立された。

### 〔創設〕

昭和 21 年（1946）4 月 24 日、沖縄陳列館は沖縄民政府に移管され、「東恩納博物館」と改称して、新発足。これが当館の創立にあたる。

### 〔発展〕

昭和 28 年（1953）東恩納博物館と首里の博物館が合併、同 30 年（1955）には「琉球政府立博物館」に改称する。また、同 41 年（1966）には現敷地に新館を建設して移転する。同 47 年（1972）の日本復帰に伴い名称を「沖縄県立博物館」と改め、翌 48 年（1973）、2 階部を増築し展示スペースを拡充し、現在に至る。

### 〔あゆみ〕

昭和 21 年（1946） 4 月 24 日、沖縄陳列館を「東恩納博物館」と改称し、沖縄民政府の所管となる。

昭和 22 年（1947） 12 月、前年 3 月に首里汀良町に設立された首里市立郷土博物館も同民政府に移管。「沖縄民政府立首里博物館」に改称される。

昭和 28 年（1953） 3 月、東恩納博物館を首里博物館に移転合併。5 月、首里博物館は汀良町から当蔵町に移り、龍潭池畔に瓦葺の本館完成。米民政府によりペルリー来琉百周年記念事業の一環としてペルリ記念館同博物館に附設して落成、贈呈される。

昭和 30 年（1955） 9 月「首里博物館」の名称を「琉球政府立博物館」に改称。  
大中町の旧尚家屋敷跡（中城御殿、現敷地）を購入。

昭和 40 年（1965） 10 月、米国の援助により新敷地に鉄筋コンクリート建の新館を建設し、移転。11 月に開館。

昭和 41 年（1966） 2 月、サントリー美術館との共催で、「50 年前の沖縄」写真展を開催。5 月、日本復帰に伴い「沖縄県立博物館」に改称。

昭和 47 年（1972） 2 月、国庫補助により 2 階部を増築し、展示室を 3 室増設。

昭和 48 年（1973） 4 月、創立 30 周年記念式典を行う。

昭和 51 年（1976） 1 月、特別展「日本の美—救世熱海美術館名品展」および「沖縄県立博物館名品展」開催。

昭和 55 年（1980） 2 月、「移動博物館」を久米島の具志川・仲里両村で開催し、以後毎年離島市町村で実施。

昭和 56 年（1981） 11 月、特別展「失われた生物たち—大恐竜展」開催。

昭和 57 年（1982） 3 月 30 日付け、博物館法に基づき、沖縄県の「登録博物館」として登録。

昭和 58 年（1983） 10 月、特別展「沖縄の美—日本民芸館蔵」および「戦前の沖縄写真展」開催。

昭和 59 年（1984） 5 月、新たに常設展として自然部門を設置。

昭和 60 年（1985） 10 月、特別展「熊本県・沖縄県交流展—熊本の歴史と文化」開催。

昭和 61 年（1986） 11 月、特別展「沖縄県・熊本県交流展 沖縄の美—風土と美術工芸」を熊本県立美術館にて開催。

昭和 60 年 (1984)	11 月、特別展「グスクーグスクが語る古代琉球の歴史とロマン」開催
昭和 61 年 (1986)	2 月、特別展「美術工芸の美を求めて一大嶺薰コレクション」開催。
昭和 62 年 (1987)	10 月、スポーツ芸術・特別展「沖縄の自然・歴史・文化」「沖縄近代の絵画—物故作家」開催。 12 月、企画展「田名家収蔵品展—ある首里士族の 400 年」開催。 12 月、企画展「現代沖縄の陶芸—天野鉄夫コレクション」開催。
昭和 63 年 (1988)	8 月、特別展「ヤンバルの自然」開催。 11 月、特別展「三線名器 100 挺展」開催。
平成 元年 (1989)	11 月、特別展「インドネシア更紗展」開催。
平成 2 年 (1990)	1 月、特別展「大アンデス文明展」開催。
平成 3 年 (1991)	10 月、特別展「アジアの祭りと芸能」開催。
平成 4 年 (1992)	6 月、特別展「古代メキシコ至宝展」開催。 8 月、特別展「沖縄の貝類展」開催。 10 月、特別展「琉球王国展」開催。
平成 5 年 (1993)	1 月、特別展「尚家継承琉球王朝文化遺産展」開催。 8 月、特別展「沖縄の川と生きもの」開催。
平成 6 年 (1994)	7 月、特別展「子どもの世界」開催。
平成 7 年 (1995)	6 月、戦後 50 周年記念特別展「甦る沖縄・戦災文化財と戦後生活資料展」開催。
平成 8 年 (1996)	7 月、特別展「大久米島展」開催。 12 月、企画展「沖縄県立博物館 50 年の歩み」開催。 創立 50 周年式典を行う。
平成 9 年 (1997)	4 月、特別展「アルゼンチンの大恐竜展」開催。
平成 10 年 (1998)	7 月、企画展「琉球王国時代の植物標本展」開催。 11 月、特別展「包むこころ ふろしき展」開催。
平成 11 年 (1999)	8 月、特別展「三線のひろがりと可能性展」開催。 10 月、企画展「日本の技—伝統のかたち」(第 7 回全国重要無形文化財保持団体秀作展「日本の伝統美と技の世界」巡回展)
平成 12 年 (2000)	2 月、企画展「工芸王国—きらめく手わざの世界を沖縄から」展開催 7 月、特別展サミット開催記念「大琉球展」開催。
平成 13 年 (2001)	11 月、特別展「ハワイ移民 100 周年記念「日系移民 1 世紀展」開催 3 月、企画展「工芸王国一人・技・心」展開催 11 月、特別展「かざりとかたち展」開催

### 〔歴代館長〕

東恩納博物館・首里博物館

大嶺 薫 (昭和 21 年 4 月～ 28 年 3 月・東恩納博物館)

豊平 良頤 (昭和 22 年 12 月～ 23 年 3 月・首里博物館)

原田 貞吉 (昭和 23 年 8 月～ 28 年 3 月・〃 )

沖縄民政府立首里博物館

原田 貞吉 (昭和 28 年 3 月～ 30 年 5 月)

琉球政府立博物館

山里 永吉 (昭和 30 年 5 月～ 33 年 8 月)

金城増太郎 (昭和 33 年 9 月～ 36 年 12 月)

大城 知善（昭和 37 年 2 月～44 年 11 月）  
外間 正幸（昭和 44 年 12 月～47 年 4 月）

### 沖縄県立博物館

外間 正幸（昭和 47 年 5 月～56 年 3 月）  
大城徳次郎（昭和 56 年 4 月～58 年 3 月）  
大城 立裕（昭和 58 年 4 月～61 年 3 月）  
大城 宗清（昭和 61 年 4 月～平成 4 年 3 月）  
宜保榮治郎（平成 4 年 4 月～6 年 3 月）  
糸数 兼治（平成 6 年 4 月～8 年 3 月）  
當間 一郎（平成 8 年 4 月～11 年 3 月）  
大城 将保（平成 11 年 4 月～12 年 3 月）  
平田 興進（平成 12 年 4 月～14 年 3 月）  
當眞 嗣一（平成 14 年 4 月～）

### 2 日誌抄（平成 13 年 4 月 1 日～平成 14 年 3 月 31 日）

#### 平成 13 年

- 4 月 11 日 津嘉山朝祥教育長博物館現状視察  
18 日 比嘉茂政副知事博物館現状視察  
19 日 県定期監査（職員監査）実施（副参事宮国泰勇、主幹外間政秀）  
5 月 9 日 県定期監査（委員監査）仲里利信委員、知念勇進事務局長  
10 日 宮城嗣三教育次長、有銘政勇財政課長博物館現状視察  
22 日 島根県大社町議会議員一行来館  
24 日 沖縄県博物館協会総会、春期研修会（～25 日、県平和祈念資料館）  
26 日 御手洗文部科学審議官子ども放送局の現状視察  
28 日 第 1 回博物館学芸員実習（～6 月 8 日）  
6 月 5 日 平成 12 年度新収蔵品展開会（～7 月 1 日）  
19 日 平成 13 年度九州博物館協議会総会、研修会開催（～20 日、都ホテル）  
26 日 文化行政懇話会（館長等出席）  
27 日 佐々木文化庁長官一行博物館視察  
7 月 13 日 斎藤洋之助氏来館  
8 月 3 日 福祉のまちづくり施設整備竣工（玄関前スロープ、点字ブロック等）  
13 日 第 2 回博物館学芸員実習（～24 日）  
29 日 平成 13 年度後期登録ボランティア入会式  
9 月 8 日 暴風雨の為臨時休館（台風 16 号）  
12 日 暴風雨の為午後 2 時より開館（台風 16 号）  
17 日 薫蒸作業の為休館（～21 日）  
10 月 15 日 第 3 回博物館学芸員実習（～26 日）  
17 日 暴風雨の為午後 1 時より開館  
23 日 福建省サミット団博物館視察  
24 日 特別展「港川人展」展示検討委員会  
25 日 内閣府振興一課長博物館視察  
11 月 9 日 特別展「かざりとかたち」教育長記者会見  
13 日 特別展「かざりとかたち」開会式展、式典参加者県教育長、京都国立博物館長、黎明館学芸課長、京都国立近代美術館主任研究官他  
15 日 第 49 回全国博物館大会（～16 日、千葉県）  
24 日 移動博物館（～25 日、南大東村）  
29 日 沖縄県博物館協会秋期研修会（～30 日、久米島具志川村）

平成14年

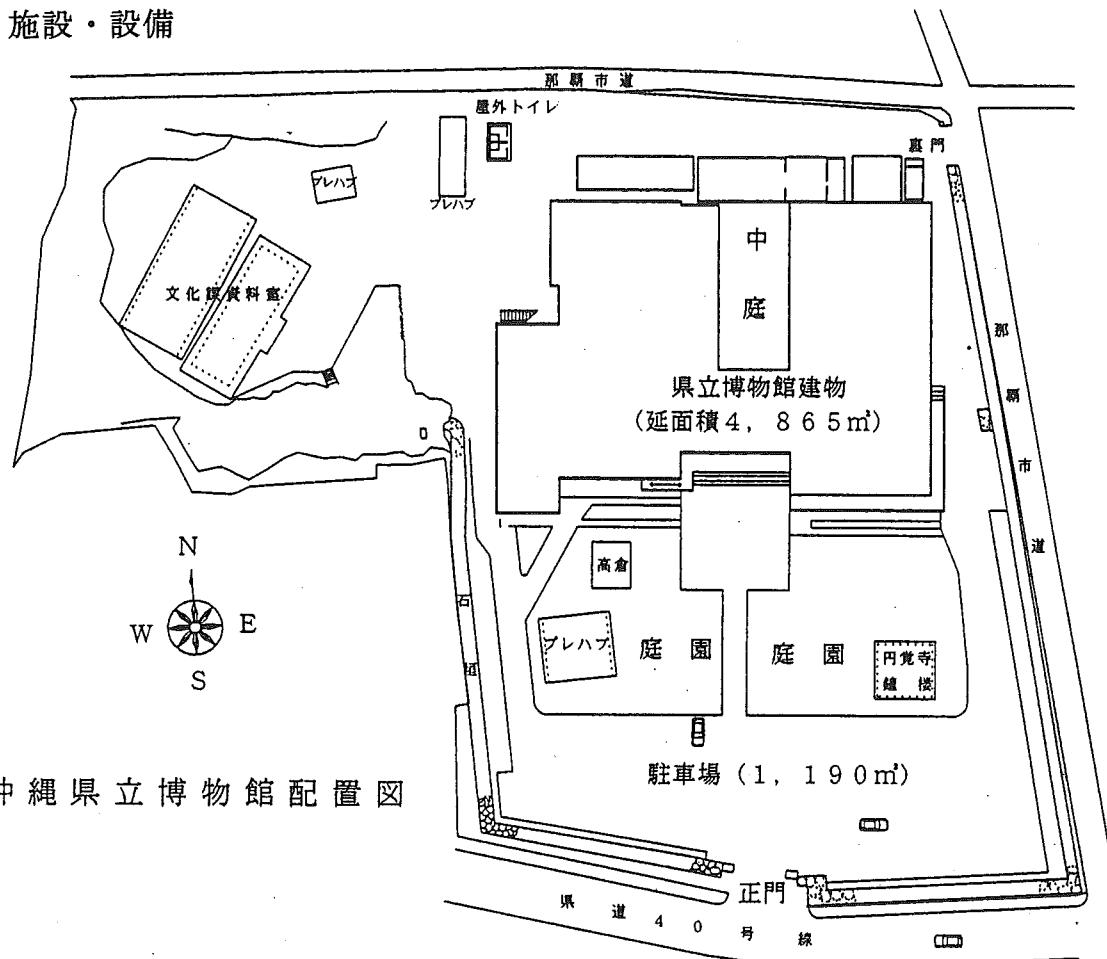
- 1月21日 空調工事の為休館（～2月4日、講堂・第2・第3・4展示室）  
23日 牧野浩隆副知事博物館現状視察  
28日 アフターブ・セット、インド大使一行来館
- 2月21日 平成13年度防災総合訓練  
26日 記者会見「米国から返還された刀剣の寄贈について」  
28日 山口県立博物館副館長来館
- 3月12日 記者会見「アルセスト号朝鮮大琉球島航海記」の寄贈について  
14日 東京大学史料編纂所長一行来館  
東京芸術大学美術館事務長一行来館  
15日 平成13年度沖縄県立博物館協議会  
26日 宮城光男政策調整官博物館現状視察



特別展の開会式と展示解説の模様



### 3 施設・設備



#### 施設規模

★敷地面積 ······ 11,267 m <sup>2</sup>
★建物延べ面積 ······ 4,865 m <sup>2</sup>
1階及び講堂部分 ······ 2,893 m <sup>2</sup>
2階部分 ······ 1,571 m <sup>2</sup>
地下部分 ······ 401 m <sup>2</sup>
★展示面積 ······ 1,590 m <sup>2</sup>
1階 ······ 632 m <sup>2</sup>
2階 ······ 958 m <sup>2</sup>
★ロビ一面積 ······ 256 m <sup>2</sup>
★収蔵庫面積 ······ 1,048 m <sup>2</sup>
★駐車場面積 ······ 1,190 m <sup>2</sup>
★庭園面積 ······ 1,612 m <sup>2</sup>
★講堂 ······ 632 m <sup>2</sup> 客席数 215席

★空調能力
ウォーターチーリングユニット《空冷式》 125,000 Kcal/h × 2基
エアハンドリングユニット 6基 161,028 Kcal/h (講堂用)
34,658 Kcal/h (第3・4展示室系) 30,000 Kcal/h (第1展示室系)
25,830 Kcal/h (地下収蔵庫) 21,270 Kcal/h (1階収蔵庫)
18,263 Kcal/h (第2展示室系)
パッケージ型ユニット 4台
★受変電設備
電灯用 T r ······ 1φ 3W 30KVA × 1基 電灯・動力 T r ··· 3φ 4W 100KVA × 1基 動力 ······ 3φ 3W 250KVA × 1基
★契約電力 ······ 239 KW

## 【2階】

番号

	室名	
1	美術工芸展示室	265m <sup>2</sup>
2	民俗展示室	436m <sup>2</sup>
3	漆器収蔵庫	170m <sup>2</sup>
4	企画展示室	257m <sup>2</sup>
5	空調機械室	29m <sup>2</sup>
6	コンピューター室	59m <sup>2</sup>
7	化粧室(女)	6m <sup>2</sup>
8	化粧室(男)	11m <sup>2</sup>
9	空調機械室	12m <sup>2</sup>
10	化石収蔵庫(中3階)	120m <sup>2</sup>
11	貝類収蔵室	25m <sup>2</sup>
12	陶器収蔵室	36m <sup>2</sup>
13	その他	145m <sup>2</sup>

図1

2階平面図

中3階

## 【1階】

番号

	室名	
1	事務室	115m <sup>2</sup>
2	会議室	96m <sup>2</sup>
3	考古・歴史展示室	462m <sup>2</sup>
4	自然史展示室	170m <sup>2</sup>
5	収蔵庫	120m <sup>2</sup>
6	荷解場	32m <sup>2</sup>
7	陶磁器収蔵庫	11m <sup>2</sup>
8	中庭	152m <sup>2</sup>
9	逗子甕収蔵庫	91m <sup>2</sup>
10	休憩室	11m <sup>2</sup>
11	湯沸室	8m <sup>2</sup>
12	化粧室(女)	7m <sup>2</sup>
13	化粧室(男)	9m <sup>2</sup>
14	図書室	28m <sup>2</sup>
15	館長室兼応接室	28m <sup>2</sup>
16	案内コーナー	18m <sup>2</sup>
17	講堂(客席)	428m <sup>2</sup>
18	ステージ	116m <sup>2</sup>
19	控室	19m <sup>2</sup>
20	控室	32m <sup>2</sup>
21	講堂出入口	37m <sup>2</sup>
22	守衛室	14m <sup>2</sup>
23	ロビー	256m <sup>2</sup>
24	倉庫	14m <sup>2</sup>
25	化粧室(女)	21m <sup>2</sup>
26	化粧室(男)	11m <sup>2</sup>
27	友の会売店	10m <sup>2</sup>
28	空調機械室	11m <sup>2</sup>
29	消火栓ポンプ室	5m <sup>2</sup>
30	逗子甕収蔵庫	75m <sup>2</sup>
31	身障者用トイレ	6m <sup>2</sup>

図2

1階平面図

図3

地下平面図

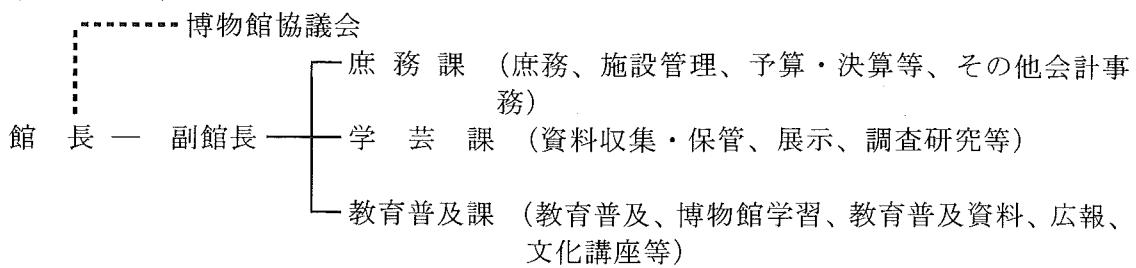
## 【地階】

番号

	室名	
1	収蔵庫	285m <sup>2</sup>
2	空調機械室	58m <sup>2</sup>
3	荷解場	28m <sup>2</sup>
4	受変電設備	30m <sup>2</sup>

## 4組織(平成14年4月1日)

### (1) 組織



### (2) 職員構成

職名	氏名	担当業務
館長	當眞嗣一	博物館業務の総理に関すること。
副館長	森山 晃	館長の補佐、庶務課・学芸課・教育普及課との調整に関すること。

#### 庶務課

副館長兼庶務課長	森山 晃	庶務課の総括、予算・決算、財産管理（財産・鍵・公印の保管等）、会計監査、沖縄県立博物館協議会、全国及び九州ブロック博物館協議会、その他庶務に関する事。
主査	外間 廣子	歳出事務、決算事務、全国及び九州ブロック博物館協議会、その他庶務に関する事。
主事	木村 達	給与、歳入、諸手当の認定、出勤簿整理、非常勤職員の任用申請、入館料免除に関する事、図書類、消耗品受入、文書等の收受、切手等の管理、その他庶務に関する事。
主任 (技師)	平良 盛明	施設設備の保守管理、全館燻蒸、車両の管理、防火管理補助、備品・その他庶務に関する事。

#### 学芸課

主幹兼課長	津波古聰	学芸業務全般の総括、学芸員会議、学芸員研修、博物館学芸員実習、九国博建設支援事業、博物館新館建設に関する事、美術工芸資料に関する事。
主任学芸員	與那嶺一子	美術工芸資料（染織・書跡）、収蔵品台帳、博物館資料・写真資料貸出、博物館資料購入・修理に関する事。博物館新館に関する事。
主任 (学芸員)	園原謙	歴史資料、レプリカ作成、博物館資料購入・修理、博物館年報の発行に関する事、移動博物館に関する事。
学芸員	仲座久宜	考古資料に関する事、収蔵資料整理に関する事、特別展「港川人展」に関する事。
指導主事	宮城勉	自然史資料（地質・化石）に関する事、化石資料整理、沖博協の書記・会計、特別展「港川人展」に関する事。
指導主事 (充)	嵩原建二	自然史資料（植物・動物）、収蔵資料整理（管理システム）、剥製標本作製事業に関する事、燻蒸に関する事。
〃	田中聰	自然史資料（植物・動物）、総合調査、図書資料購入、博物館紀要発行、新収蔵品展に関する事、沖博協に関する事。
主任指導 主事（充）	桃原茂夫	民俗資料に関する事、収蔵資料整理、新収蔵品展に関する事。

## 教育普及課

課長	前田 真之	教育普及業務の総括、友の会への指導に関すること。ボランティア活動事業(登録含む)
指導主事 (充)	瑞慶山 昇	美術工芸資料(彫刻)、移動博物館、博物館シアター、団体見学の対応、ポスター・チラシ等の作成、視聴覚器材(ソフト)の保全・管理、行事案内。
指導主事 (充)	玉城 善哲	博物館体験学習教室、博物館学習の助言・調整、団体見学の対応、博物館展示リーフレットの作成、図書購入、子供からの手紙相談に関すること。
学芸員 (臨任)	譜久村照代	文化講座、広報活動(マスコミ記者会見等)、文化講座、博物館だよりの発行、アンケート調査・回答、団体見学の対応。

## 委託職員

教育普及 補助員	喜久川 智子 朝日 政子	教育普及、展示解説、寄贈図書受入れに関するこ。
監視員	當眞 哲子 金城 民子 伊波 芙美子 小橋川 敏子 島袋 千恵子 大城 弘子	受付補助及び展示場監視に関するこ。 展示場監視に関するこ。
緑化整備員	金城 朝正	緑化整備に関するこ。

## 沖縄県立博物館友の会

書記・会計	池宮城 啓子	博物館友の会の庶務会計に関するこ。
-------	--------	-------------------

## 3) 人事異動

平成14年4月1日現在

職名	氏名	摘要
【転出】 館長 主幹兼学芸課長 指導主事 主査	平田 輿進 千木良芳範 与那城義春 喜友名一郎	定年退職 沖縄県文化振興会副参事へ(昇任) 定年退職 普通退職
【転入】 館長 学芸員 指導主事	當眞 嗣一 仲座 久宜 田中 聰	県教育庁文化課課長から(昇任) 県教育庁文化課専門員から 宜野湾高等学校教諭から

## 5 沖縄県立博物館協議会

日 時：平成 14 年 3 月 15 日（金） 14:00 ~ 16:00

場 所：県立博物館会議室

### 会議事項

1. 平成 13 年度博物館事業報告について
  - (1) 学芸課事業報告
  - (2) 教育普及課事業報告
2. 平成 14 年度博物館事業概要について
  - (1) 平成 14 年度予算について
  - (2) 学芸課事業概要
  - (3) 教育普及課事業概要
3. その他

沖縄県立博物館協議会委員会名簿（平成 12 年 12 月 15 日～平成 14 年 12 月 14 日）

	氏 名	所 属	職 名
学識経験者	翁長 自修	元琉球大学教授 (美術工芸)	元教授
	新城 和治	元琉球大学教授 (自然史)	元教授
	金城 正篤	沖縄大学教授 (歴史)	教 授
	嵩元 政秀	沖縄考古学会 (考古学)	会 長
	津波 高志	琉球大学教授 (民俗)	教 授
学校関係者	前城 文彦	沖縄県小学校長会	副会長
	大城 忠一	沖縄県中学校長会	副会長
社会教育関係者	仲地 朝明	沖縄県社会教育委員会会議	議 長
	喜納 兼功	沖縄県 P T A 連合会	会 長
	小禄 亮子	沖縄県子ども育成連絡協議会	事務局長

## 6 予算

平成13年度博物館費（決算）

(単位：円)

	博物館管理運営費	博物館特別事業費	博物館費
報酬	76,840	0	76,840
賃金	0	1,613,340	1,613,340
報償費	0	425,000	425,000
旅費	784,839	3,496,500	4,281,339
需用費	19,154,000	7,566,797	26,720,797
役務費	954,564	2,348,000	3,302,564
委託料	20,972,500	9,723,513	30,696,013
使用料及び賃借料	160,064	463,000	623,064
工事請負費	35,359,800	347,193	35,706,993
備品購入費	2,809,359	0	2,809,359
負担金補助及び交付金	325,000	0	325,000
公課費	18,900	0	18,900
合計	80,615,866	25,983,343	106,599,209

平成13年度歳入状況

(単位：円)

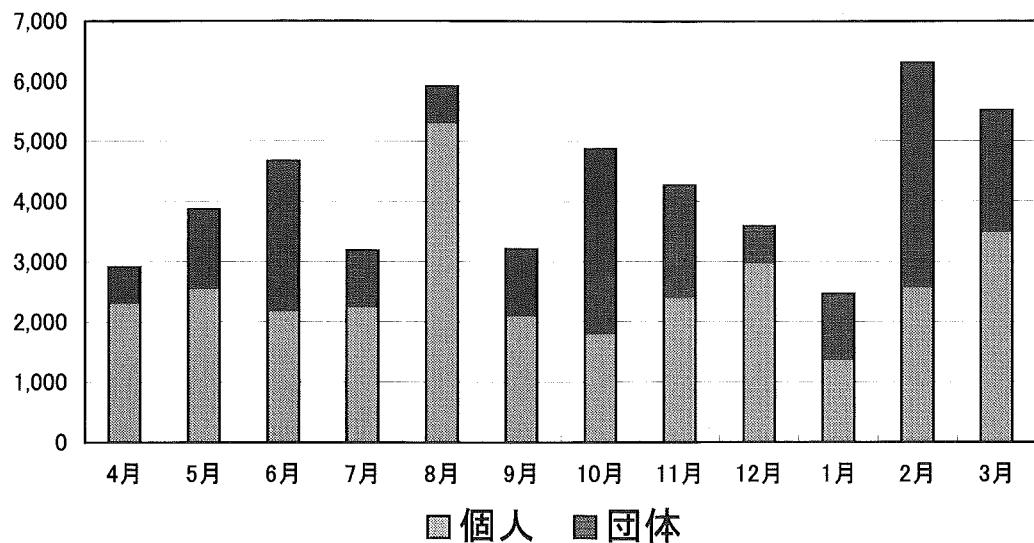
	友の会等	特別展等	合計
博物館使用料	0	7,347,940	7,347,940
土地使用料	83,446	0	83,446
建物使用料	47,835	0	47,835
雜入	85,837	0	85,837
合計	216,668	7,347,940	7,564,608



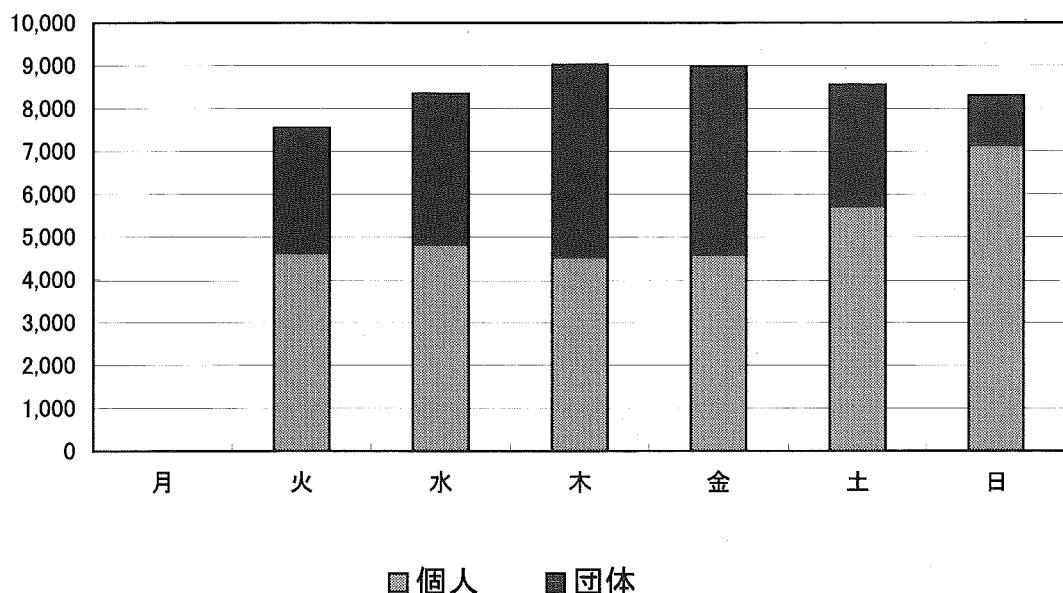
## 団体入館者数(有料)

年月	県内										県外										合計					
	大人					高大生					大人					高大生					大人					
	団体人数	団体人数	団体人数	小中生	小計	団体人数	団体人数	小中生	小計	団体人数	団体人数	小中生	小計	団体人数	団体人数	高大生	小中生	小計	団体人数	団体人数	高大生	小中生	小計			
平成13年4月	2	39		3	87	5	126			3	97	3	97	2	45	1			2	46	10	269				
5月	3	79	1	31	2	95	6	205	2	56	3	275	3	117	8	448						14	653			
6月	4	114		1	37	5	151	2	41	8	930			10	971	1	23	1	28	1	26	3	77	18	1,199	
7月	3	164	1	32	3	110	7	306	3	112	2	147	2	55	7	314								14	620	
8月	2	56		5	144	7	200	3	100	1	39	3	121	7	260									14	460	
9月	3	190		2	167	5	357	1	20	4	174			5	194									10	551	
10月	5	177			17	5	194	1	22	5	465	3	201	9	688									14	882	
11月	3	75		4	368	7	443	1	95	6	1,031		1	7	1,127	2	70		2	70	16	1,640				
12月	5	165		4	312	9	477	1	27	1	26	1	39	3	92									12	569	
平成14年1月									1	172	1	19		2	191									2	191	
2月	2	42			13	2	55	8	210	1	17	1	116	10	343	1	69		1	69	13	467				
3月	5	175			5	175	10	346	3	428	3	218	16	992	1	37		3	1	40	22	1,207				
合計	37	1,276	2	63	24	1,350	63	2,689	33	1,201	35	3,551	19	965	87	5,717	7	244	1	29	1	29	9	302	159	8,708

平成13年度月別入館者数

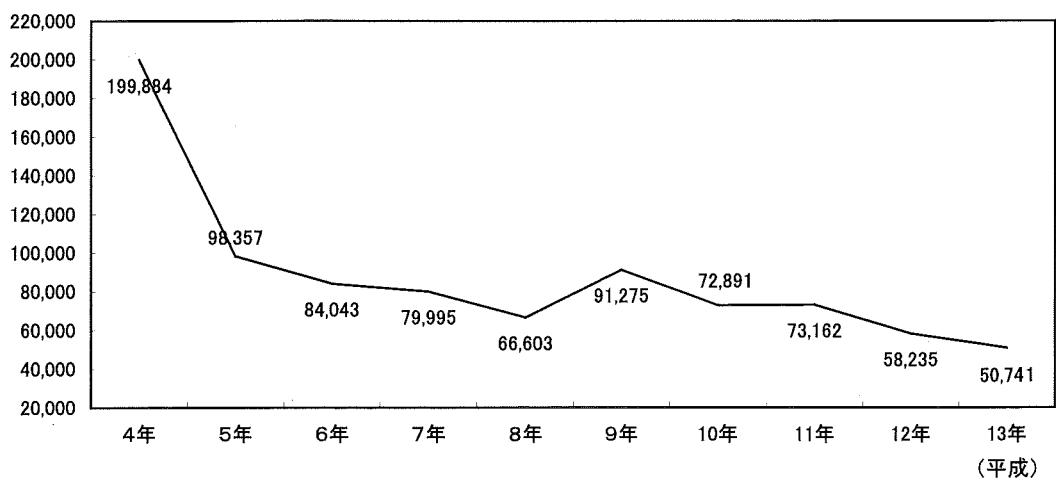


平成13年度曜日別入館者数



■個人 ■団体

年間入館者数の年次推移(過去10年間)



## 2 県内外児童生徒学生団体見学者

(小学校)

9,135名

月	日	学校名	月	日	学校名	月	日	学校名
4	21	真嘉比小学校	23名	10	19 漢那小学校	22名	2	6 与那原東小学校
	21	真嘉比小学校	22名		19 鏡ヶ丘養護学校	34名		7 与儀小学校
	25	城西小学校	144名		20 今帰仁小学校	56名		7 西崎小学校
	27	上田小学校	159名		23 仲里小学校	30名		7 城西小学校
5	1	泊小学校	145名	23	23 西原小学校	125名	8	松島小学校
	1	南風原小学校	166名		24 浜川小学校	99名		8 真和志小学校
	1	光洋小学校	113名		25 大山小学校	193名		13 潮平小学校
	22	亀徳小学校	25名		25 長嶺小学校	97名		13 高良小学校
	24	松島小学校	148名		26 瀬喜田小学校	21名		14 松川小学校
	24	南小学校	92名		26 羽地小学校	68名		14 城岳小学校
	2	東小学校	129名		26 光洋小学校	109名		15 曙小学校
6	8	上野小学校	40名	26	稻田小学校	25名	15	さつき小学校
	13	泡瀬養護学校	20名		27 和光鶴川小学校	65名		16 前田小学校
	14	宜野座小学校	41名		27 和光小学校	72名		16 小禄南小学校
	14	砂川小学校	19名		13 栗国小学校	10名		19 泊小学校
	14	北小学校	57名		14 上間小学校	144名		19 神森小学校
	15	海星小学校	14名		15 与那原小学校	114名		20 北中城小学校
	16	上間小学校	124名		16 玉城小学校	66名		20 城北小学校
	21	伊平屋小学校	29名		22 渡慶次小学校	75名		21 坂田小学校
	27	大岳小学校	36名		27 沖縄カトリック小学校	93名		21 宇栄原小学校
	27	黒島小学校	5名		27 森川養護学校	6名		22 大名小学校
7	13	中城小学校	122名	12	5 上田小学校	44名	22	西原東小学校
	10	飯岡小学校	20名		5 琉大附属小学校	40名		26 沢岷小学校
	14	城西小学校	121名		6 比川小学校	9名		26 座安小学校
9	14	佐敷小学校	65名	1	8 識名小学校	124名	27	真嘉比小学校
	14	富野小学校	2名		10 内間小学校	144名		27 小禄小学校
	22	城東小学校	89名		10 松田小学校	24名		28 浦城小学校
	27	北玉小学校	101名		11 嘉芸小学校	35名		1 塩屋小学校
	11	城西小学校	30名		11 安謝小学校	105名		1 金城小学校
	11	船越小学校	74名		16 大道小学校	87名		2 若狭小学校
	12	天底小学校	39名		17 当山小学校	149名		2 天妃小学校
	12	大里南小学校	106名		17 古蔵小学校	160名		5 城南小学校
	12	馬天小学校	86名		18 神原小学校	98名		6 琉球大学附属小学校
	16	兼城小学校	91名		18 中城小学校	113名		7 開南小学校
10	19	大浜小学校	44名	2	5 真壁小学校	47名	7	知念小学校
	19	久辺小学校	38名		5 垣花小学校	50名		51名
	19	屋良小学校	59名		6 宮城小学校	106名		

(中学校)

1,233名

月	日	学校名	月	日	学校名	月	日	学校名
4	20	石川中学校	37名	6	29 芸西中学校	51名	2	6 荒尾第5中学校
	22	朝霧中学校	29名		14 台中日本人学校	21名		7 知念中学校
	25	口和中学校	25名		16 城北中学校	154名		7 小国中学校
	26	久礼中学校	43名		27 大平養護学校中学部	13名		5 成城中学校
	26	沖縄ろう学校中学部	17名		29 神森中学校	44名		15 上越教育大学附属中学校
5	10	オキナワ・クリスチヤン・スクール	80名	10	4 球磨中学校	61名	3	26名
	25	東津野中学校	40名		25 松城中学校	159名		

## (高等学校)

4,734名

月	日	学校名	月	日	学校名	月	日	学校名			
5	15	福知山高等学校三和分校	55名	6	28	九州産業高等学校	124名	10	28	新潟県立分水高等学校	162名
	19	首里高等学校	41名		29	九州産業高等学校	132名	11	13	札幌学園高等学校	46名
	22	立教新座高等学校	123名		30	九州産業高等学校	167名		15	埼玉県立浦和西高等学校	354名
	23	首里高等学校	10名	7	10	真和志高等学校	16名		16	埼玉県立草加東高等学校	296名
	29	沖縄クリスチヤンスクールインターナショナル	12名		11	沖縄工業高等学校	28名		17	埼玉県立狭山清陵高等学校	300名
6	5	金沢伏見高等学校	157名		11	岡山茅泉高等学校	107名	3	20	神奈川県立相南高等学校	33名
	15	首里高等学校	483名	9	5	首里高等学校	442名		3	保善高等学校	127名
	16	大阪市立東高等学校	38名	10	3	大阪教育大学附属高等学校	23名		13	栃木県立大田原高等学校	274名
	19	明法高等学校	142名		3	神奈川県立新城高等学校	228名		13	球陽高等学校	41名
	22	真和志高等学校	1名		5	首里高等学校	440名		14	球陽高等学校	39名
	24	宮城県立伊具高等学校	29名		6	都立大森高等学校	20名		15	球陽高等学校	39名
	26	真和志高等学校	4名		11	宮城教育大学附属養護学校	4名		16	同志社国際高等学校	24名
	27	九州産業高等学校	141名		25	神奈川県立藤沢高等学校	32名				

## (大学・専門学校)

343名

月	日	学校名	月	日	学校名	月	日	学校名			
5	11	名古屋市医師会看護専門学校	96名	7	19	多摩美術大学	35名	9	11	沖縄県立芸術大学	13名
	31	琉球大学	31名	8	30	早大芸術学校	19名		28	玉川大学	49名
6	22	沖縄県立芸術大学	7名	9	2	追手門学院大学	24名	2	19	京都橘女子大学	17名
7	11	沖縄国際大学	32名		4	京都精華大学	20名				

## (特殊学校・その他)

533名

月	日	学校名	月	日	学校名	月	日	学校名			
7	11	浜川幼稚園教児園	18名	8	14	津嘉山児童クラブ	61名	9	27	第2エミール保育園	18名
	18	慈愛幼稚園	12名		22	こざくら学童	25名	11	24	ドリーム幼稚園	16名
	24	港川学童クラブ	60名		23	津山幼稚園	60名		29	沖縄女子短期大学附属報恩幼稚園	21名
	25	ひの社会教育センター	20名		24	志迎館	56名	1	10	こばと幼稚園	29名
8	5	野洲町少年少女の船	29名		28	青空学童クラブ	32名	3	14	秋津保育園	16名
	7	キリスト栄光学院栄光幼稚園	42名		28	はえぱる学童クラブ	18名	3			



小学生の博物館学習

### III 調査研究等の活動

#### 1 調査研究の概要

博物館の機能は、調査研究活動、資料収集・保管、資料の展示、教育普及活動という四つの大きな柱によって構成されている。これらは互いに相補性をもって存在するものであるが、調査研究活動は、その中でもっとも基礎となるものである。

当館における調査研究活動は、統一テーマを設定して全学芸員が一地域を対象として取り組む共同研究と、個々の学芸員が各自の専門分野について調査研究を進める個別研究がある。

共同研究としては、各離島における自然・歴史・民俗・考古・美術工芸・建築の各分野の基礎資料の掘り起こしと、収集を目的とした総合調査を実施しており、これまでに久米島（平成5年度・6年度に実施）を皮切りに、波照間島（平成8年度・9年度）、西表島（平成10年度～12年度）と実施し、それぞれ調査報告書を刊行している。平成13年度からは小浜島について調査を実施しており、平成15年度まで継続調査する予定である。

学芸員の個別研究は、それぞれの専門分野別に自主的なテーマ設定のもと進めている研究や、外部からの依頼を受けて実施している調査研究など、多様なあり方で研究が行われている。それぞれの研究成果については、平成13年度に刊行した『沖縄県立博物館紀要』第28号をはじめとして、各学芸員が所属している学会の会誌や研究機関誌等で発表されている。また、各機関から委嘱、依頼を受けた委員会や講演会等でも、それぞれ関連する調査に基づいた発表がなされている。

以下、平成13年度に当館及び学芸員が実施した調査・研究活動の状況を報告する。

#### 小浜島総合調査（担当：与那城義春）

##### 1. 博物館総合調査事業の趣旨

沖縄県は多数の島々から成立しており、島毎に豊かな自然や歴史があり、各島内に特徴のある伝統的な文化、独特な社会が育まれている。

これまでに県内の離島調査は野生生物相の調査、遺跡の分布調査、民俗・集落関係及び独特的伝統行事について報告されている。しかし、島々の自然や文化・社会等に関する基礎的な資料は未だ不十分であると思えるような状況である。

近年、本県内でも特に沖縄本島の各種開発事業が活発化しており、その影響は地形及び環境等も激変の様相を呈しているようである。更に地域住民の生活や伝統行事の形態などの文化的側面までも改変されてしまいそうな状況が継続しているのである。同様な開発事業が県内の各離島で実施されるならば、島々の自然や文化・社会等に関する貴重な資料も含めて殆ど消失するものと思われる。

沖縄県立博物館の総合調査は県内離島の自然、文化・社会に関して各方面から調査・研究することにより、その成果をまとめて報告するほか、当館の展示等に活用して島々の実態を多くの県民に正しく理解させると共に保護・保存等の促進や各地域の発展を目指している。その上、各離島の自然、文化・社会に関する理解を深めながら、島々における独自性の維持・継承の促進を目的としている。

調査期間は離島毎に通常2年間で終了しているが、島の規模や調査内容等に応じて3年間継続して調査することもある。小浜島総合調査は、平成13年度から15年度までの3年計画で実施する。

今年は初年度であり、当館の学芸課長、教育普及課長及び学芸員を含めて総勢15人前後の体制で実施した。

## 2. 小浜島総合調査の選定理由

小浜島は八重山郡竹富町に所属し、石垣島のほぼ西部に位置している小島である。島の面積は約8.14km<sup>2</sup>であり、石垣港から約17kmの海洋上に存在している。

八重山郡の島々は貴重な自然や独自性の文化・社会を保有している地域として知られているが、島毎の実態は未だ十分に把握されてないようである。特に小浜島の自然、文化・社会等に関する基礎的な資料は少ないようと思われる。目下、県内各地で活発化している各種開発事業は楽観できない状況であり、当館総合調査の必要性と緊急性を痛感させられている。従って、今回的小浜島総合調査は同島内各地域に現存する貴重な資料収集等を主目的に選定されたのである。

## 3. 総合調査組織

本調査組織は、沖縄県立博物館の学芸課長(自然担当)と教育普及課長(歴史担当)及び学芸員(自然、考古、歴史、民俗、美術工芸の各分野担当者)によって構成されている。

## 4. 調査方法

本調査は、自然、考古、歴史、民俗、美術工芸の五分野によって実施される事に成っており、当然の事として各分野の調査対象や調査場所等は異なっているのである。従って、現地調査は各分野別に具体的な調査方法等を事前に各担当者で検討し、各々のスケジュールを調整した上で実施する。

総合調査終了後は全分野の報告会を設定し、各調査員による調査成果の検討会を開催する予定である。

なお、総合調査期間中の調査協力依頼文書等は現地の教育委員会や文化協会等に博物館総合調査の事務担当者で必要に応じて事前に送付する。

## 5. 調査員

平成13年度の調査員は当博物館の職員で構成されており、下記の通りである。考古分野の調査員は館内に不在のため実施していないが、総合調査の進捗状態を考慮し、館外の専門家に調査を依頼するように配慮する。

自 然 ・ 調査員： 千木良 芳 範(主幹兼学芸課長)  
宮 城 勉 (指導主事)  
嵩 原 建 二(指導主事)  
玉 城 善 哲(指導主事)  
与那城 義 春(指導主事)

考 古 ・ 調査員： 不 在

歴 史 ・ 調査員： 前 田 真 之(教育普及課長)  
園 原 謙 (主任)

民 俗 ・ 調査員： 桃 原 茂 夫(主任指導主事)

美術工芸 ・ 調査員： 與那嶺 一 子(主任学芸員)  
津波古 聰 (指導主事)  
瑞慶山 昇 (指導主事)  
赤 嶺 新 子(学芸員(臨任))

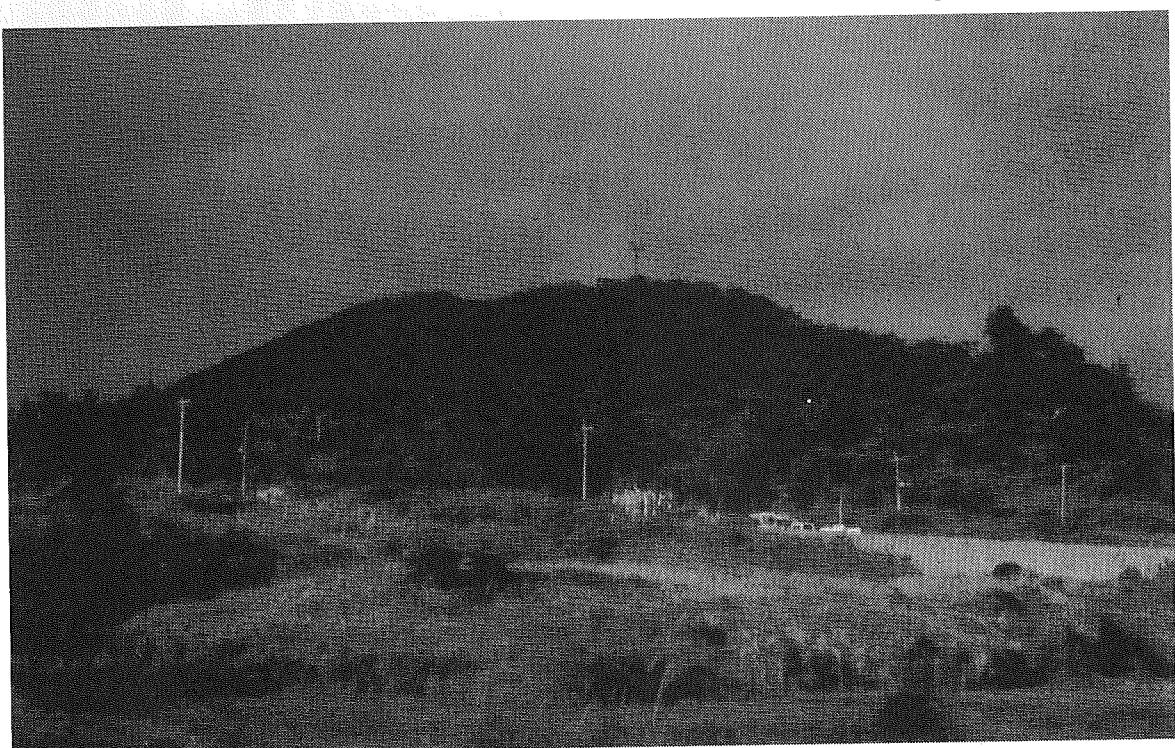
## 6. 調査の成果

- (1) 総合調査の成果は 2003(平成 15)年度末に報告書を刊行する。
- (2) 2005(平成 17)年度には小浜島総合調査の成果に基づいた特別展を開催する予定である(但し、2004 年度は特別展の準備期間)。

\* 小浜島総合調査(1年目)の調査実績はつぎのとおりである。

初年度(2001 年 4 月～2002 年 3 月)のスケジュール

調査員氏名	分野	調査実施期間
千木良芳範	自然	平成 14 年 2 月 6 日(水)～8 日(金)
宮城 勉	〃	〃 2 月 13 日(水)～15 日(金)
嵩原 建二	〃	〃 2 月 25 日(月)～27 日(水)
前田 真之	歴 史	〃 1 月 23 日(水)～25 日(金)
園原 謙	〃	〃 2 月 13 日(水)～15 日(金)
桃原 茂夫	民 俗	〃 1 月 29 日(火)～31 日(木) 〃 3 月 26 日(火)～27 日(水)
玉城 善哲	〃	〃 1 月 29 日(火)～31 日(木)
與那嶺一子	美術工芸	〃 1 月 15 日(火)～17 日(木)
瑞慶山 昇	〃	〃 2 月 25 日(月)～27 日(水)
赤嶺 新子	〃	〃 1 月 15 日(火)～17 日(木)



小浜島の中央部にそびえる大岳

## 2調査研究

千木良 芳範（学芸課長）

○名護市動植物総合調査

期間：平成 13 年 4 月～平成 14 年 3 月

調査地：名護市

依頼機関：名護市教育委員会

○沖縄市史編集委員

期間：平成 14 年 3 月～平成 14 年 3 月

調査地：沖縄市

依頼機関：沖縄市

○本部町カルスト地形保存検討委員会

期間：平成 13 年 12 月～平成 14 年 3 月

調査地：本部町

依頼機関：本部町

與那嶺一子（主任学芸員）

○尚家関係総合調査事業：東京資料調査

期間：平成 13 年 6 月 13 日～14 日

調査地：東京都

依頼機関：那覇市

○サントリー美術館所蔵沖縄関係資料の調査

期間：平成 13 年 9 月 8 日～9 日、

9 月 27 日～30 日

調査地：サントリー美術館（東京）

依頼機関：サントリー美術館

○美術工芸に関わる資料調査

期間：平成 14 年 2 月 8 日～10 日

調査地：日本民藝館・東京国立近代美術館工芸館

○文化財の保存技術調査「琉球藍」

期間：平成 14 年 3 月 18 日～19 日

調査地：本部町伊豆味

依頼機関：文化庁文化財部伝統文化課

園原 謙（主任）

○宮古上布苧麻（ブー）保存伝承事業検討委員会

期間：平成 14 年 2 月 12 日～3 月 31 日

調査地：宮古

依頼機関：平良市

○知花花織保存伝承事業検討委員会

期間：平成 14 年 2 月 12 日～3 月 31 日

調査地：沖縄市

依頼機関：沖縄市

桃原茂夫（主任指導主事）

○沖縄の綱引き習俗調査

期間：平成 13 年 7 月 6 日～14 年 3 月

31 日

調査地：与那国町祖納、糸満市潮平、  
座波、与座、山城、南風原町  
喜屋武、大里村西原、稻嶺、  
大城、東風平町東風平、伊平  
屋村我喜屋等

依頼機関：沖縄県教育委員会（文化  
課）

○ハーリー調査

期間：平成 13 年 6 月 22 日～24 日

調査地：久米島、糸満市糸満、喜屋武

嵩原建二（指導主事）

○名護市動植物総合調査

期間：平成 13 年 4 月 12 日～14 年 3  
月 31 日

調査地：名護市一円

依頼機関：名護市教育委員会

○名護市文化財保護調査委員

期間：平成 13 年 4 月 1 日～14 年 3 月  
31 日

調査地：名護市一円

依頼機関：名護市教育委員会

○亜熱帯林における希少野生生物とその  
生息環境維持機構に関する調査研究  
(環境庁委託)

期間：平成 13 年 9 月 2 日～14 年 3 月  
31 日

場所：沖縄島北部国頭村

依頼機関：(財)自然環境研究センター

○ノグチゲラ保護増殖事業調査研究ワー  
キンググループ委員

期間：平成 13 年 12 月 6 日～14 年 3 月  
31 日

場所：沖縄島北部

依頼機関：環境庁沖縄地区国立公園管  
理事務所

○ノグチゲラ調査検討専門部会委員

期間：平成 13 年 8 月 2 日～14 年 3 月  
31 日

依頼機関：（財）沖縄建設弘済会（北部ダム事務所委託）

宮城 勉（指導主事）

○名護市動植物総合調査

期間：平成 13 年 6 月～14 年 3 月 31  
日

調査地：名護市一円

依頼機関：名護市教育委員会

### 3 講演等

千木良 芳範（学芸課長）

○平成 13 年度沖縄市公民館市民大学講座

期日：平成 13 年 7 月 1 日

場所：沖縄市民会館、国頭村

依頼機関：沖縄市教育委員会

○第 3 回世界のウチナーンチュ大会ジュニアスタディーツアーガイド

期日：平成 13 年 7 月 27 日

場所：国頭村

依頼機関：第 3 回ウチナーンチュ大会実行委員会事務局

○平成 13 年度九州地区養護学校教頭会研修協議会特別講演

期日：平成 13 年 8 月 23 日

場所：八汐荘（那覇市）

依頼機関：九州地区知的障害養護学校教頭会

○第 41 回沖縄県児童生徒科学作品展審査

期日：平成 13 年 10 月 12 日

場所：名護市民体育館

依頼機関：沖縄県理科教育会

與那嶺一子（主任学芸員）

○「沖縄の染一紅型の話一」

期日：平成 14 年 2 月 23 日（土）

場所：サントリービル 4 階

依頼機関：サントリー美術館

園原 謙（主任）

○宮古上布の歴史について

期日：平成 13 年 9 月 18 日

場所：宮古支庁会議室

依頼機関：平良市

○沖縄の移民

期日：平成 13 年 11 月 5 日

場所：那覇国際高等学校

依頼機関：那覇国際高等学校

桃原茂夫（主任指導主事）

○史跡巡り（識名園とセーフア御嶽）

期日：平成 13 年 11 月 10 日

依頼機関：向陽高等学校 P T A

○「史跡探訪」（アガリ御廻りの史跡と世界遺産）

期日：平成 13 年 11 月 16 日

依頼機関：浦添市てだこ学園大学院

与那城 義春（指導主事）

○「漫湖の自然と鳥－湿地の意義とラムサール条約－」

期日：平成 13 年 6 月 8 日

場所：県立小禄高校体育館

依頼機関：沖縄県立小禄高等学校

○第 24 回沖縄青少年科学作品展（審査員）

期日：平成 14 年 1 月 24 日

場所：（株）沖縄電力社

依頼機関：沖縄県教育委員会

○楽しい自然教室（野鳥観察）

期日：平成 14 年 2 月 23 日

場所：沖縄市比屋根湿地

依頼機関：沖縄県立教育センター

嵩原建二（指導主事）

○環境モデル校野鳥講演会

期日：平成 13 年 5 月 11 日

場所：金武町立中川小学校

依頼機関：沖縄県自然保護課

○南大東村移動博物館に伴う自然観察会

期日：平成 13 年 11 月 25 日

場所：南大東村

依頼機関：南大東村教育委員会

○環境モデル校発表大会（指導助言）

期日：平成 14 年 1 月 24 日

場所：沖縄県庁講堂

依頼機関：沖縄県自然保護課

○環境教育に関わる野鳥観察会講師

期日：平成 14 年 2 月 6 日

場所：漫湖干潟・与根干潟

依頼機関：豊見城村立とよみ小学校

- 環境教育に関わる野鳥観察会講師
  - 期日：平成 14 年 2 月 13 日
  - 場所：漫湖干潟・与根干潟
  - 依頼機関：豊見城村立とよみ小学校
- 北大東村民俗資料館展示指導
  - 期日：平成 14 年 3 月 25 日～27 日
  - 場所：北大東村
  - 依頼機関：北大東村教育委員会

**宮 城 勉**（指導主事）

- 沖縄県高等学校文化連盟理事
  - 期間：平成 13 年 4 月 1 日～5 月 14 日
  - 依頼機関：沖縄県高等学校文化連盟
- 新入生宿泊学習会「沖縄で見える星空」
  - 期間：平成 13 年 5 月 1 日
  - 場所：名護青年の家
  - 依頼機関：具志川高等学校
- 九州高等学校理科教育研究会沖縄大会運営委員
  - 期間：平成 13 年 4 月 1 日～10 月 26 日
  - 依頼機関：沖縄県高等学校理科教育研究協議会

#### 4 著作論文等

**與那嶺一子**（主任学芸員）

- 「沖縄の織と染」（共著）『沖縄の染と幻の花織－南の国の色とデザイン』サントリー美術館 2002 年 2 月

**園原 謙**（主任）

- 「沖縄県教育會附設郷土博物館について」『沖縄県立博物館紀要第 28 号』沖縄県立博物館 2002 年 3 月

**桃原茂夫**（主任指導主事）

- 「沖縄民具 今むかし」（連載 2001 年 10 月～2002 年 3 月）週刊ほーむぷらざ 第 757 号：クバガサ、第 761 号：バーキ、第 766 号：ウーキ（桶）、第 770 号：マックワ（枕）、第 774 号：ホーチ（筈）、第 778 号：ナービ（鍋）

**嵩原建二**（指導主事）

- 「伊江島の植物」（共著）伊江村教育委員会 2002 年 3 月
- 「沖縄の外来昆虫」（共著）『沖縄県立博物館紀要第 28 号』沖縄県立博物館 2002 年 3 月
- 「沖縄島で留鳥として生息する希少な 3 亜種の繁殖記録について」『沖縄県立博物館紀要第 28 号』沖縄県立博物館 2002 年 3 月
- 「大東諸島の鳥類の保全」『沖縄大学地域研究所報第 25 号』2002 年 2 月

- 理科野外実習「沖縄の地質」

期日：平成 13 年 9 月 14 日

依頼機関：那霸国際高等学校

- 沖縄県青少年科学作品展審査

期日：平成 14 年 1 月 14 日

場所：沖縄電力本社講堂

依頼機関：沖縄県教育委員会、沖縄電力

**前田真之**（教育普及課長）

- 博物館とボランティア活動

期日：平成 13 年 6 月 22 日

依頼機関：名護博物館

- 体験学習におけるボランティアの支援

期日：平成 13 年 12 月 10 日

依頼機関：全国博物館ボランティア研究協議会

- 博物館におけるボランティアの役割とボランティアガイドの実践

期日：平成 14 年 3 月 23 日

依頼機関：那霸市壺屋焼物博物館

## 5 職員研修

博物館の学芸員は、「博物館資料の収集、保管、展示、及び調査研究その他これと関連する事業についての専門的事項をつかさどる」(博物館法 第4条4)こととなっていて、学問の専門性が要求されている。そのため学芸員一人ひとりがこれらに必要な最先端の知識と技術を習得し、生涯学習時代における新しい博物館の展望を持つことが求められている。この目的を達成するために職員は適宜研修を受けている。

平成13年度は、文部科学省が主催する「親しむ博物館シンポジウム」や「シンポジウム今後の博物館の評価のあり方」や日本ミュージアム・マネージメント学会主催「総合的な学習の時間が始まる」などの新しい博物館のあり方、方向性等について検討することを目的とした研究活動に参加した。

### (1) 親しむ博物館シンポジウム (玉城善哲)

「地域で子どもを育てよう緊急3ヶ年プラン<全国子どもプラン>」の一環として平成11年度からスタートした「親しむ博物館づくり事業」の締めくくりの発表会に参加した。東京国立博物館平成館で平成14年3月19日(火)だけのシンポジウムでしたが、参加体験型の展示や子どもたちが自ら見て、触れて、試して、考える「ハンズオン」手法を活用した活動の事例発表があり、今後の当館の事業実施に役立てることができそうである。博物館活動における「ハンズオン」とは、ただ単に展示物や標本資料を見るだけでなく、五感(触覚、味覚、嗅覚、聴覚、視覚)を使って、触ったり、遊んだり、試したり、操作したりすることによって、人の心の動きを誘発するような活動のことである。

### (2) 日本ミュージアム・マネージメント学会主催「総合的な学習の時間が始まる」

(前田真之・瑞慶山 昇)

平成14年2月10日(日)に学術総合センターで行われたセミナーでは、①特別講演：イザベル・バルザモ(フランス文化省職員)「フランスにおける学校教育と博物館の関係」、②基調報告：無藤隆「生涯学習時代における学校教育と博物館」、③シンポジウム「総合的な学習の時間が始まる」が行われた。特別講演では、フランスの博物館法の改正によりすべての人に博物館を利用していく方向が確認され、教育普及の部署を設けることが義務づけられた。また総合的な学習については、児童生徒の受け入れでトラブルが増え、施設利用のガイドラインづくりの必要性が指摘された。



## IV 展示活動

### 1 展示活動の概要

博物館の機能は、調査研究活動、資料の収集・保管、資料の展示、教育普及活動という4つの大きな柱によって構成されている。本館の展示活動は主として学芸課がその任にあたり、常設展を基本に特別展を年に1回から2回、企画展を1回から2回実施している。また教育普及課が主体となって、移動博物館を離島地域を対象に実施している。

特別展と企画展の実施にあたっては、専用の企画展示室が狭隘であるため、展示規模に合わせて第1室（考古・歴史展示室）や第3室（美術工芸展示室）を利用してい る。そのため、特別展開催期間中は、「沖縄の自然・歴史・文化」をテーマとした常設展が観覧できないことが、当館の大きな課題となっている。

平成13年度は、「沖縄の自然・歴史・文化」をメインテーマとした常設展示を中心に、特別展として「平成13年度国立博物館・美術館巡回展 かざりとかたち展」、企画展として「平成12年度新収蔵品展」を開催した。

以下、平成13年度の展示活動について紹介する。

### 2 常設展

環太平洋の西側を縁取り、亜熱帯気候のもとにある沖縄県は、東西南北の文化が交差する特色ある地域として、我が国の中でも個性豊かな文化を造りあげてきた。その歴史は、琉球王国を誕生させ、日本や中国を中心とするアジア諸国と盛んに交易を行って、海洋国家として興隆したという独特の経緯を有している。

本館は、沖縄県の特色ある歴史と文化に関する資料を収集して、整理・保管しながら調査・研究を行い、その成果を展示する総合博物館である。展示室は、1階の第1室と第2室、2階の企画展示室と第3室、さらに中3階の第4室がある。常設展示は「沖縄の自然・歴史・文化」をメインテーマにして、展示室を一巡することで沖縄の素顔がよく理解できるように工夫されている。

まず館のロビーに入ると、首里城正殿の模型を中心に、戦災でその一部しか残らなかつた首里城正殿前の大龍柱の頭、守礼門の模型、「徳高」や「徳馨」などの扁額によって琉球王国のイメージを象徴的に展示してある。それから導線は第1室へとつながる。第1室は考古・歴史展示室で、琉球列島の形成から日本復帰まで、沖縄の歴史と文化について、小テーマごとに短い時間でも理解できるよう展示してある。例えば、港川人に代表される沖縄の初期人類、九州縄文文化の南下や独自の展開を見せる先史時代の文化、そして沖縄諸島とは起源を異なる宮古・八重山先史時代の姿など。また12世紀から13世紀になると、按司と称する在地の小領主が出現しグスク時代が始まる。各グスクから出土した遺物が展示されている。

次のコーナーでは、琉球王国が誕生する様相が紹介されている。15世紀前半には沖縄本島中部を拠点として琉球王国が誕生する。琉球は「大交易時代」の国際交流によって国家興隆期を迎えるが、17世紀の初頭には島津氏の進行をうけその支配下にはい

り、やがて幕藩体制下に組み込まれていく。続いて幕末の開国の動き、琉球処分、明治・大正・昭和を経て、沖縄戦から戦後の米軍統治時代にいたるまでのユニークな沖縄歴史の様相が展開されている。

第2室の自然史展示室は、沖縄の島々が約2億年以上の時間をかけて出来上がったことを教えてくれる。アンモナイトやハロビア、あるいはリュウキュウジカやリュウキュウムカシキヨンなどの化石から始まって、亜熱帯地域に広がる沖縄の自然についてテーマごとに展示してある。入り口から入って、左周りに見て回ると、海岸の生きもの、珊瑚礁の生きもの、河口の生きもの、マングローブの生きもの、湿地や沼の生きもの、山地森林にすむ生きもの、源流の生きものをテーマにしたジオラマが続いている。また、沖縄のハブについても展示紹介してある。特に大自然の宝庫といわれる沖縄本島北部（ヤンバル）と西表島に生息する国・県指定の天然記念物については、中央部に特設コーナーを設けて展示している。

第2室を出ると2階に至るスロープがあり、スロープの側壁には戦前から戦後にかけて撮影された貴重な沖縄の風景写真パネルが展示されており、写真を見ながら企画展示室に導かれる。

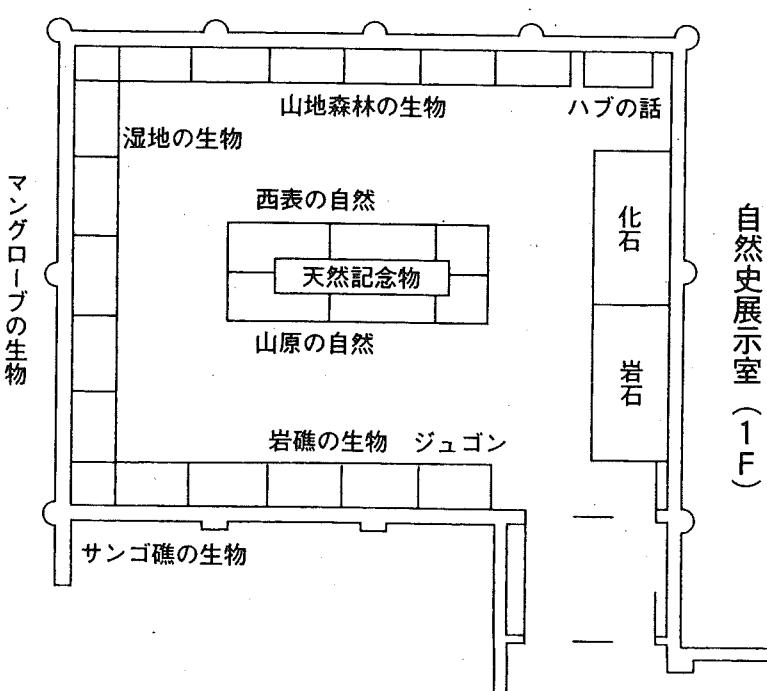
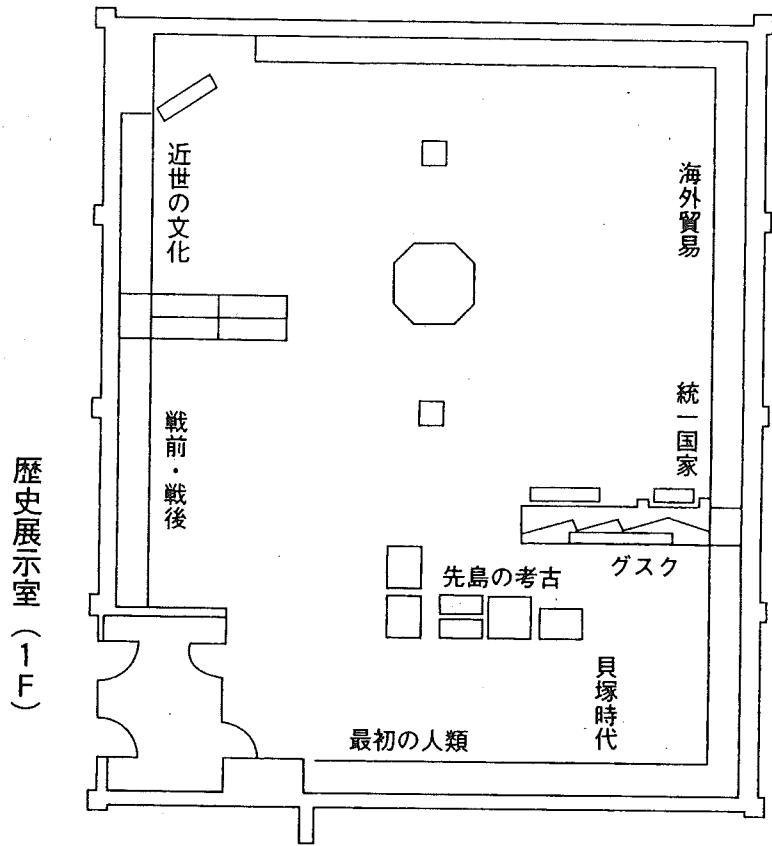
企画展示室には、特別展や企画展の開催がない期間は、「大嶺コレクション」が展示されているが、その一角を利用して各学芸員の専門性をいかしたミニコーナを設けている。

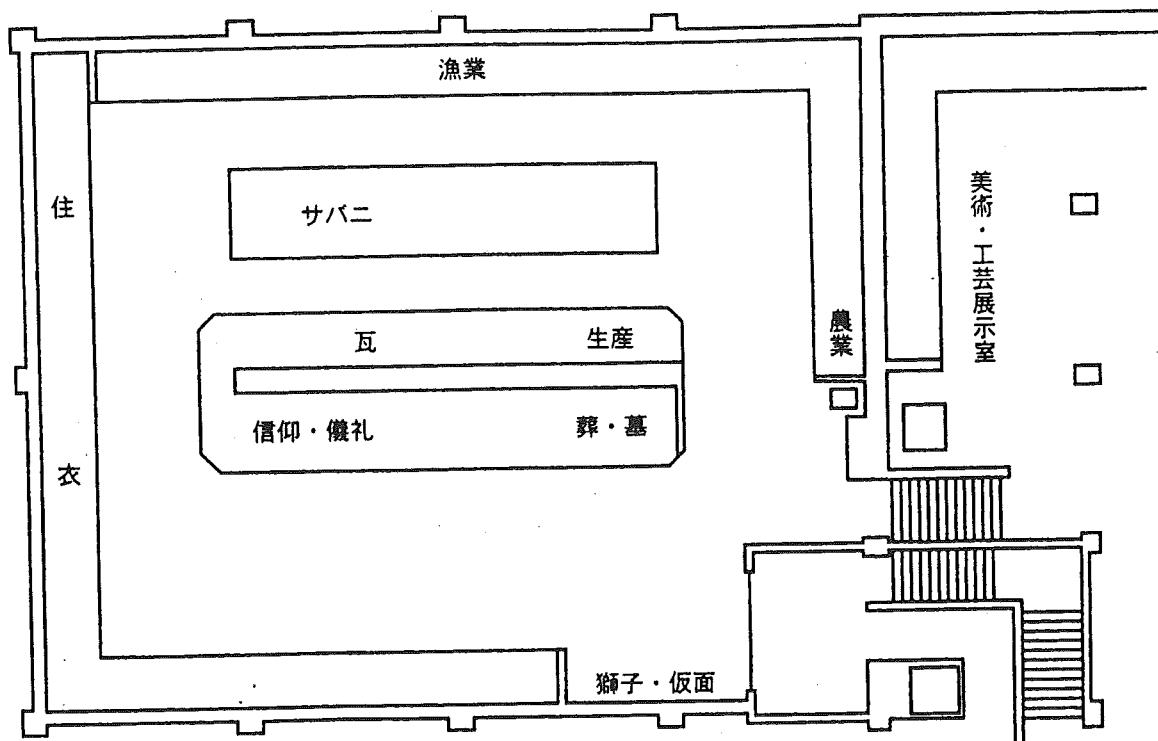
第3室の美術工芸展示室には、日本や中国をはじめとする東南アジア諸国との交流を背景にして生まれた書跡、染織、漆器などが展示されている。中国との関係をうかがわせる絵画や書跡、独特な技術や意匠を表現した染織、螺鈿・沈金・堆錦等の高度な技法をみせる琉球漆器、そして壺屋を中心として発展してきた琉球陶器など、亜熱帯の風土と海外文化交流で生み出された美術工芸品は、沖縄の個性的な芸術世界を表現している。

第4室は民俗展示室で、琉球列島の民俗資料を、農業、漁業、衣食住、芸能などのテーマで整理・分類して展示してある。庶民の生活用具である民具を通して、昔の人々が工夫して築いてきた沖縄の生活文化の特色を知ることができる。とりわけ、他府県では見られない沖縄独特の生活習俗や信仰・墓制などの展示は、この展示室の特徴の一つになっている。

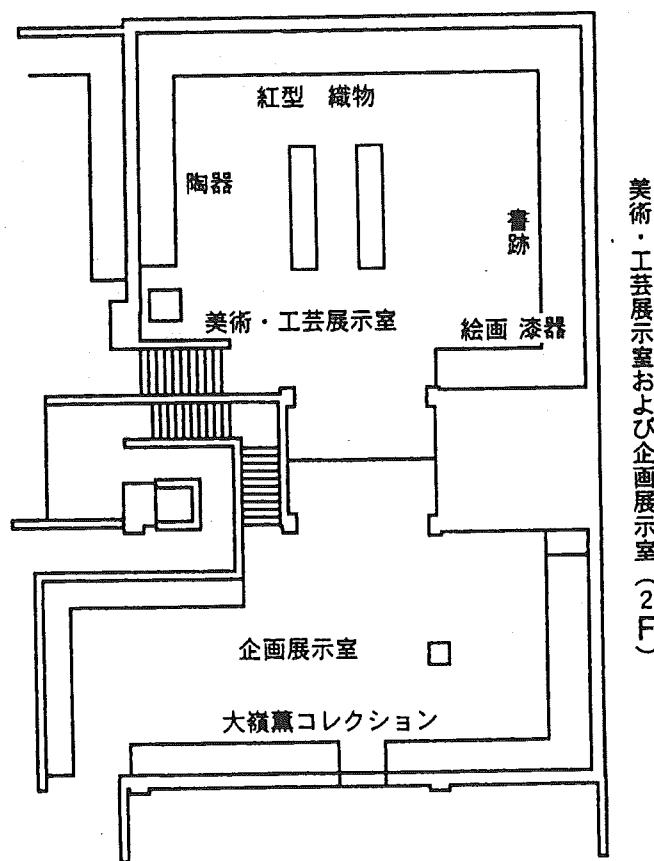
当館の敷地は、もともと琉球国王世子の屋敷跡であり中城御殿と呼ばれていたところである。相方積みという琉球石灰岩の独特な工法で築かれた石牆は、前面の龍潭や首里城の景観と調和して古都のたたずまいをしのばせる歴史的景観を呈している。また野外展示にもなっている前庭には、旧円覚寺鐘楼（重要文化財）や沖永良部から移築された高倉をはじめ、石灯籠や石敢當とともに石獅子、壺屋の窯で焼かれた獅子頭、岩石標本などが展示されている。

## 各展示室展示略図





民俗展示室（2F）



### 3 特別展

特別展 平成13年度国立博物館・美術館巡回展「かざりとかたち」展

(担当: 與那嶺一子、津波古聰)

会期: 平成13年11月13日(火)~平成13年12月9日(日)

会場: 沖縄県立博物館(第一展示室・企画展示室・第三展示室)

予算額: 9,492千円

#### 【趣旨】

本展覧会は、独立行政法人国立博物館・国立美術館が、所蔵品を全国各地で広く公開し、優れた美術品の鑑賞の機会を提供することを目的として、沖縄県立博物館及び鹿児島県立歴史資料センター黎明館と共同で主催するものである。

展示では、「かざりとかたち」をテーマに、かざりの美意識に迫り、また、それに併せた講演会を実施する。

さらに本展覧会では、開催地の地域性を照らしだすため「南海のかたち」というテーマを設け、鹿児島と沖縄に関わりの深い作品を展覧し、国立館と地域館の共同作業による展覧会をめざす。

#### 【開催形式】

主催: 沖縄県立博物館

独立行政法人国立博物館 京都国立博物館・東京国立博物館・奈良国立博物館

独立行政法人国立美術館 京都国立近代美術館・東京国立近代美術館

鹿児島県歴史資料センター黎明館

共催: 沖縄タイムス社

後援: NHK沖縄放送局、琉球放送、沖縄テレビ、琉球朝日放送、沖縄ケーブルネットワーク、ラジオ沖縄、FM沖縄

協力: 那覇市

#### 【展示内容】

展示作品は、わが国の弥生時代から昭和時代までのそれぞれ特色ある工芸・絵画などを紹介した。生活造形の中ではぐくまれた「装飾=かざり」、「造形=かたち」に目を向け、国宝3件、重要文化財14件、重要美術品2件、沖縄・鹿児島両県の指定有形文化財件を含む164件を三つのテーマに分け展示した。

かざりの美: かざりやかたちの楽しさ、美しさを「生活」「身体」「空間」「祈り」の場に分けて紹介する。

かざりとかたち: 「自然」「寓意」「抽象」「色彩」のテーマにさらに分けて、かざりとして描かれる意匠やそこに込められる意味などを展覧する。

南海のかたち: 国立館の里帰り品に開催館からの出品を加え、鹿児島と沖縄両県のかざりとかたちを考える。

### 【関連催事】

#### 文化講演会

①日時：平成 13 年 11 月 25 日（日）午後 2:00 ~ 4:00

演題：「古琉球の金属工芸制作をめぐって」

講師：久保智康（京都国立博物館工芸室長）

②日時：平成 13 年 12 月 1 日（土）午後 2:00 ~ 4:00

演題：「琉球使節のメッセージ扁額と装束ー」

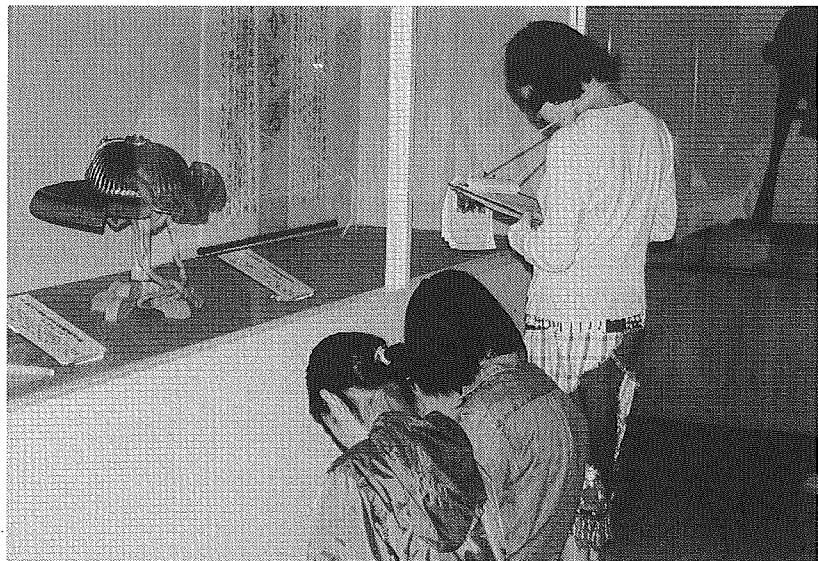
講師：原口泉（鹿児島大学教授）

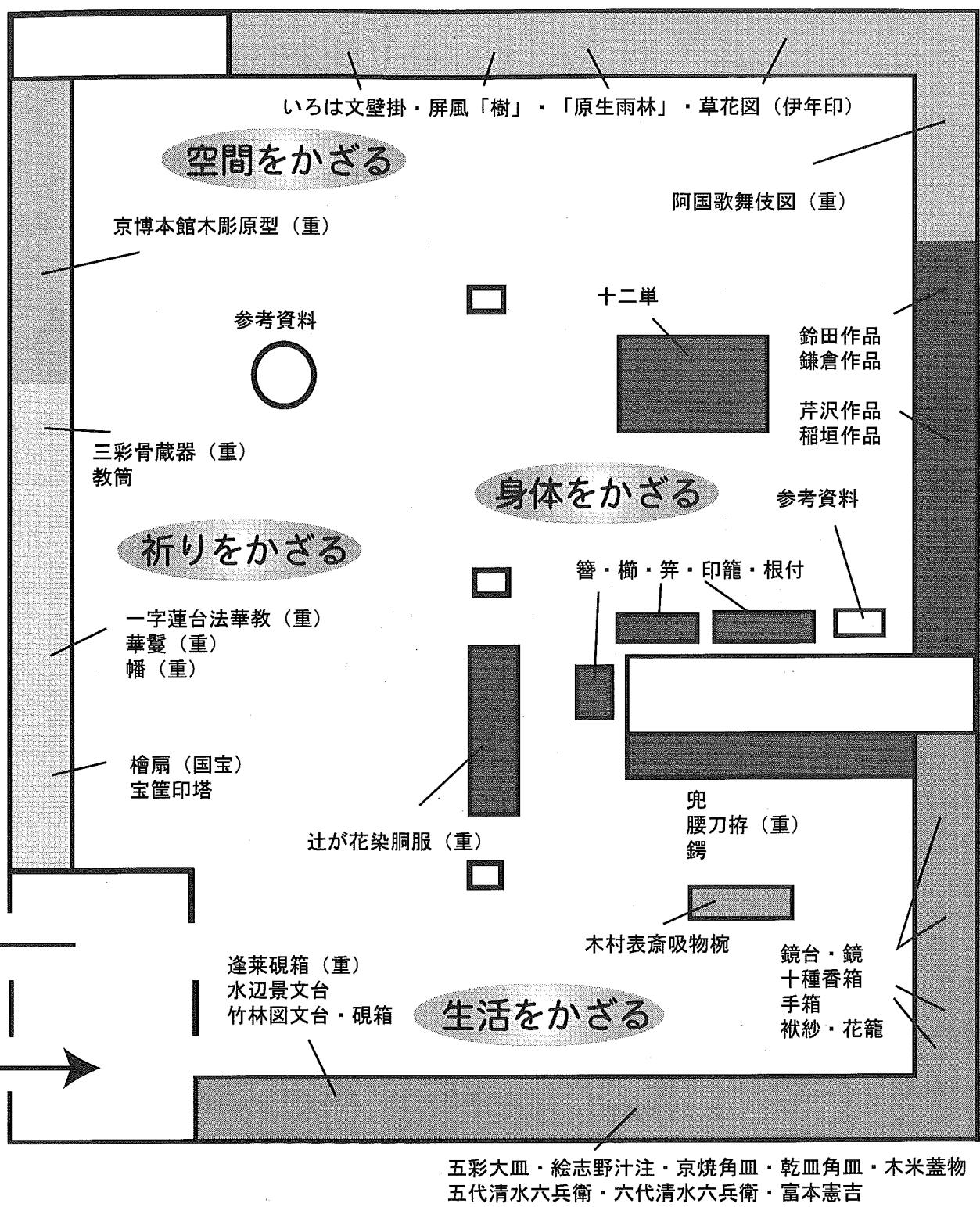
### 【入館料金】

使 用 者	入 館 料
一般	500 円
大学生及び高校生	200 円
中学生及び小学生	100 円
団体（20 人以上）	1 人につきそれぞれ上記入館料の 2 割引



熱心に展示に見入る小学生たち





## 平成13年度国立博物館・美術館巡回展「かざりとかたち」展示略図

1階会場（第一展示室）：かざりの美（72件89点）

生活をかざる：18件30点  
身体をかざる：41件43点  
空間をかざる：6件9点  
祈りをかざる：7件7点

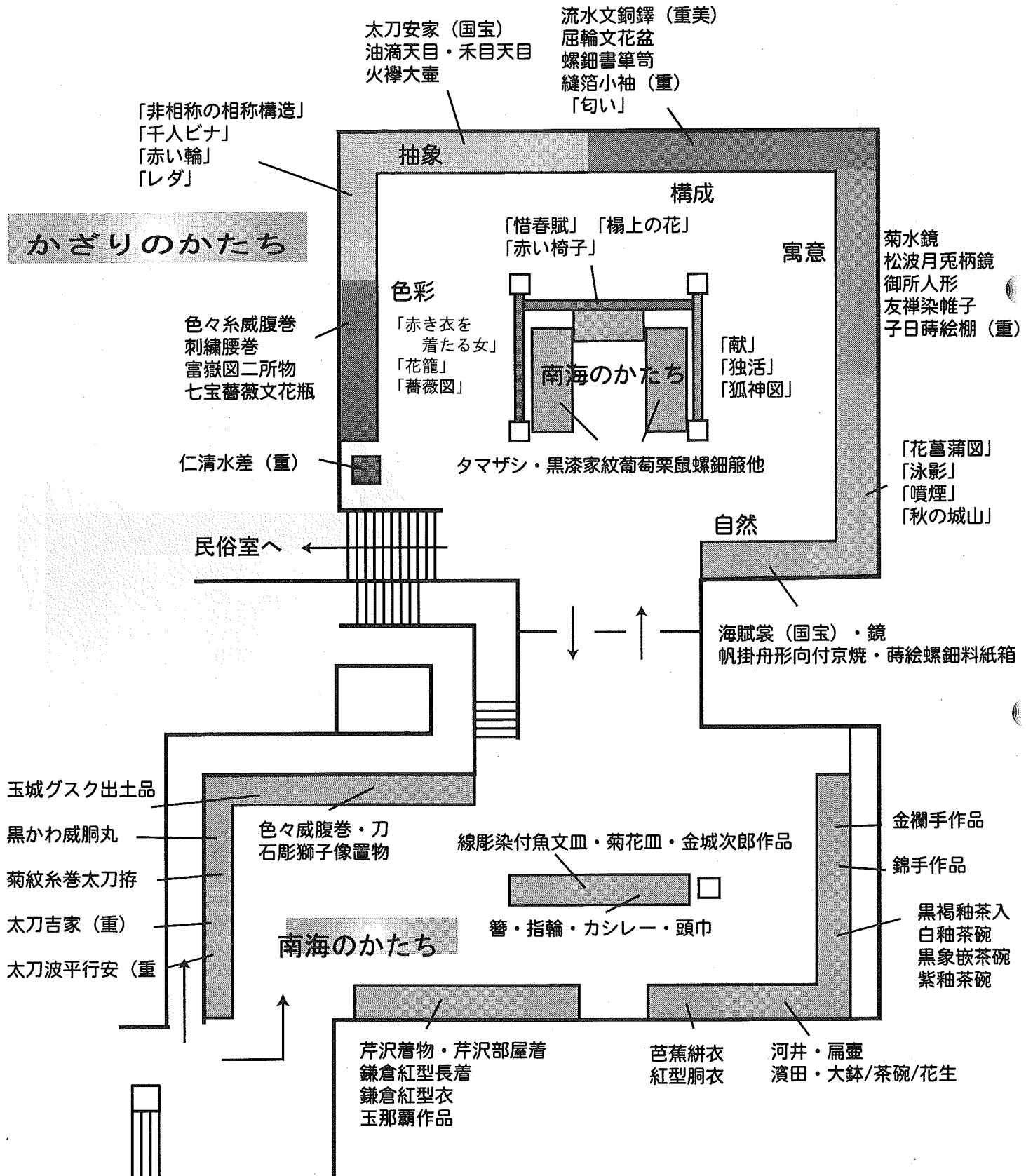
2階会場（企画展示室）：南海のかたち（52件62点）

（第三展示室）：かざりのかたち（40件45点）

自然：8件12点／寓意：8件8点

構成：8件8点／抽象：8件8点

色彩：8件9点



## 4 企画展

企画展 平成 12 年度「新収蔵品展」 (担当: 与那城義春、津波古 聰)

会期: 平成 13 年 6 月 5 日 (火) ~ 7 月 1 日 (日)

場所: 企画展示室

予算額: 704 千円

### [開催趣旨]

「新収蔵品展」は、前年度に寄贈、購入、収集、移管された資料を展示し、広く一般に公開するとともに、寄贈者への顕彰のため、感謝状を贈呈し、博物館活動の普及啓蒙を促進することを目的とする。

### [感謝状贈呈]

「平成 12 年度新収蔵展」開催の初日 (6 月 5 日) に寄贈者の代表に感謝状を贈呈した。また、すべての寄贈者に対し、感謝状を郵送した。

### [展示内容]

平成 12 年度の新収蔵品は、寄贈、収集、購入によって 3,363 点の資料が収蔵された。分野ごとに見ると、自然史では新城和治・立石庸一両先生が沖縄島やその周辺から採集した植物標本があった。歴史資料は、平山敏治郎氏から寄贈された戦前の沖縄の風景を撮した本山桂川作「琉球」や日本銀行より新二千円札 (札番号 2 番) などがある。

美術工芸では、西林昭一氏からの冊封使副使・徐葆光の書や大城廣四郎氏から絹紺地総絹着物があり、民俗資料は徳山政彦氏から厨子甕や宮城 久氏から井戸車など多くの寄贈があった。その他、平成 10 年に閉館となった海洋博覧会記念公園内にあった沖縄館の資料が 2,600 点あまり当館へ移管された。

展示は企画展示室で開催したが、新収蔵品をすべて展示公開することは、展示室の関係上、困難なため、各分野担当の学芸員が資料を抜粋し、70 点余を展示した。展示はできるだけ各分野、寄贈者ごとに分けておこなった。(「新収蔵品展展示略図」参照)

平成 12 年度のすべての新収蔵品及び寄贈者全員の氏名は、刊行した小冊子「平成 12 年度新収蔵品展」に掲載した。

### [展示目録]

#### 寄贈の部

自然: セグロアジサシ、ギンバト、ダイトウオオコウモリ、カンムリワシ、カツオドリ、ミヤマホオジロなど鳥類の剥製 12 点、ヤンバルマユミ、アバタマユミなど植物標本 15 点

歴史: 「琉球神道記」、琉球玩具図譜、本山桂川作「琉球」、2,000 円記念資料など 12 件

美術工芸: 徐葆光の書「七言絶句」、絹紺地総絹着物、絹紫地花模様絞染着物 (辻が花) など 5 点

民 俗：木綿紺地総絣、チートゥーヤー（釣瓶とり）、ピラ、井戸車、護符、山内  
盛彬『作曲編曲特集號』第1號、ニクブク、甕型厨子甕役、御殿型厨子甕  
など 18 点

[購入の部]

歴 史：袋中上人肖像画（レプリカ）

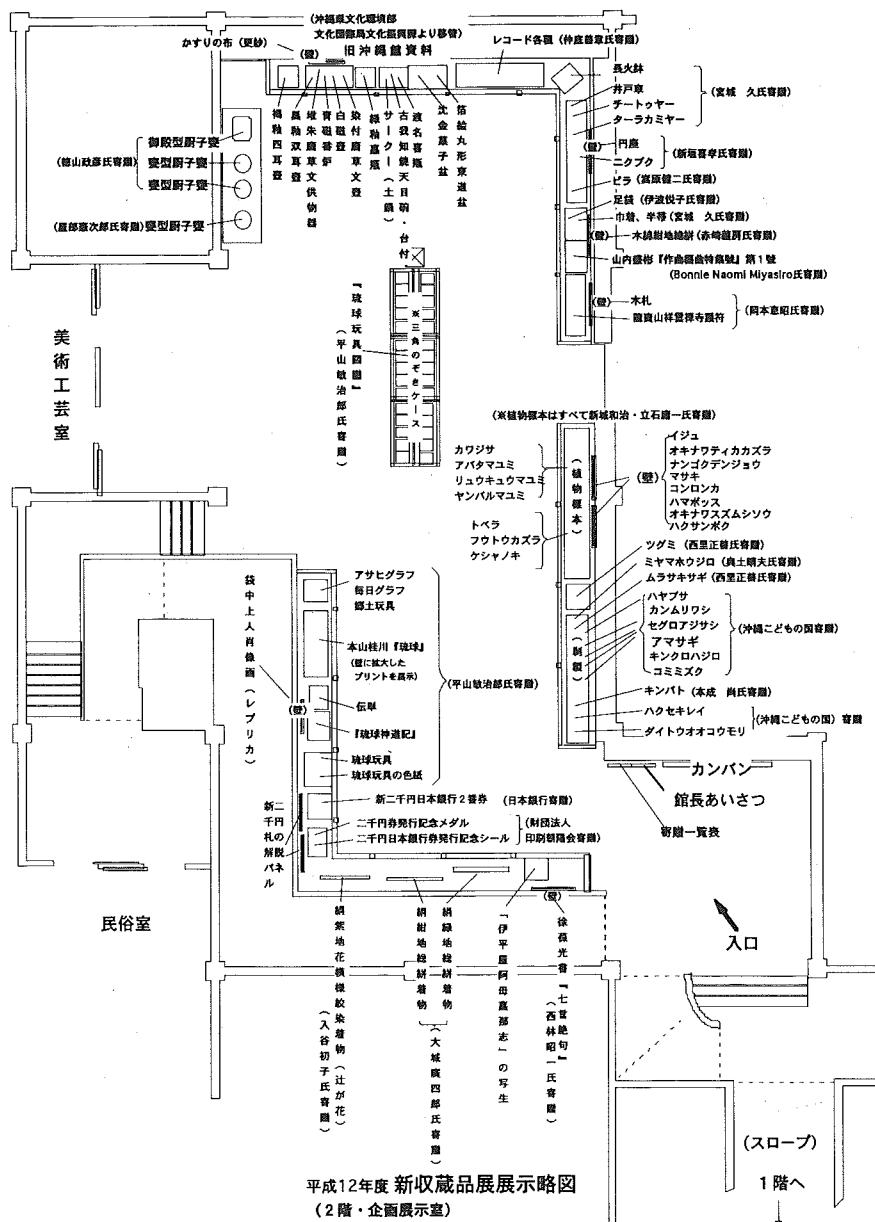
[移管の部]

陶磁器：天目碗（天目台付、古我知焼）、サークーなど 7 点

漆器・染織：堆朱唐草文供物器、かすりの布

[開会式]

平成 13 年 6 月 5 日（火）午前 10：00 に企画展示室入口において、寄贈者への感謝状及びテープカットを行い、企画展「平成 12 年度新収蔵品展」を開会した。



## 5 移動博物館

第 26 回移動博物館（担当：瑞慶山 昇）

会 期：2001（平成 13）年 11 月 24 日（土）～25 日（日）2 日間開催

開催地：南大東島

主 催：沖縄県立博物館、南大東村、南大東村教育委員会

参加者：528名

### 【趣 旨】

本県は琉球王国時代から独自の文化が創造され、多くの文化遺産が残されている。これらの受け継がれてきた文化は貴重な遺産であり、次代へ保存継承していかなければならない。沖縄県立博物館では、多くの県民が本県の文化を正しく認識できるよう、常設展「沖縄の自然・歴史・文化」の展示を行っておいる。また、当館にふだん足を運ぶことの出来ない離島や、遠隔地の方々にも移動博物館の展示を見てもらうことによって、文化の広域普及を図っている。第 26 回目は南大東村において開催した。

### 【内 容】

〈展示会〉〈ビデオ放映〉〈野外学習会〉を実施した。展示は「大むかしの生物」「沖縄の自然、歴史、くらし」の 2 つの大きなテーマから構成した。また展示会場内にビデオコーナーを 7ヶ所設け、沖縄の歴史文化や自然等に関するビデオを放映した。さらに南大東島の自然について学ぶ野外学習会を合わせて実施した。

### 【展 示 会】

会 場：南大東村地域スポーツセンター

会 期：2001 年 11 月 24 日（土）～25 日（日）2 日間・午前 9 時～午後 5 時

対 象：幼・小・中・高校生、一般

観覧料：無 料

### 【ビデオ放映】

大むかしの生物コーナー・・・・・・・・・・・・・・・・ 恐竜関連映像

沖縄の自然コーナー・・・・・・・・・・・・・・・・ 生物関連映像

〃 先史・古代文化コーナー・・・・・・・・・・・・ 港川人関連映像

〃 琉球王国の成立と海外貿易コーナー・・・・・・・・ 琉球王国関連映像

〃 近現代コーナー・・・・・・・・・・・・ 戦前から本土復帰までの映像

〃 くらしコーナー・・・・・・・・・・・・ 祭事関連映像

学習コーナー・・・・・・・・・・・・ 県立博物館常設展示紹介映像

### 【野外学習会】

日 時：2001 年 11 月 25 日（日）午前 9 時～12 時

講座名：「南大東島の自然」

対象：小中学生、一般

講師：嵩原 建二（沖縄県立博物館 指導主事）



野外学習会の模様

【展示品目録】

大むかしの生物

《骨格標本》

プロトケラトプス（複製）、プロバクトロサウルス（複製）、サウロロフス（複製）、タルボサウルスの頭骨（複製）

《化石標本》

恐竜の卵（複製）、コレニア、アンモナイト石版、サンヨウチュウ

《沖縄の化石》

リュウキュウジカ骨格標本、リュウキュウムカシキヨン骨格標本、リュウキュウジカ角、リュウキュウジカ頭骨、リュウキュウジカ上顎骨、リュウキュウジカ下顎骨、リュウキュウジカ上腕骨、リュウキュウジカの大腿骨、リュウキュウジカ頸骨、リュウキュウムカシキヨン角、リュウキュウヤマガメ、オオヤマリクガメ上腕骨、ミヤコノロジカ角

沖縄の自然、歴史、くらし

〔自然〕

《剥製標本》

アカショウビン、オオコノハズク、カラスバト、カルガモ、キンバト、ゴイサギ、ツバメチドリ、コノハズク、サシバ、サンコウチョウ、シロハラ、シロハラクイナ、ズアカアオバト、タグリ、トラツグミ、シジュウカラ、セッカ、ヤマシギ、ヤンバルクイナ、ヨタカ、リュウキュウヨシゴイ、チョウゲンボウ、タシギ、カワセミ、ダイシャクシギ、カワウ、セイタカシギ、ミヅゴイ、アマサギ、オオクイナ、セグロカモメ、キアシシギ、チュウシャクシギ、アカハラダカ、ムナグロ、アオサギ、ムラサキサギ、カンムリワシ、コミニズク、コハクチョウ、イリオモテヤマネコ、オリイオオコウモリ、ダイトウオオコウモリ、ケナガネズミ、ハブ、ヒメハブ、サキシマハブ、セマルハコガメ

### 《写真パネル》

オオコノハズク、コノハズク、オオクイナ、チョウゲンボウ、トビ、ムラサキサギ、サシバ、タマシギ、トラツグミ、セグロカモメ、ヤマシギ、ヨナクニサン、ケナガネズミ、ダイトウオオコウモリ、セマルハコガメ、コノハチョウ、ヤンバルテナガコガネ、アサヒナキマダラセセリ、イソヒヨドリ、カワセミ、カンムリワシ、クロサギ、コサギ、アカショウビン、ツバメチドリ、ヤンバルクイナ、シロハラ、シロハラクイナ、アオバズク、アオサギ、カラスバト、キンバト、ダイシャクシギ、タゲリ、ノグチゲラ、カイツブリ、コミニズク、ヒヨドリ、ミフウズラ、アカハラダカ、ムナグロ、メジロ、リュウキュウヨシゴイ、アマミヤマシギ、アマシギ、キョウジョシギ、キアシシギ、ナミエガエル、ホルストガエル、イリオモテヤマネコ、ケラマジカ、クメトカゲモドキ、リュウキュウヤマガメ、セマルハコガメ

### [先史・古代文化]

港川人想定復元全身像（複製）、港川人頭骨（複製）、爪形文土器（野国貝塚）、カヤウチバンタ式土器、くびれ平底土器、荻堂式土器、伊波式土器、尖底土器、カムイヤキの壺、弥生式土器、線刻画石板、炭化米、貝斧、石器（すり石、石斧）、石鏃、自然遺物（貝殻）イモガイ・ゴホウラ含、高麗瓦、滑石製石鍋、青磁碗（勝連城跡出土）青磁片（湧田古窯跡）、円盤状製品、大山式土器

### 《写真パネル》

発掘のようす（具志川市地荒原遺跡）、古代人の暮らし、渡具知東原遺跡（遠景）、具志川島遺跡群（遠景）、勝連城趾（近景）、今帰仁城城跡（航空写真）、港川フィッシュヤー遺跡（近景）、御物グスク（近景）、具志川グスクの鳥瞰図、イモガイの集積、ゴホウラの集積、貝輪装着人骨（具志川島遺跡群岩立地区）、改葬人骨出土状況（具志川島遺跡 群岩立地区）、装身具（貝・骨製品）、沖縄原始・古代史年表、貝の道、沖縄本島・周辺離島の主要遺跡分布図、石斧の使用予想図、大交易時代とグスク

### [琉球王国の成立と海外貿易]

#### 《拓本・パネル類》

明孝宗勅諭（写真パネル）、円覚禪寺記、国王頌徳碑

#### 《古錢類》

琉球通宝（円形）、琉球通宝（楕円形）、金円世宝・世高通宝・大世通宝、洪武通宝、嘉慶通宝、康熙通宝、紹熙通宝、永樂通宝、咸豐通宝、光緒通宝、大中通宝、淳熙通宝、天聖元宝、嘉泰通宝、開禮通宝、瑞平通宝、元豐通宝、嘉熙通宝、崇寧通宝、咸淳元宝、乾隆通宝、鳩目錢10（一括）、寛永通宝3束、リング1（18個連）、リング2（8個連）、リング3（8連）、リング4（小勾玉にビーズ付き）

#### 《印 章》

尚育王の印

#### 《金工品》

万国津梁の鐘（複製）、かんざし

### 《古文書・典籍類》

おもろさうし（複製本）<巻17・20>2冊、中山世鑑（複製本）<巻1・3>、琉球三省並三十六島図（朝鮮琉球全図）、沖縄志 <巻1・2>  
《写真パネル》

ランドサット沖縄諸島写真、那覇の市場（ペリー日本遠征記）、那覇郊外の風景（ペリー日本遠征記）、僧侶と士族（バジルホール航海記）、王統系図

### ○戦前の沖縄

初代尚円王御後絵、首里城正殿、円覚寺仏殿、首里那覇全景、松並木のある那覇市内景観（以上、鎌倉芳太郎撮影）、識名園、物を頭にのせ運ぶ女性、首里金城の風景、市場風景東の大市玉陵、サーダークルマ、竹製品を売る店、木臼つくり、壺屋風景、魚市（以上、坂本万七撮影）

### ○沖縄戦

十・十空襲後の那覇の通堂、嘉手納海岸に上陸した米軍、戦闘中の米軍・至近弾をうける、亀甲墓を攻撃する米軍、摩文仁の洞窟にひそむ日本兵に降伏をよびかける、嘉手納村のキャンプに収容された日本兵捕虜、戦い終わって山から下りる避難民

### ○戦後～現在

波之上宮、憔悴しきった老人、DDT散布、戦後のヤミ市、城前小学校での演芸会、第九回沖縄議会の状況一志喜屋知事、中学生と握手するブース高等弁務官、A サインバーの内部・沖縄市、収容所で発行したうるま新報、うるま新報、裁縫の授業（終戦直後）、B 52墜落事故、毒ガス輸送、アイゼンハワー大統領来沖（琉球政府ビル前）、主席当選を果たした屋良主席、教公二法、返還協定 調印式をテレビで見まもる屋良主席、通貨交換所風景、ハワイからの衣類

### 〔美術工芸〕

#### 《絵 画》

枯柳水禽之図

#### 《漆 器》

堆錦総貼雲龍文文庫、黒漆神仙花鳥八角食籠

#### 《書 痕》

玉川朝達筆「梅花」、中山副使向元模短冊「対句」、宜湾朝保短冊和歌「梅告春近」

#### 《彫 刻》

玉陵石獅子（一対）複製

#### 《陶 器》

緑釉抱瓶、海鼠釉からから（なまこ釉花弁型からから）、黒釉三巴紋入大嘉瓶（黒釉巴紋嘉瓶）、菊花赤絵対瓶（赤絵菊花文対瓶）、屋根獅子（頭獅子）、赤絵急須（赤絵山水文急須）、油甕（アンダガーミ）

#### 《染 織》

木綿紺地読谷山花織踊衣装、芭蕉布絹縞着物、木綿紺地絣ティサジ、木綿・斜格子扇菊梅橘文様衣裳、紅型型紙

## [くらし]

### 《ヘラと掘串とクワ》

ヒラ（奄美）、ヒラ（具志頭）、ヒラ（糸満）、へら、宮古ヘラ（平良）、ピラ（石垣）、マーピラ（波照間）、ヘラ（西原）、アサンザニ（今帰仁）、堀串（中城）、カノース（宮古）、ンプリヤ（宮古）、ヒラクワ、タマター、ミマター、開墾用クワ、キビ刈斧

### 《運搬・役畜用具》

テール〔イビラフ〕、バーキ、オーダー、アンツク、牛鞍、牛の口輪

### 《魚撈用具》

ウミフゾウ、ウミバク、ユートイ、エーク、ミーカガン、網、ウルワイチズカ、ウミディル、ワラジ

### 《クバを使用した生活用具》

クバの葉の箒（徳之島）、ガンシナ（粟国）、ヘーグルサー（久米島）、クバオージ、クバガサ（久米島）、クバ簍、ツト包み（与那国）、ウブル〔ビロウの釣瓶〕（与那国）、クンシキ〔瓶〕（与那国）

### 《竹と茅の民具》

ソーキ、ミーゾーキ（久米島）、ユナバーキ（久米島）、タマンバーキ、ススキの箒、ツツカサ（宮古）、ブーイリマグ（城辺）、ガーマキ（黒島）、ガイジ（波照間）、カマンタ、ウーバーラ、サギゾーキ、アンディラ

### 《沖縄の祭り・行事紹介》写真パネル

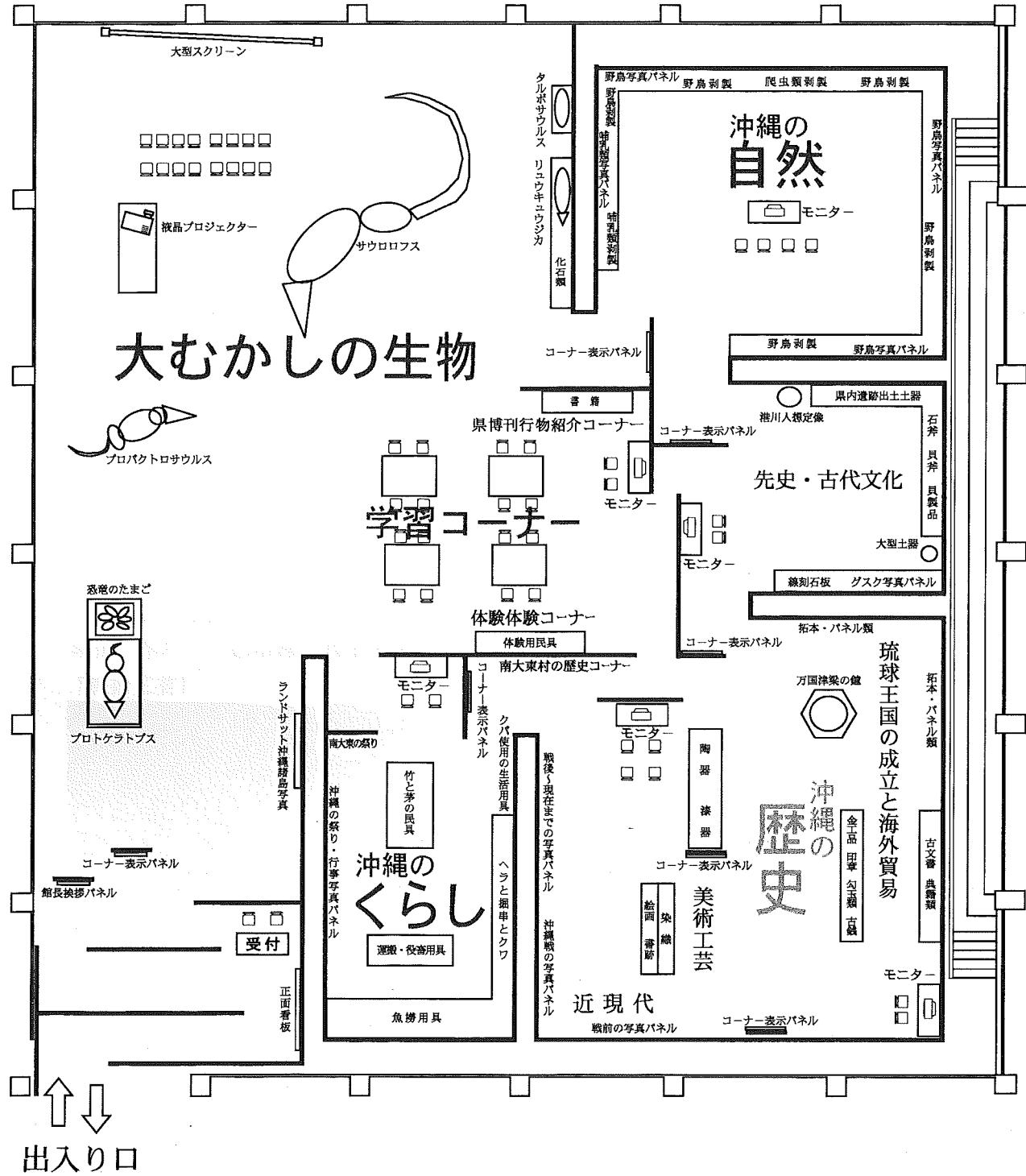
安田のシヌグ、沖縄北部のウンガミ、綱引き、宮古島尻パートトゥ、ハーリー、伊江島の祭り、与那国島の祭事、西表島の節祭、渡名喜のシマノーシ、久米島ウマーチ、ウヤガン、イザイホー、伊平屋、奥のシヌグ、伊是名土帝君、砂川のナーパイ、川平の節（マユンガナサイ）、来間ヤーマス



恐竜の骨格標本の説明をうける小学生たち

# 展示略図

南大東村地域スポーツセンター



## V. 教育普及活動

### 1 教育普及活動の概要

本格的な生涯学習時代を迎える博物館に対する県民の関心は日々高まっている。博物館は資料を分かりやすく展示し、多くの人々に見ていただくことを大きな使命としているが、同時に来館者の知的文化的な欲求を充足できるよう地球における文化発信基地としての役割も併せ持っている。とりわけ最近の動向として、博物館を訪れる来館者のニーズは多様化し、利用者それぞれがいろいろな目的を持って来館している。

このような来館者の要求により多く応えていくため、当館では今年度も多くの博物館事業を実施してきた。平成13年度の大きな特徴としては、子ども体験学習教室を博物館体験学習教室に改めたこと、また博物館体験学習の中に指導者養成の豆腐づくりと黒砂糖づくりを設けたことである。この背景には、大きく二つの理由が挙げられる。ひとつは、体験学習を希望するものが子どもだけに限らず大人の側からも受講の希望があったこと、二つめには平成14年度に導入される総合的学習に関連して、教師のみならず地域の指導者の中からも体験学習を学びたいという要望が出てきていることがあげられる。

このような社会的状況にかんがみ、博物館がこれまで蓄積してきた経験を地域に還元すると同時に14年度から始まる「総合的な学習の時間」に関する学習や「完全学校週5日制」への対応についても、学ぶことの必要性が増してきている。

教育普及課の事業への参加者総数は、4,791名。

以下、今年度に実施した教育普及活動を列挙し、その主な内容について詳述する。

1. 博物館文化講座の実施（特別文化講座を含め311回～320回）
2. 子供放送局事業の実施
3. 第26回移動博物館（南大東村）の開催
4. 博物館シアターにおける映画の上映
5. 博物館体験学習教室の実施
6. ボランティア活動事業の実施
7. ホームページの作成
8. 博物館を利用する団体への研修
9. 来館者への展示解説
10. ポスター・博物館案内リーフレット・博物館だよりの編集・発行
11. 学校による博物館学習のための事前打ち合わせ
12. 児童生徒の団体見学へのオリエンテーション
13. 児童生徒への学習相談
14. 団体見学者へのビデオサービス
15. マスコミ等への博物館事業の広報活動
16. 学校等への体験学習用道具の貸し出し
17. 博物館友の会への協力

## 2 博物館文化講座

「博物館文化講座」は、当博物館の展示内容と関連する沖縄の自然・歴史・文化などについて、分かりやすく学習することを目的に1974年から始まった事業である。毎月1回、土曜日もしくは日曜日の午後2時から午後4時までの2時間を利用し、当博物館講堂にて行っている。また、年に数回の野外講座も行っている。

2001年度は全10回の講座を実施した。第314回「海の生物の観察」は、糸満市での野外講座を予定していたが、台風が接近していたうえ当日の朝に起きた地震のため、博物館講堂にてスライドを用いての勉強会へ変更した。美しい水中写真を見ながら、子どもたちにも分かりやすい解説を交えた講座は、好評のうちに終える事ができた。

文化講座は、1997年度から始めた「受講者アンケート」をもとに、次年度の講座内容を決定していくので、今後も受講者の声を反映させるためにアンケート調査を継続する。

受講者総数1,060名

### 第311回 「世界遺産を支えた人びと」

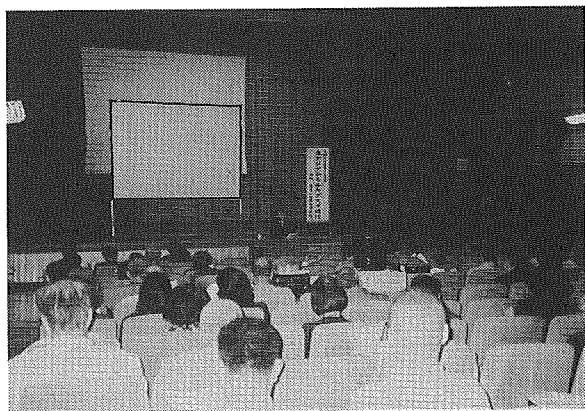
講 師：宜保榮治郎（沖縄大学教授）

日 時：5月20日（日）

場 所：沖縄県立博物館講堂

内 容：戦後の文化財保護の裏面を語る。

参加者：84名



### 第312回 「資料収集こぼれ話」

講 師：宮城篤正（美術評論家）

日 時：6月17日（日）

場 所：沖縄県立博物館講堂

内 容：資料収集のおもしろさや必要性を知る。

参加者：36名

### 第313回 「首里の地名を語る」

講 師：久手堅憲夫（南島地名研究センター幹事）

日 時：7月28日（土）

場 所：沖縄県立博物館講堂

内 容：地名研究入門。「地名とは何か」「地名の性質について」他。

参加者：182名

### 第314回 「海の生物の観察」

講 師：屋比久壯実（写真家）

日 時：8月18日（土）

場 所：糸満市大度海岸（台風のため博物館講堂）

内 容：海岸の地形、海に住む植物や生物の習性などを実際に見て学ぶ。

台風のため、講堂にてスライドを用いて学習した。

参加者：36名（野外のため定員40名）

#### 第315回「心から好きな糸の話」

講 師：宮平初子（重要無形文化財「首里の織物」保持者）

日 時：8月26日（日）

場 所：沖縄県立博物館講堂

内 容：織物製作に対する心構えや意欲について、自らの経験を語る。

参加者：196名

#### 第316回「沖縄の地形」

講 師：前門晃（琉球大学教授）

日 時：9月29日（土）

場 所：沖縄県立博物館講堂

内 容：亜熱帯地方独特の地形をなす、沖縄の成り立ちについて。

参加者：120名

#### 第317回「イノーの利用と漁具・漁法」

講 師：上田不二夫（沖縄大学教授）

日 時：10月20日（土）

場 所：沖縄県立博物館講堂

内 容：サンゴ礁海域ならではのイノー（礁池）の利用について

参加者：53名

#### 第318回「琉球庭園の歴史」

講 師：古塚達朗（那覇市教育委員会生涯学習部文化財課主幹兼係長）

日 時：1月19日（土）

場 所：沖縄県立博物館講堂

内 容：「識名園」を中心に、琉球における庭園の実態を紹介する。

参加者：172名

#### 第319回「東アジアからみたグスク時代」

講 師：池田榮史（琉球大学教授）

日 時：2月23日（土）

場 所：沖縄県立博物館講堂

内 容：10～14世紀の東アジア史を踏まえながら、琉球列島のグスク時代について、考古学的遺物の検討を手がかりに迫る。

参加者：132名

### 第320回「中部の遺跡めぐり」

講 師：新田重清（沖縄考古学会副会長）

日 時：3月16日（土）

場 所：中城城跡～勝連城跡～安慶名城跡

内 容：グスクを歩き、独自性を学びながら琉球史における役割を考える。

参加者：49名（野外のため定員40名）

### 3 衛星通信を利用した子ども放送局

主 催：文部科学省

受信場所：沖縄県立博物館講堂

#### 【趣旨】

この事業は、完全学校週5日制のスタートまでに地域で子どもを育てる環境を整備し、親と子のさまざまな活動を支援する「全国子どもプラン」の一環として、文部科学省により平成11年度から実施している。

#### 【内容】

子ども放送局は、放送をとおして子どもたちの「心の教育」や「科学技術への夢を育む」ことを目的として平成11年7月31日から第2・第4土曜休業日実施され、スポーツ選手や科学者、ボランティア活動のリーダーたちがそれぞれの分野の魅力について子どもたちに語りかける内容となっている。平成14年度からは毎週土曜休業日の実施となる。

#### 【取り組みの方法】

1. 子ども放送局番組の広報については、チラシを近隣の公民館・図書館・児童館など10の施設へ郵送する。
2. 月1回の首里地区行政連絡協議会の席でチラシを配布する。
3. 子ども放送局上映2週間前に正門前に立て看板を設置する。

#### 【総括】

この事業は、衛星通信を利用して子ども放送局の番組を多くの子どもたちに見てもらうことを目的としているが、博物館の展示内容と関わりのある番組を選択して、上映している。また、第2・第4土曜休業日には、「博物館体験学習教室」や「博物館文化講座」を実施していることもあり、当館では年5回の上映となった。また、近隣の児童館への日常的な広報活動をしてきた。視聴者は80名。

平成13年度の参加者は前年に比べて増えてきている。14年度以降は毎週土曜日の実施となることから、当館での上映日も増えると予想される。

#### 4 博物館シアター（担当：瑞慶山 昇）

映像や音響をとおして、郷土文化と世界の芸術文化を、広く県民に紹介するために実施している事業である。

自然、歴史、文化、民俗、風土などをテーマにした映像、および世界の芸術文化をあつかった映像等の映写会を内容とし、県立博物館講堂において午後2時より実施している。

平成13年度は、映像で考える「戦争と子供たち」というタイトルで戦争と子供をテーマに製作された記録映画2本の紹介と、「アニメをたのしむ」というタイトルで親子で楽しめるよう夏休みに9本のアニメを紹介した。また「世界の人と馬の文化」というタイトルで、人と馬との関わりを記録した映像3本を紹介した。

入場者総数651名。

##### シリーズ〔映像で考える「戦争と子供たち〕〕

第51回 期日：2001（平成13）年6月10日（日）

映画：「戦争～子どもたちの遺言～」カラー53分

内容：広島、長崎、東京、アウシュビッツ。戦争の最大の犠牲者であった子どもたちの記録。

映画：「戦場ぬ童～いくさばぬわらび～」カラー30分

内容：第二次世界大戦、多くの沖縄県民の尊い生命が犠牲になった戦争の本質を記録でつづる。

入場者：53名

##### シリーズ〔アニメをたのしむ〕

第52回 期日：2001（平成13）年7月29日（日）

映画：「ニルスの不思議な旅」シリーズから3本 カラー29分×3本

内容：妖精の魔法で小さくされてしまったわんぱく少年ニルスが、冒険を通して人間として大切なものを一つずつ身につけ、成長していく物語。

入場者：230名

第53回 期日：2001（平成13）年8月5日（日）

映画：「ジャングル大帝」シリーズから3本 カラー25分×3本

内容：動物たちが平和に暮らせるジャングルを築いていく白いライオンの子レオが、仲間たちとともに傷つき、悩みながら成長していく姿を描く。

入場者：178名

第54回 期日：2001（平成13）年8月12日（日）

映画：「アニメ三銃士」シリーズから3本 カラー25分×3本

内容：ダルタニヤンを含む三銃士が、正義のため悪と戦う姿を描いた冒険活劇。

入場者：138名

シリーズ〔世界の人と馬の文化〕

第55回 期日：2002（平成14）年2月24日（日）

映画：「アンダルシアに生きる～馬と祭り～」カラー47分

内容：スペイン南部に広がるアンダルシアの大地で馬車を飾り繰り広げられる華麗な祭りの中で、人と馬とのふれあいを描いた記録。

映画：「大草原のまつりナーダム」カラー47分

内容：モンゴルの人々と、暮らしの中で深く関わり合う馬とを記録したフィルム。

映画：「バリオの祝祭～古都シェナに生きる馬の伝統～」カラー47分

内容：イタリアの古都シェナに、生きつづける伝統の祭りを克明に記録した作品。

入場者：52名。

## 5 博物館体験学習教室

### ＜事業の経過＞

博物館体験学習教室の事業は、学校週5日制に伴う児童・生徒の自主的な活動を支援するための新規事業として、平成5年度から開設してきました。親子での体験学習を主体にした「子ども体験学習教室」も、近年になって、郷土の歴史や伝統文化等に关心のある人々からの受講申込みが多く、本年度から受講者の枠を親子限定から児童・生徒は勿論のこと、大人まで拡大することにした。そして、この事業を異世代間交流の場として位置づけ、事業名も「子ども体験学習教室」から「博物館体験学習教室」に改め実施することにした。

受講者総数804名。

### 「豆を栽培して豆腐をつくろう」

講 師：大嵩シゲ（元小学校教諭）

期 日：4月28日（土）、5月26日（土）、7月28日（土）、8月4日（土）

場 所：県立博物館及び体験農場

参 加 者：のべ216名

内 容：一回目は、大豆の種類とその特性及び播種方法について学んだ後、体験農場農場に出かけて北海道産の品種「鶴の子」の豆まき体験体験をした。（沖縄での大豆の播種は、2月から3月がその時期にあたり、4月下旬の播種は時期遅れであり不作が予想されるので北海道産の早とり用大豆を使用することにした。）

二回目は、成長した大豆の観察学習と体験農場の植物（雑草？）の種類とその特徴や草取り用の農具について学んだ後に草取り学習

を行い、最後に肥料と殺虫剤を入れながらその名前と効果について学習した。

三回目は、収穫した大豆を一ヵ所に集め、クルマンボウを使って、脱穀体験をした。(播種時期の不適で質と収穫量に難点があった。)

四回目の最後は、収穫した大豆を使っての豆腐づくりの予定であったが、収穫量の関係でアメリカ産の大豆を使っての豆腐づくりとなった。石臼を挽き、豆乳を作り、ゆし豆腐の箱詰め学習までの豆腐づくりの製造法を学んだ。



親子で大豆と雑草の観察学習



友だちと石臼ひきの体験

#### 「サトウキビを栽培して黒砂糖をつくろう」

講 師：与儀喜邦（元高校教諭）  
期 日：4月28日（土）、5月26日（土）、10月27日（土）、12月8日（土）  
場 所：県立博物館及び体験農場  
参 加 者：のべ112名  
内 容：一回目は、苗の切り方を学んだ後、体験農場で生育している株だし用のサトウキビ品種NCO310を中心に受講者自ら採苗して植え付けをした。

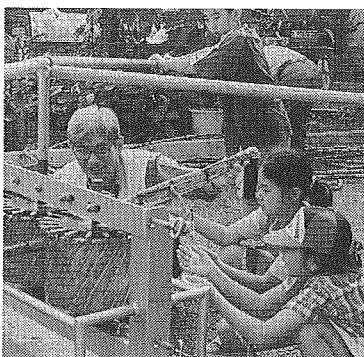
二回目は、植え付けしたサトウキビの成長を観察学習した後に草取りと培土と追肥を行った。

三回目は、成長したサトウキビの枯葉とりの手入れをした。

最後の四回目は、収穫したサトウキビを原料にして、三転式さとうきび搾り機を使って、キビしづり体験、しづり汁のこしとり体験、シンメーナービでの煮込み体験を行い、黒砂糖づくりの製造法を学んだ。



植え付け学習



キビしづり体験



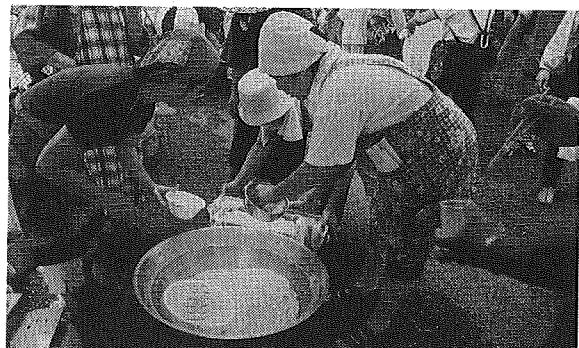
煮込み体験

### 「指導者養成のための豆腐づくり」

講 師 : 上原泰一（西崎豆腐店代表者）  
期 日 : 7月 21日（土）  
場 所 : 県立博物館  
参 加 者 : 44名  
内 容 : 総合的な学習の時間に対応して教育関係者（学校教諭、教育委員会職員、社会教育施設職員、子ども会世話人等）を中心とした講座にした。石臼を使っての豆ひき学習や布袋でのこしとり体験、苦汁の打ち方と煮詰め学習、そして、最後は豆腐の箱詰め学習を行い、豆腐づくりの製造方法を学んだ。



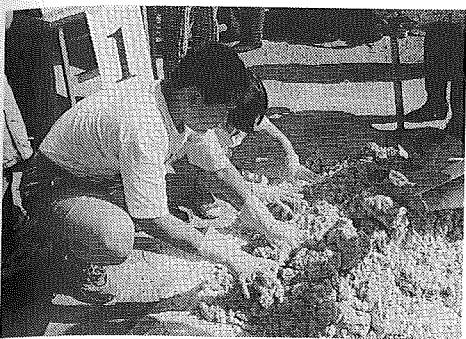
力を合わせて石臼ひき



ゆし豆腐の箱詰め学習

### 「しつくいシーサーをつくろう」

講 師 : 宮城光男（八洲工房主宰）  
期 日 : パート1 8月 11日（土）、8月 12日（日）  
パート2 10月 13日（土）、10月 14日（日）  
場 所 : 県立博物館  
参 加 者 : のべ316名  
内 容 : 二日間の講座で、一日目は沖縄のしつくいシーサーの歴史について学習した後、自分の製作したいポーズの骨組みとなる瓦を受け取り、しつくいシーサーの製作学習に入った。最初にしつくいと砂と白セメントを混ぜる比率を考えながら、グループ毎に練り合わせの学習をした。その後、自ら練り合わせたしつくいを使って瓦の素材を生かしたシーサーづくりを行った。  
二日目は、一日目で製作したしつくいシーサーの手直しと着色をして受講生一人一人が個性あふれる作品を完成させていった。



しつくいの練り合わせ



骨組みづくり



シーサーの着色学習

### 「ウチナーそばをつくろう」

講 師：比嘉和行（じじゃ一鳥の会）

期 日：11月18日（日）、11月24日（土）

場 所：県立博物館

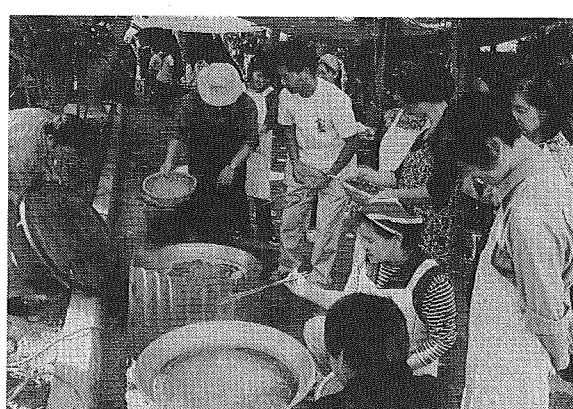
参 加 者：のべ96名

内 容：二日間の講座で、一日目はウチナーそばづくりについてビデオ学習した後、集めておいたガジマルやディゴの枯木から木灰づくりを行った。

二日目は、初目出来上がった木灰から灰汁を作り、ウチナーそばに適した灰汁の比重測定をやり、その灰汁を使ってのそば打ちを行い、シンメーナービでそば麵をゆでてウチナーそばの作り方を学んだ。



木灰づくり



そば麵をゆでる

### 「指導者養成のための黒砂糖づくり」

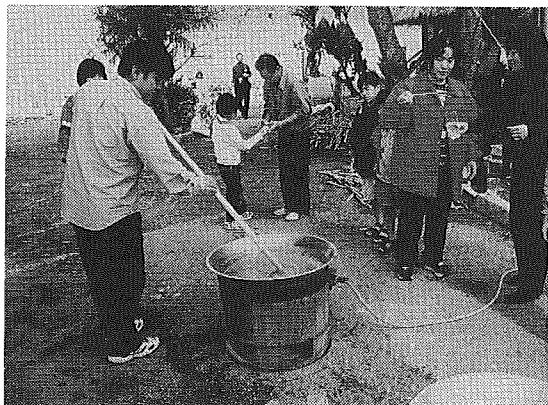
講 師：博物館ボランティア

期 日：2月9日（土）

場 所：県立博物館

参 加 者：20名

内 容：総合的な学習の時間に対応して教育関係者（学校教諭、教育委員会職員、社会教育施設職員、子ども会会話人等）を中心とした講座であった。体験農場のサトウキビを原料にして、三転式のサトウキビ搾り機を使って、きびしづり学習、しづり汁のこしとり学習、煮込み学習、黒砂糖づくりまでの製造過程を学んだ。



しづり汁の搅拌学習



ミネラルたっぷりの黒砂糖

## 6 ボランティア活動

沖縄県立博物館におけるボランティア活動は、平成5年に策定した「沖縄県立博物館ボランティア活動実施要項」にもとづき進めてきた。

平成14年4月には運営委員会を開き、①ボランティア活動の指針、②新年度の役員体制案、③コーディネーターの役割、④勉強会の持ち方、⑤養成講座及び専門講座の持ち方、についての提案を話し合い、ボランティアが“認めあい、励ましあい、支えあい”的精神で活動できるよう工夫してきた。

博物館に於いては「博物館ボランティア養成講座」を8回実施し、講座を終了したものの中から活動を希望するものについてボランティアの登録を受け入れてきた。本年度は男23名、女52名、計75名の登録があった。

さらに登録をしたボランティアには「自然史展示室の実践ガイドツアーと討論」など計13回の「博物館専門講座」を実施し、研修の機会を提供してきた。

ボランティアの主な活動としては、新聞等の資料整理、博物館体験学習活動の支援、展示解説、民具体験の支援、特別展における展示室対応などを行ってきた。

ボランティアの活動には、のべ1163名の参加者、養成講座には328名の受講者、

専門講座には177名の受講者があり、計1668名の参加があった。

ボランティアの養成及び専門講座は下記のとおりであった。



3年生の博物館学習を  
手伝うボランティア

<博物館ボランティア養成講座> 受講者 328名

回数	期日	分野	講師名	演題
1	6月6日(水)	教育普及	前田 真之	博物館におけるボランティアの役割
2	6月13日(水)	美術工芸	津波古 聰	陶器及び漆工芸について
3	6月27日(水)	歴史	園原 謙	戦後文化財保護の歴史
4	7月11日(水)	自然	嵩原 建二	自然の展示と資料の収集
5	7月18日(水)	民俗	桃原 茂夫	民具について
6	7月25日(水)	自然	与那城義春	自然史展示の見方
7	8月1日(水)	美術工芸	與那嶺一子	染織について
8	8月8日(水)	自然	宮城 勉	化石から人類の誕生まで

<博物館ボランティア専門講座> 受講者 177名

回数	期日	分野	講師名	演題
1	10月10日(水)	自然	嵩原 建二	自然史展示室の実践ガイドツアーと討論
2	10月17日(水)	歴史	園原 謙	歴史展示室の実践ガイドツアーと討論
3	10月24日(水)	歴史	宮里 朝光	首里の御殿と殿内
4	11月14日(水)	美術工芸	前田 孝允	漆について
5	11月21日(水)	考古	嵩元 政秀	沖縄のロゼッタストーン
6	12月5日(水)	民俗	桃原 茂夫	民俗展示室の実践ガイドツアーと討論
7	12月19日(水)	教育普及	下地 幸夫	全ての人に開かれた博物館をめざして

回数	期日	分野	講師名	演題
8	12月26日(水)	歴史	田名 真之	首里の土族について
9	1月9日(水)	自然	宮城 勉	岩石・地層の観察について
10	1月16日(水)	美術工芸	上江洲敏夫	沖縄の美術工芸について
11	2月16日(土)	民俗	上江洲 均	沖縄の民具について
12	2月20日(水)	考古学	上原 静	考古学の成果を生かした展示解説
13	2月27日(水)	自然	新城 和治 佐久本 敏	マングローブの展示を考える

## 7 支援活動

### 団体への学習支援

生涯学習時代を迎え、郷土の歴史や文化、自然に対する関心は児童生徒のみならずの階層にまたがってきている。そのためそれぞれのニーズに対応した形で研修を進めくことが課題となってきた。

#### 1. 小中学校への取り組み

- ・小中学校の児童に対しては、見る・触る・体験するの五感を活用した学習を展るため、とりわけ3年生を対象とする資料などを収集し、学習で活用してきた
- ・3年生の博物館学習が定着してきた。
- ・暮らしの道具を使う中から学習課題等について理解が深まるよう取り組む。
- ・緊急雇用対策事業で製作した黒糖搾り機・高機・堅穴住居・移動式展示セット用を希望する学校が増えてきた。

#### 2. 高等学校への取り組み

- ・「総合的学習の時間」の学習に向けての取り組みで沖縄県立首里高校が全学年館を見学したり、球陽高校が三日に分けて、課題学習で来館した。
- ・県内外の高校生の博物館学習は、班別・テーマ別学習の形態を取るようになっており、博物館の担当者によるコーディネイトにより、きめ細かく対応できるな取り組みが必要になってきている。

#### 3. 企業等による博物館研修

- ・平成7年度に行われた琉球銀行の新入行員研修では博物館を活用した郷土学習われたが、平成11年度以降は博物館と連携した形での企業研修は実施されてい。

#### 4. デイ・サービス事業等の一環としての博物館来館

- ・デイ・サービスの一環として来館された団体が、増えている。
- ・休息なしの長時間見学は無理なので、リラクゼーションの観点から今後博物館がどのような対応を取れるのか高齢会社会の課題に向けての取り組みが必要である。

## VI 博物館学芸員実習

本館では平成5年度まで県外の大学から10名前後の実習生を受け入れてきたが、平成6年度から沖縄国際大学で学芸員養成課程の講座が開設されることを受け、また平成7年度からは琉球大学、平成8年からは県立芸術大学でも同科目が開設されたことに伴い、それぞれの大学から実習生を受け入れてきた。また、県外大学からの実習生については、地元出身の学生を対象として、受講生の総数を勘案しながら受け入れている。

平成13年度は、琉球大学12名、沖縄国際大学9名、沖縄県立芸術大学11名の他に筑波大学1名、青山学院大学1名、立正大学1名の計36名を受け入れて実習を行った。

実習した科目と指導学芸員、及び実習期間と実習生は下記のとおりであった。

### 1 実習科目と指導学芸員

- |                                      |              |
|--------------------------------------|--------------|
| (1) 博物館の管理運営(関係法規、組織、予算、関係団体等) ..... | 森山副館長        |
| (2) 博物館保存施設と保存環境 .....               | 平良 盛明        |
| (3) 学芸業務の考え方と実際 .....                | 千木良学芸課長      |
| (4) 博物館資料の受入、分類、原簿記載実習 .....         | 與那嶺 一子       |
| (5) 歴史資料の取扱い実習 .....                 | 園原 謙         |
| (6) 自然観察実習と環境教育 .....                | 与那城 義春       |
| (7) 自然史資料(動物・他)の取扱い実習 .....          | 嵩原 建二        |
| (8) 自然史資料(化石、鉱物等)の取扱い実習 .....        | 宮城 勉         |
| (9) 美術工芸資料(染織・書跡)の取扱い実習 .....        | 與那嶺 一子       |
| (10) 美術工芸資料(漆器、陶器)の取扱い実習 .....       | 津波古 聰        |
| (11) 美術工芸資料(絵画)の取扱い実習 .....          | 瑞慶山 昇        |
| (12) 民俗資料の取扱い実習 .....                | 桃原 茂夫        |
| (13) 博物館の展示方法について .....              | 千木良学芸課長      |
| (14) 企画展示の実際について .....               | 千木良学芸課長      |
| (15) 展示活動の実際と教育普及補助業務 .....          | 上原 敏子、喜久川 智子 |
| (16) 教育普及の考え方と実際 .....               | 前田普及課長       |
| (17) 教育普及活動の実践 I .....               | 瑞慶山 昇        |
| (18) 教育普及活動の実践 II .....              | 玉城 善哲、赤嶺 新子  |
| (19) 実習日誌のまとめ .....                  | 千木良学芸課長      |

### 2 実習期間

第1回 平成13年6月4日(月)～6月15日(金)

第2回 平成13年8月13日(月)～8月24日(金)

第3回 平成13年10月15日(月)～10月26日(金)

### 3. 実習生

第1回 琉球大学(12名)

No	氏名	学部学科	専攻	学年
1	高橋 あい	法文学部人間科学科	地理・人類学	4年次
2	宮平 姫奈子	教育学部学校教育科	教員養成課程	4年次
3	江藤 海彦	理学部海洋自然科学科	生物学系	4年次
4	儀間 洋子	理学部海洋自然科学科	生物学系	4年次
5	松井 晋	理学部海洋自然科学科	生物学系	4年次
6	松尾 晋作	理学部海洋自然科学科	生物学系	4年次

7	宮城文香	理学部海洋自然学科	生物学系	4年次
8	比嘉薰	理学部物質地球科学科		4年次
9	大城太志	理学部物質地球科学科		4年次
10	池間智政	農学部生物生産学科	熱帶植物生産学	4年次
11	宮城尚	農学部生物生産学科	家畜生産学	4年次
12	比嘉尋	農学部生物生産学科		4年次

第2回 沖縄国際大学（10名）、筑波大学（1名）

No	氏名	学部学科	専攻	学年
1	中松雪乃	沖国大文学部社会学科		4年次
2	屋良朝南	沖国大文学部社会学科		4年次
3	伊計絵美里	沖国大法学部第一部法学科		4年次
4	伊波亜希子	沖国大法学部第一部法学科		4年次
5	亜波根綾香	沖国大文学部社会学科		4年次
6	泉川友樹	沖国大文学部社会学科		4年次
7	平良佳織	沖国大文学部社会学科		4年次
8	山城智美	沖国大文学部社会学科		4年次
9	赤嶺麻貴	沖国大科目等履修生		4年次
10	菊池恒三	沖国大文学部社会学科		4年次
11	久高糸子	筑波大学人文学類		4年次

第3回 沖縄県立芸術大学（11名）、青山学院大学（1名）、立正大学（1名）

No	氏名	学部学科	専攻	学年
1	富本文江	県立芸大	デザイン	4年次
2	本村恵美	県立芸大	デザイン	4年次
3	佐々木利佳	県立芸大	陶芸	4年次
4	佐藤太一	県立芸大	染織	4年次
5	石塚真弓	県立芸大	絵画	3年次
6	中本智里	県立芸大	絵画	3年次
7	比嘉章乃	県立芸大	絵画	3年次
8	西谷紗衣子	県立芸大	芸術学	3年次
9	比嘉仁衣奈	県立芸大	芸術学	3年次
10	湯井いづみ	県立芸大	生活造形	院2年次
11	佐久本成	県立芸大	比較芸術学	院2年次
12	慶田盛さつき	青山学院大学文学部史学科		4年次
13	山内麻子	立正大学文学部史学科		4年次

## VII 資料の収集・保存管理

### 1 収蔵資料現在高

平成 14 年 3 月 31 日現在

分類		購入	寄贈	収集	移管	小計	総計
自然史	地質	591	25,473	6	1	26,071	47,345
	動物	1,104	18,322	497		19,923	
	植物	1	1,350			1,351	
美術工芸	絵画	82	542	1	4	629	9,603
	書跡	179	399	51	6	635	
	彫刻	5	114	136	7	262	
	陶磁器	431	3,281	464	537	4,713	
	漆器	230	215	195	19	659	
	染織	1,086	1,540	51	27	2,704	
	工芸		1			1	
歴史資料		2,637	6,206	333	124	9,300	9,300
考古資料		4	3,562	2,839		6,405	6,405
民俗資料		552	3,737	1,072	137	5,498	5,498
総計		6,902	64,742	5,645	862	78,151	78,151

※収蔵整理事業により、収蔵品総点検の結果、上記のとおりになった。

### 2 新収蔵資料高

平成 13 年 4 月 1 日～14 年 3 月 31 日

分類		購入	寄贈	収集	移管	小計	総計
自然史	地質						12
	動物		5	7		12	
	植物						
美術工芸	絵画		1			1	12
	書跡						
	彫刻						
	陶磁器		6			6	
	漆器		1			1	
	染織		4			4	
	工芸						
歴史資料		37	94			131	131
考古資料							
民俗資料			53			53	53
総計		37	164	7		208	208

### 3 新収蔵資料目録

【寄贈の部】

(平成 13 年 4 月 1 日～平成 14 年 3 月 31 日)

分類	品名	数量	寄贈者名	所在地
自然動物	ズグロミソゴイ 本剥製 他 コウライヒクイナ 本剥製 他	3 2	西表野生生物保護センター 沖縄こどもの国	竹富町 沖縄市
美術工芸	「那覇港首里城図」(巻子) 吳須赤絵鳳凰牡丹文碗 青磁碗 壺(ペナリ焼) 他 琉球堆黒四方盆 久米島紬羽織 縮緬黒地鶴松模様衿 芭蕉蔓草文様両面紅型衣裳 手サジ	1 1 1 4 1 1 1 1 1 1	桑門 豪 Neal Goya (吳屋ニール) 平良 吉彦 金城 一史 Neal Goya (吳屋ニール) 平良 吉彦 山城 和子 玉那覇 有公 吉村 英子	大分県 米国 那覇市 那覇市 米国 那覇市 那覇市 那覇市 那覇市 南風原町
	「雄飛」(9号) 満州開拓団引揚者関係資料 他 戦時災害ニ因ル危害証明書 他 圓覺寺 住職等辞令 百円硬貨・百円紙幣 他 沖縄週報 第27号 他 青銅印 ウォーカー博士撮影スライド(オリジナル)	1 8 29 12 15 14 1 1	翠宮城 澄 伊波 邦夫 宮城 民子 能山 宗忠 大城 弘子 真栄城 勇 岡部 伸一／古波倉正照 ジーン・W・ハフトマン ドロシイ・K・ウォーカー	那覇市 恩納村 那覇市 那原町 那覇市 佐敷町 奈良県・那覇市
	沖縄縣訓令関係資料 他 写真アルバム 新聞切抜 他 記念メダル 他 日本刀 アルセスト号朝鮮大琉球島航海記	2 1 4 3 2 1	齊藤 用之助 伊藤 清永 西原 春子 野原 真栄 琉米歴史研究会 Curt Friese(クルト フリーゼ)	米国 佐賀市 東京都 西原町 東風平町 中城村 ドイツ
歴史資料	博多人形 他 御殿型厨子甕の蓋(上焼ツノ型) 藍型ウチュクイ 他 ウミギン(毛布製) 他 台湾の金・銀紙 ムゲー 膳 他 シンメー鍋 他 高機 雲龍型位牌 御殿型厨子甕 他 アダン葉帽子 厨子甕 砂川双紙 他 ミシン 厨子甕 飽・折尺・バリカン ソーキ	3 1 10 2 1 2 12 3 1 2 1 1 1 1 1 1 1 4 4 1	新里 良子 照屋 清善 翠宮城 澄 中村 一男 林 茂松 石原 忠 赤崎 義房 金城 正義 花城 ヤス子 (匿名) 金城 賢治 加藤 和子 大城 英信 岡本 恵昭 島袋 ツル子 能山 宗忠 小橋川 敏子 稻福 政吉	那覇市 読谷村 那覇市 玉城村 台湾 那覇市 那覇市 宜野湾市 那覇市 名護市 本部町 那覇市 平良市 那覇市 与那原町 那覇市 那覇市

【収集の部】

分類	品名	数量
動物	ツバメ 本剥製	1
〃	コガモ 本剥製	1
〃	オナガガモ 本剥製	1
〃	ホルストガエル 骨格標本	1
〃	ハナサキガエル 骨格標本	1
〃	イシカワガエル 骨格標本	1
〃	ハナサキガエル 骨格標本	1

【購入の部】

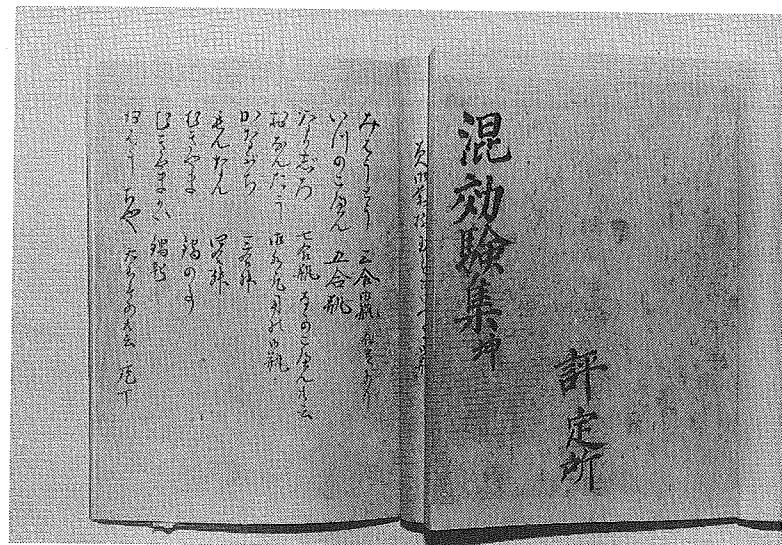
分類	品名	数量
歴史資料	戦後新聞	一括(33)
〃	衛生基準許可施設証明書	1
〃	衛生状態証明書(1級)	2
〃	「袋中上人像」(複製)	1

#### 4 所蔵の指定文化財

国指定文化財（重要文化財）

平成14年3月31日現在

種別	名称	員数	指定年月日	所在の場所	所有者
古文書・典籍 〃	おもろさうし 混効験集	22冊 2冊	昭48.6.6 〃	沖縄県立博物館 〃	沖縄県 〃
工芸品 〃 〃 〃	銅鐘(旧首里城正殿鐘) 梵鐘(旧円覚寺殿前鐘) 梵鐘(旧円覚寺殿中鐘) 梵鐘(旧円覚寺樓鐘)	1口 3口	昭53.6.1 〃	沖縄県立博物館 〃	沖縄県 〃
歴史資料	明孝宗勅諭 琉球国中山王尚真宛	1巻	平11.6.7	沖縄県立博物館	沖縄県



重要文化財「混効験集」



## 5 収蔵資料整理事業 (担当 : 嵩原建二・津波古聰・桃原茂夫)

### ①事業の目的と経過

沖縄県立博物館は、沖縄陳列館（昭和 20 年開館）を前身として 56 年の歴史を有し、現在 78,151 点の資料が収蔵されている。この約 50 年間に合併、移転さらに復帰による機構改革などにより、収蔵資料の管理においては一部未整備である。このことから当事業は、今後の新館開館移転のために、未登録資料の整理登録、収蔵資料の整理・保管等収蔵資料の移動等に支障がないような移転準備作業の一環として、実施されているものである。これまでの成果として、収蔵されている厨子甕の実測整理や収蔵古写真の複製と分類・整理等については、委託業務として実施した結果、分類・整理作業にかなりの進捗が見られる。

また、マルチメディア時代に対応して、県民及び来館者のニーズに答えるためには、収蔵品台帳や原簿等による収蔵資料の管理保管だけでなく、博物館情報のネットワーク化を推進していくことが不可欠である。このことから利用に応じた収蔵資料一覧表の作成や収蔵資料の検索等が可能になるよう平成 6 年度に収蔵資料管理システムを構築し、以来、収蔵品台帳等収蔵資料管理の電子化（コンピュータ化）を推進し、収蔵資料の基礎情報となる文字データ及び画像データの充実がデータ入力等の作業を継続的に行ってきただところである。

### ②事業の内容及びこれまでの実績

#### ◎収蔵資料整理作業

収蔵資料の台帳整理・未登録資料の分類・整理登録  
収蔵資料へのナンバーリング  
保管庫・整理棚の設置（プレハブリース・棚の製作）  
各分野整理棚製作（委託）  
写真パネル等の作成・整理（委託）  
厨子甕の実測・整理作業（委託）  
自然史標本（剥製）の作成（委託）

#### ◎台帳電子化（コンピュータ化）作業

データベースシステムの開発・導入・運用  
システムのハード機器及びソフトウェアの整備  
収蔵資料データ入力（文字・画像データ）等データ整備  
台帳原簿の印刷

#### ◎写真撮影及び写真整理作業

収蔵資料（重要資料）の写真撮影と写真・フィルムの整理・保管  
収蔵古写真の複製・整理作業  
歴史資料のマイクロ化

### ③平成 13 年度事業実績

#### (1) 資料整理作業

◎各分野収蔵資料の分類・整理作業（台帳照合及び未登録資料の整理等）  
◎自然史資料（剥製）の製作（委託）

#### (2) 台帳電子化（コンピューター化）作業（委託）

◎収蔵資料管理用データベースシステムの整備  
◎収蔵資料管理用データベースへのデータ入力（図書受入資料・新収蔵資料等）  
◎データベースシステムの点検・拡張

#### (3) 収蔵資料目録の発刊

◎収蔵資料目録作成（上巻・下巻分冊）

## 6 資料貸出

- ①展覧会名：常設展「日本のあけぼの」  
主 催：国立歴史民俗博物館  
開催場所：同上  
貸出期間：平成 13 年 4 月 1 日～平成 14 年 3 月 31 日  
貸出資料：考古資料／市来式土器
- ②展覧会名：第 50 回特別展「描かれた「異国」「異域」」  
主 催：大阪人権博物館  
開催場所：同上  
貸出期間：平成 13 年 4 月 11 日～平成 13 年 6 月 18 日  
貸出資料：美工資料／琉球人坐樂并躍の図他 9 点・歴史資料／「琉客談記」 1 点
- ③展覧会名：企画展「沖縄の素材と色～染織植物」  
主 催：久米島自然文化センター  
開催場所：同上  
貸出期間：平成 13 年 4 月 20 日～平成 13 年 7 月 4 日  
貸出資料：自然史資料／植物標本 27 点 写真パネル 38 点
- ④展覧会名：企画展「織のあしあと」読谷山花織－人間国宝・与那嶺貞と県指定無形文化財技能保持者展－  
主 催：読谷村立美術館  
開催場所：同上  
貸出期間：平成 13 年 5 月 24 日～平成 13 年 6 月 24 日  
貸出資料：美工資料／木綿読谷山花織袷衣裳他 6 点
- ⑤展覧会名：企画展「虫・ムシ・シマの昆虫展」  
主 催：久米島自然文化センター  
開催場所：同上  
貸出期間：平成 13 年 6 月 29 日～平成 13 年 9 月 6 日  
貸出資料：自然史資料／ヤンバルテナガコガネ雄 他 5 体
- ⑥展覧会名：企画展「大山の生き物たち」  
主 催：宜野湾市立博物館  
開催場所：同上  
貸出期間：平成 13 年 7 月 27 日～平成 13 年 9 月 7 日  
貸出資料：自然史資料／剥製 22 点
- ⑦展覧会名：第 40 回特別企画展「海上交通と船の模型」展  
主 催：平良市総合博物館  
開催場所：同上  
貸出期間：平成 13 年 7 月 23 日～平成 13 年 9 月 10 日  
貸出資料：民俗資料／山原船模型他 6 点
- ⑧展覧会名：開館 10 周年記念特別展「彫りの美－『沈金・鋳金』展」  
主 催：(財) 輪島漆芸美術館  
開催場所：同上  
貸出期間：平成 13 年 8 月 20 日～平成 13 年 11 月 9 日  
貸出資料：美工資料／朱漆牡丹巴紋沈金御供飯他 6 点
- ⑨展覧会名：「世界のウチナーンチュ移民の歴史」パネル展  
主 催：宮古テレビ株式会社  
開催場所：沖縄通信博物館  
貸出期間：平成 13 年 9 月 10 日～平成 13 年 10 月 1 日  
貸出資料：歴史資料／移民関係写真パネル 21 点
- ⑩展覧会名：開館 10 周年記念特別展「琉球使節」展  
主 催：豊橋市二川宿本陣資料館  
開催場所：同上  
貸出期間：平成 13 年 9 月 27 日～平成 13 年 11 月 27 日  
貸出資料：美工資料／首里旧城の図他 8 点
- ⑪展覧会名：特別展「尚王家と琉球の美」展  
主 催：MOA 美術館  
開催場所：同上  
貸出期間：平成 13 年 10 月 16 日～平成 13 年 11 月 30 日  
貸出資料：美工資料／黒漆鳳凰牡丹螺鈿馬上盃他 4 点・歴史資料／聞得大君御殿雲龍黄金簪 1 点

- ⑫展覧会名：特別展『久米のきみはゑ500年』展  
 主 催：久米島自然文化センター  
 開催場所：同上  
 貸出期間：平成13年10月22日～平成13年12月20日  
 貸出資料：歴史資料／羽地間切屋我ノロへの辞令書
- ⑬展覧会名：第3回世界のウチナーンチュ大会「世界のウチナーンチュ 歴史と未来展」  
 主 催：第3回世界のウチナーンチュ大会実行委員会  
 開催場所：沖縄コンベンションセンター会議棟  
 貸出期間：平成13年10月29日～平成13年11月5日  
 貸出資料：歴史資料／移民関係写真パネル31件64点
- ⑭展覧会名：「世界のウチナーンチュに学ぶ交流会」  
 主 催：那覇国際高等学校  
 開催場所：同上  
 貸出期間：平成13年11月5日～平成13年11月9日  
 貸出資料：歴史資料／移民関係写真パネル31件64点
- ⑮展覧会名：第18回企画展「骨格展－人の体内に潜む進化」  
 主 催：名護博物館  
 開催場所：同上  
 貸出期間：平成13年11月28日～平成13年12月12日  
 貸出資料：自然史資料／イリオモテヤマネコ骨格標本1点・剥製標本1点
- ⑯展覧会名：企画展「世界遺産展－出土品にみる琉球王国のグスク」  
 主 催：沖縄県立埋蔵文化財センター  
 開催場所：同上  
 貸出期間：平成14年1月30日～平成14年3月7日  
 貸出資料：考古資料／勝連城跡出土遺物他 36点
- ⑰展覧会名：返還三十周年記念「沖縄の染めと幻の花織 南の国の色とデザイン」展  
 主 催：サントリー美術館  
 開催場所：同上  
 貸出期間：平成14年2月1日～平成14年3月31日  
 貸出資料：美工資料／白地赤総絞り他 24点
- ⑱展覧会名：企画展「工芸王国展－風土に生きる技－」  
 主 催：沖縄県教育委員会  
 開催場所：石垣市立八重山博物館  
 貸出期間：平成14年2月25日～平成14年3月29日  
 貸出資料：美工資料／金城次郎作「魚文皿」他 5点

## 7 煙蒸処理

当博物館には、国・県指定文化財及びこれまでに購入・寄贈並びに収集活動で得た文化財や資料が約7万5千点余りある。それらの資料は害虫その他の有害菌から防除し、資料の適切な保存を行うために、館内の煙蒸による害虫駆除を年1回行っている。

平成13年度は9月17日から21日までの期間を閉館して実施した。履行場所等は、地下・1階2階の各収蔵庫のほかに各展示室、首里城正殿模型、扁額「徳高」、湧田窯プレハブをメチルプロマイドによって煙蒸し、その他の事務所・講堂はDDVP 煙蒸によって害虫駆除を行った。

### 煙蒸実施結果報告

場 所	内 容 積 m <sup>3</sup>	単位薬量 g/m <sup>3</sup>	投薬量 Kg	薰 蒸 種類	投入時 間 h	残留 ス濃度 mg/リッ	供 試 虫
1F収蔵庫(大)	328	46.4	15.0	密閉	24	20	全死
1F収蔵庫(小)	48	52	2.5	〃	〃	20	〃
2F漆器収蔵庫	540	55.5	30	〃	〃	25	〃
民俗展示室	1,357	51.5	70	〃	〃	20	〃
美術工芸展示室	864	49.7	43	〃	〃	20	〃
自然展示室	813	49.2	40	〃	〃	21	〃
歴史展示室	2,162	50.8	110	〃	〃	22	〃
地下収蔵庫	821	49.9	41	〃	〃	21	〃
扁額「徳高」	5	100	0.5	〃	〃	30	〃
首里城模型	48	52	2.5	〃	〃	28	〃
湧田プレハブ	224	66.9	15	〃	〃	30	〃

## VIII 刊行物

刊行物名	種類	部数	規格(頁)	内容
沖縄県立博物館年報 第34号	定期	1,000	A4(80)	前年度の博物館活動の状況や概要
平成12年度新収蔵品展	定期	1,000	A4(12)	前年度受け入れた資料を紹介する展示会図録
特別展平成13年度国立博物館・美術館巡回展「かざりとかたち展」図録	不定期	800	A4(191)	特別展「かたちとかざり展」の図録で、国立博物館・美術館、鹿児島県黎明館と当館の展示品の紹介と解説。
沖縄県立博物館紀要 第28号	定期	1,000	B4(90)	学芸員の調査研究報告書
改訂沖縄県立博物館収蔵品目録上巻	不定期	500	A4(209)	収蔵されている資料の目録
改訂沖縄県立博物館収蔵品目録下巻	不定期	500	A4(391)	収蔵されている資料の目録
平成13年度子ども体験教室	不定期	1,000	A4(88)	平成13年度教育普及事業として実施した児童生徒を対象とした体験教室の記録
平成13年度ボランティア活動	定期	300	B4(90)	平成13年度ボランティアの活動内容報告
博物館だよりNo.46	不定期	1,500	A4(4)	当館の行事等を紹介する広報誌
博物館だよりNo.46	不定期	1,500	A4(4)	当館の行事等を紹介する広報誌
年間行事案内リーフレット	不定期	10,000	変形A4	平成13年度の年間行事案内
年間ポスター	定期	1,000	B2変形	平成13年度の年間行事案内
日本文リーフレット	定期	66,000	変形A4	当館の展示案内
英文リーフレット	定期	66,000	変形A4	当館の展示案内
第26回移動博リーフレット	定期	2,000	A4(12)	南大東村で開催された移動博物館の展示資料紹介

## IX その他活動

### 1 沖縄県博物館協会

平成 13 年度沖縄県博物館協会の理事会・総会・春期研修会は 5 月 24 日(木)・25 日(金)の 2 日間にわたり開館 2 年目を迎えた沖縄県平和祈念資料館を主会場として開催された。

初日は平和祈念資料館大会議室において 71 名の参加のもと平成 13 年度沖縄県博物館協会総会が開催された。総会終了後「沖縄平和祈念資料館の役割と課題」と題して津波清沖縄県平和祈念資料館副館長により①資料館建設に至る経過②展示資料及び展示室の現状と課題③恒久平和を発信する拠点としての資料館についての講演が行われた。講演終了後資料館の常設展示を中心に施設見学を行う。参加者は展示内容や展示手法を熱心に見学した。

懇親会は会場を糸満市西崎のホテルスポーツロッジ糸満に移し 4 月 1 日に開館した具志頭村立歴史民俗資料館、東風平町歴史民俗資料館の紹介や参加各館(園)による自己紹介と和やかな雰囲気の中で様々なスピーチがあった。懇親を兼ねての情報交換会は短い時間であったが有意義な時間の提供の場となった。

2 日目は平和祈念資料館の地下収蔵庫等の最新設備を見学。その後南部戦跡と具志頭村と東風平町の資料館の現地見学会を行う。南部戦跡見学は糸満市字喜屋武にある海に突き出したグスクとして有名な国指定史跡具志川城跡、糸満市字伊敷にある沖縄戦末期に多数の避難民や敗残兵が混在していた巨大なガマ轟壕、字糸満にある山巔毛を見学した。

轟壕は島田知事他の県庁首脳が避難し沖縄県庁最後の場所となったところでもある。午後は東風平町歴史民俗資料館、開館したばかりの具志頭村立歴史民俗資料館を案内していただき研修を終えた。

秋期研修会は 11 月 29 日(木)～30 日(金)に 46 名の参加者のもと久米島具志川村(現久米島町)在の具志川村農村環境改善センターと久米島自然文化センターを中心に研修会を行った。初日は久米島ホタル館の佐藤保文館長と久米島ウミガメ館の山崎幸一館長の講演があり改めて久米島の自然の奥深さを感じたものである。交流会も同会場にて行われ参加館園職員紹介や事業の PR など終始和やかな雰囲気の内に終了した。

2 日目は久米島自然文化センターで開催中の「きみはゑ展」の見学後伊敷索城跡を見学。続いて両村にて各自整備中の具志川城跡宇江城城跡を久米島自然文化センター山里氏の案内で見学した。両城跡とも眺めが壮観で水平線はるか交易時代に思いをはせる時間を過ごした。

その後奥武島の疊石と久米島ウミガメ館の見学と続き、小雨がちらつく中、時間的にきびしい行程であったが 2 日間の日程を終了した。

平成 14 年度の秋期研修会は宮古島(平良市総合博物館)の予定であったが平成 14 年に石垣市立八重山博物館が開館 30 周年を迎え、記念に研修会を当地で行いたいとの強い要望により、14 年度の秋期研修会は石垣島(石垣市立八重山博物館)で開催することとなった。

## 2 沖縄県立博物館友の会

沖縄県立博物館友の会は、「博物館の事業に積極的に協力し、さらに会員の教養を高めることと相互の親睦をはかる」ことを目的として1980年の1月に発足してから22年目を迎えた。その間会員数も増加の傾向にある。本年は普通会員481名、準会員4人、家族会員77家族(158人)となっている。家族ぐるみで博物館友の会と関わりを持つ人が増えてきている。また友の会の活動も年間をとおしての事業に加えサークルなどの活動も活発化し、充実してきている。

平成13年度の活動内容と事業内容は次のとおりであった。

### 1. 事業

- (1) 海外研修：5月28日（月）～6月6日（水）  
「ヨーロッパの異端児」をテーマに宇夫方隆士氏を講師に招いてスペイン研修旅行を実施した（参加者：22名）。
- (2) 浦添グスク見学会：7月1日（日）  
浦添グスクでの見学会を、浦添市教育委員会文化課課長の安里進氏の解説で実施した（参加者：27名）。
- (3) 文化施設見学会：7月14日（土）  
具志頭村立歴史民俗資料館の見学会を当館学芸員の宮城勉氏の解説で実施した（参加者：27名）。
- (4) 体験教室：8月25日（土）コース、26日（日）コース、9月9日（日）仕上  
前盛弘吉氏を迎えて「アンツク、アンディラ作り」を体験した（参加者：16名）。
- (5) 講演会：9月16日（日）  
「はじめらな、うちな～ぐち」と題して宮里朝光氏による講演会を実施した（参加者：40名）。
- (6) 久高島研修：10月1日（月）～2日（火）  
旧8月15日十五夜に行われる「月まつり」の見学会を新城安哲、我如古弥永両氏の解説で実施した（参加者：25名）。
- (7) グスクめぐり：10月7日（日）  
「勝連半島の史跡めぐり」をテーマに沖縄考古学会会長嵩元政秀氏を講師に招いて実施した（参加者：45名）。
- (8) 離島研修：10月21日（日）  
古宇利島研修を今帰仁村歴史文化センター館長仲原弘哲氏の解説で実施した（参加者：45名）。
- (9) 文化キャラバン隊：11月24日（土）～25日（日）  
南大東島で開催され移動博物館の文化キャラバン隊として参加し、受付や解説の補佐を行った（参加者：8名）。
- (10) 展示室解説会：11月25日（日）  
特別展「かざりとかたち展」の展示解説を京都国立博物館久保智康氏の解説で

実施した（参加者：13名）。

(11) 自然観察会：2月24日（日）

「カルスト地形を見に行こう」をテーマに本部町立博物館の友利哲夫氏の解説で実施した（参加者：26名）。

(12) グスクめぐり：3月24日（日）

「勝連半島の史跡めぐり」をテーマに沖縄考古学会会長嵩元政秀氏を講師に招いて実施した（参加者：37名）。

(13) 講演会：3月30日（土）

「浦添グスク・ヨウドレの発掘成果と琉球王権」と題して浦添市教育委員会文化課課長安里進氏による講演会を実施した（参加者：172名）。

## 2. 会員への情報提供

- 博物館事業及び催し物の案内状発送
- 友の会事業の講演会・研修旅行・印刷物の案内及び文書発送
- 博物館発行印刷物の復刻販売サービス

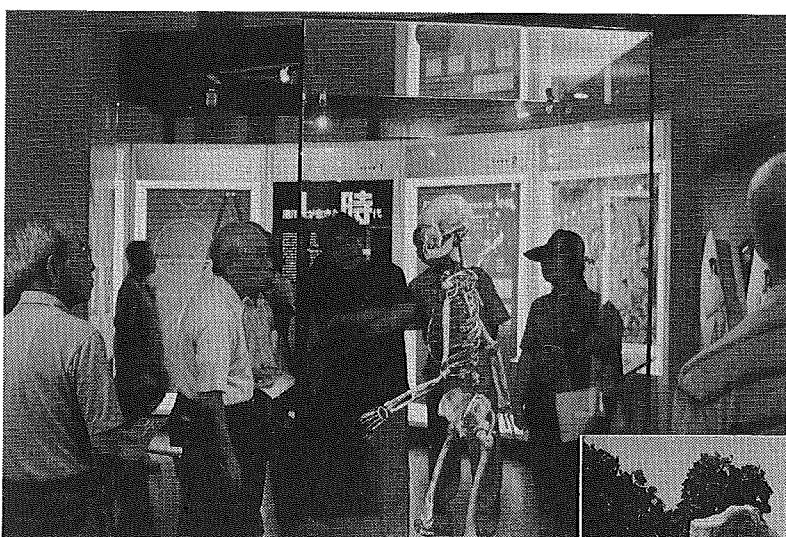
## 3. 会誌（博友）16号・会報（赤い瓦）22号の発行

## 4. ミュージアムショップの経営

出版物・ミニ絵巻・絵はがき・委託図書・紅型・フィルム・飲み物等の販売サービス

## 5. その他

- サークル活動：グスクサークル、民俗サークル
- 総会 2001年5月21日（月）参加者：46名
- 新年会 2002年1月19日（土）参加者：49名



具志頭村立歴史民俗資料館  
の見学（講師：宮城勉学芸員）

勝連半島の遺跡めぐり  
(講師：嵩元政秀沖縄考古  
学会長)



## X 関係法規抄録

○博物館法 昭和 26.12. 法律第 285 号

〔最近改正〕平成 13.7.11 法律第 105 号

### 第 1 章 総則

(この法律の目的)

第 1 条 この法律は、社会教育法（昭和 24 年法律第 207 号）の精神に基き、博物館の設置及び運営に関する必要な事項を定め、その健全な発達を図り、もつて国民の教育、学術及び文化の発展に寄与することを目的とする。

(定義)

第 2 条 この法律において「博物館」とは、歴史、芸術、民俗、産業、自然科学等に関する資料を収集し、保管（育成を含む。以下同じ。）し、展示して教育的配慮の下に一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資するために必要な事業を行い、あわせてこれらの資料に関する調査研究をすることを目的とする機関（社会教育法による公民館及び図書館法（昭和 25 年法律第 118 号）による図書館を除く。）のうち、地方公共団体、民法（明治 29 年法律第 89 号）第 34 条の法人、宗教法人又は政令で定めるその他の法人が設置するもので第 2 章の規定による登録を受けたものをいう。

2 この法律において、「公立博物館」とは、地方公共団体の設置する博物館をいい、「私立博物館」とは、民法第 34 条の法人、宗教法人又は前項の政令で定める法人の設置する博物館をいう。

3 この法律において「博物館資料」とは、博物館が収集し、保管し、又は展示する資料をいう。

(博物館の事業)

第 3 条 博物館は、前条第 1 項に規定する目的を達成するため、おおむね左に掲げる事業を行う。

- (1) 実物、標本、模写、模型、文献、図表、写真、フィルム、レコード等の博物館資料を豊富に収集し、保管し、及び展示すること。
- (2) 分館を設置し、又は博物館資料を当該博物館外で展示すること。
- (3) 一般公衆に対して、博物館資料の利用に関し必要な説明、助言、指導等を行い、又は研究室、実験室、工作室、図書室等を設置してこれを利用させること。
- (4) 博物館資料に関する専門的、技術的な調査研究を行うこと。
- (5) 博物館資料の保管及び展示等に関する技術的研究を行うこと。
- (6) 博物館資料に関する案内書、解説書、目録、図録、年報、調査研究の報告書等を作成し、及び頒布すること。
- (7) 博物館資料に関する講演会、講習会、映写会、研究会等を主催し、及びその開催を援助すること。
- (8) 当該博物館の所在地又はその周辺にある文化財保護法（昭和 25 年法律第 214 号）の適用を受ける文化財について、解説書又は目録を作成する等一般公衆の当該文化財の利用の便を図ること。
- (9) 他の博物館、博物館と同一の目的を有する国の施設等と緊密に連絡し、協力し、刊

行物及び情報の交換、博物館資料の相互貸借等を行うこと。

(10) 学校、図書館、研究所、公民館等の教育、学術又は文化に関する諸施設と協力し、その活動を援助すること。

2 博物館は、その事業を行うに当つては、土地の事情を考慮し、国民の実生活の向上に資し、更に学校教育を援助し得るようにも留意しなければならない。  
(館長、学芸員その他の職員)

#### 第4条 博物館に、館長を置く。

2 館長は、館務を掌理し、所属職員を監督して、博物館の任務の達成に努める。  
3 博物館に、専門的職員として学芸員を置く。  
4 学芸員は、博物館資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これと関連する事業についての専門的事項をつかさどる。  
5 博物館に、館長及び学芸員のほか、学芸員補その他の職員を置くことができる。  
6 学芸員補は、学芸員の職務を助ける。

(学芸員の資格)

第6条 学校教育法(昭和22年法律第26号)第56条の規定により大学に入学することができる者は、学芸員補となる資格を有する。

#### 第7条 削除

(設置及び運営上望ましい基準)

第8条 文部科学大臣は、博物館の健全な発達を図るために、博物館の設置及び運営上望ましい基準を定め、これを教育委員会に提示するとともに一般公衆に対して示すものとする。

#### 第9条 削除

### 第2章 登録

(登録)

第10条 博物館を設置しようとする者は、当該博物館について、当該博物館の所在する都道府県の教育委員会に備える博物館登録原簿に登録を受けるものとする。

(登録の申請)

第11条 前条の規定による登録を受けようとする者は、設置しようとする博物館について、左に掲げる事項を記載した登録申請書を都道府県の教育委員会に提出しなければならない。

- (1) 設置者の名称及び私立博物館にあつては設置者の住所
  - (2) 名称
  - (3) 所在地
- 2 前項の登録申請書には、左に掲げる書類を添附しなければならない。
- (1) 公立博物館にあつては、設置条例の写、館則の写、直接博物館の用に供する建物及び土地の面積を記載した書面及びその図面、当該年度における事業計画書及び予算の歳出の見積に関する書類、博物館資料の目録並びに館長及び学芸員の氏名を記載した書面
  - (2) 私立博物館にあつては、当該法人の定款若しくは寄附行為の写又は当該宗教法

人の規則の写、館則の写、直接博物館の用に供する建物及び土地の面積を記載した書面及びその図面、当該年度における事業計画書及び収支の見積に関する書類、博物館資料の目録並びに館長及び学芸員の氏名を記載した書面

(登録要件の審査)

第 12 条 都道府県の教育委員会は、前条の規定による登録の申請があつた場合においては、当該申請に係る博物館が左に掲げる要件を備えているかどうかを審査し、備えていると認めたときは、同条第 1 項各号に掲げる事項及び登録の年月日を博物館登録原簿に登録した旨を当該登録申請者に通知し、備えていないと認めたときは、登録しない旨をその理由を附記した書面で当該登録申請者に通知しなければならない。

- (1) 第 2 条第 1 項に規定する目的を達成するために必要な博物館資料があること。
- (2) 第 2 条第 1 項に規定する目的を達成するために必要な学芸員その他の職員を有すること。
- (3) 第 2 条第 1 項に規定する目的を達成するために必要な建物及び土地があること。
- (4) 1 年を通じて 150 日以上開館すること。

(登録事項等の変更)

第 13 条 博物館の設置者は、第 11 条第 1 項各号に掲げる事項について変更があつたとき、又は同条第 2 項に規定する添付書類の記載事項に重要な変更があつたときは、その旨を都道府県教育委員会に届け出なければならない。

2 都道府県の教育委員会は、第 11 条第 1 項各号に掲げる事項に変更があつたことを知ったときは、当該博物館に係る登録事項の変更登録をしなければならない。

(登録の取消)

第 14 条 都道府県の教育委員会は、博物館が第 12 条各号に掲げる要件を欠くに至つたものと認めたとき、又は虚偽の申請に基いて登録した事実を発見したときは、当該博物館に係る登録を取り消さなければならない。但し、博物館が天災その他やむ得ない事由により要件を欠くに至つた場合においては、その要件を欠くに至つた日から 2 年間はこの限りでない。

2 都道府県の教育委員会は、前項の規定により登録の取消しをしたときは、当該博物館の設置者に対し、速やかにその旨を通知しなければならない。

(博物館の廃止)

第 15 条 博物館の設置者は、博物館を廃止したときは、すみやかにその旨を都道府県の教育委員会に届け出なければならない。

2 都道府県の教育委員会は、博物館の設置者が当該博物館を廃止したときは、当該博物館に係る登録をまつ消しなければならない。

(規則への委任)

第 16 条 この章に定めるものを除くほか、博物館の登録に関し必要な事項は、都道府県教育会の規則で定める。

第 17 条 削除

第 3 章 公立博物館

(設置)

第 18 条 公立博物館の設置に関する事項は、当該博物館を設置する地方公共団体の条例で定めなければならない。

(所管)

第 19 条 公立博物館の設置に関する事項は、当該博物館を設置する地方公共団体の教育委員会の所管に属する。

(博物館協議会)

第 20 条 公立博物館に、博物館協議会を置くことができる。

2 博物館協議会は、博物館の運営に関し、館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる機関とする。

第 21 条 博物館協議会の委員は、学校教育及び社会教育の関係者並びに学識経験のある者の中から、当該博物館を設置する地方公共団体の教育委員会が任命する。

第 22 条 博物館の設置、その委員の定数及び任期その他博物館協議会に必要な事項は、当該博物館を設置する地方公共団体の条例で定めなければならない。

(入館料)

第 23 条 公立博物館は、入館料その他博物館資料の利用に対する対価を徴収してはならない。但し、博物館の維持運営のためにやむを得ない事情がある場合は、必要な対価を徴収することができる。

(博物館の補助)

第 24 条 国は、博物館を設置する地方公共団体に対し、予算の範囲内において、博物館の施設、設備に要する経費その他必要な経費の一部を補助することができる。

2 前項の補助金の交付に關し必要な事項は、政令で定める。

第 25 条 削除

(補助金の交付中止及び補助金の返還)

第 26 条 国は、博物館を設置する地方公共団体に対し第 24 条の規定による補助金の交付をした場合において、左の各号の一に該当するときは、当該年度におけるその後の補助金の交付をやめるとともに、第 1 号の場合の取消が虚偽の申請に基いて登録した事実の発見に因るものである場合には、既に交付した補助金を、第 3 号及び第 4 号に該当する場合には、既に交付した当該年度の補助金を返還させなければならない。

- (1) 当該博物館について、第 14 条の規定による登録の取消があつたとき。
- (2) 地方公共団体が当該博物館を廃止したとき。
- (3) 地方公共団体が補助金の交付の条件に違反したとき。
- (4) 地方公共団体が虚偽の方法で補助金の交付を受けたとき。

#### 第 4 章 私立博物館

(都道府県の教育委員会との関係)

第 27 条 都道府県の教育委員会は、博物館に関する指導資料の作成及び調査研究のために、私立博物館に対し必要な報告を求めることができる。

2 都道府県の教育委員会は、私立博物館に対し、その求めに応じて、私立博物館の設置及び運営について、専門的、技術的の指導又は助言を与えることができる。

(国及び地方公共団体との関係)

第 28 条 国及び地方公共団体は、私立博物館に対し、その求めに応じて必要な物資の確保につき援助を与えることができる。

## 第 5 章 雜則

(博物館に相当する施設)

第 29 条 博物館の事業に類する事業を行う施設で、国が設置する施設にあつては文部科学大臣が、その他の施設にあつては当該施設の所在する都道府県の教育委員会が、文部科学省令で定めるところにより、博物館に相当する施設として指定したものについては、第 27 条第 2 項の規定を準用する。

## 附 則

(施行期日)

1 この法律は、交付の日から起算して 3 箇月を経過した日から施行する。

(経過規定)

2 第 6 条に規定する者には、旧中等学校令（昭和 18 年勅令第 36 号）、旧高等学校令又は旧青年学校令（昭和 14 年勅令第 254 号）の規定による中等学校、高等学校尋常科又は青年学校本科を卒業し、又は修了した者及び文部科学省令でこれらの者と同等以上の資格を有するものと定めた者を含むものとする。

○博物館法施行令 昭和 27. 3. 20 政令第 47 号

[最近改正] 昭和 34 年 4 月 30 日政令第 157 号

(政令で定める法人)

第 1 条 博物館法（以下「法」という。）第 2 条第 1 項の政令で定める法人は、次に掲げるものとする。

1 日本赤十字社

2 日本放送協会

(施設、設備に要する経費の範囲)

第 2 条 法第 24 条第 1 項に規定する博物館の施設、設備に要する経費の範囲は、次に掲げるものとする。

1 施設費 施設の建築に要する本工事費、附帯工事費及び事務費

2 設備費 博物館に備えつける博物館資料及びその利用のための器材器具の購入に要する経費

## 附 則

この政令は、交付の日から施行する。

○沖縄県立教育機関設置条例（抄） 昭和 47. 5. 15 条例第 24 号

[最終改正] 平成 6 年 12 月 27 日 条例第 42 号

(趣旨)

第 1 条 この条例は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和 31 年法律第 162

号) 第30条、図書館法(昭和25年法律第118号)第10条及び博物館法(昭和26年法律第285号)第18条の規定に基づき、教育機関の設置について必要な事項を定めるものとする。

(博物館)

第5条 歴史、芸術、民俗、産業、自然科学等に関する資料を収集し、保管し、及び展示して教育的配慮の下に一般公衆の利用に供するとともに、その教養、調査研究、レクリエーション等に資するために必要な事業を行い、併せてこれらの資料に関する調査研究を行うため、博物館を次のとおり設置する。

名 称	位 置
沖縄県立博物館	那覇市首里大中町1丁目1番地

2 博物館は、博物館法第3条第1項各号に掲げる業務を行う。

(博物館協議会)

第6条 博物館に、博物館協議会を置く。

2 博物館協議会の委員の定数は、10人以内とする。

3 委員の任期は、2年とし、欠員の生じた場合の補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

4 前2項に定めるもののほか、博物館協議会の組織及び運営に関する必要な事項は、教育委員会規則で定める。

○沖縄県立教育機関組織規則(抄) 昭和47.5.15 教育委員会規則第2号

[最終改正] 平成10年3月31日教育委員会規則第5号

(趣旨)

第1条 この規則は、沖縄県立教育機関設置条例(昭和47年沖縄県条例第24号)に規定する教育機関の組織及び分掌事務その他必要な事項を定めるものとする。

(博物館)

第4条 沖縄県立博物館(以下「博物館」という。)に、次の課を置く。

庶務課

学芸課

教育普及課

2 博物館の所掌事務は、次のとおりとする。

庶務課

- (1)予算、決算その他会計事務に関する事。
- (2)公印の管守に関する事。
- (3)施設設備の管理に関する事。
- (4)職員の服務及び福利厚生に関する事。
- (5)博物館協議会に関する事。
- (6)他課の所掌に属さない事務に関する事。

学芸課

- (1)博物館資料の収集、保管及び展示に関する事。

- (2)博物館資料の技術的、専門的な調査研究に関すること。
- (3)博物館資料の鑑査、貸出し及び交換に関すること。
- (4)博物館資料に関する解説書、目録研究報告書等の作成及び配布に関すること。

#### 教育普及課

- (1)博物館資料の利用相談に関すること。
- (2)展覧会、講習会、映写会及び研究会等の主催並びに援助に関すること。
- (3)学校その他の教育機関との連絡及び協力に関すること。

○沖縄県立博物館の管理に関する規則 昭和 47. 5.15 教育委員会規則第 13 号  
〔最終改正〕平成 12 年 3 月 30 日教育委員会規則第 17 号

#### (趣旨)

第 1 条 この規則は、沖縄県立博物館（以下「博物館」という。）の管理に関し必要な事項を定めるものとする。

#### (管理の責任)

第 2 条 館長は、博物館の施設、設備（備品を含む。以下同じ。）を管理し、その整備に努めなければならない。

#### (諸帳簿)

第 3 条 館長は、施設、設備に関する諸帳簿を整理し、その現有状況を明らかにしておかなければならない。

#### (施設設備の消失)

第 4 条 館長は、火災その他の事由により施設、設備の全部若しくは一部が損修し、又は消失した場合には、速やかに教育長に報告し、その指示をうけなければならない。

#### (警備防災の計画)

第 5 条 消防法（昭和 23 年法律第 186 号）第 8 条第 1 項に規定する防火管理者は、館長とする。

2 館長は、年度始めに警備及び防火その他の防災の計画を作成し、教育長に報告しなければならない。

#### (当直)

第 6 条 館長は、休日その他正規の勤務時間外において職員を輪番で日直又は宿直を命ずることができる。

2 前項に定めるものほか、宿日直勤務については、職員服務規程（昭和 47 年沖縄県教育委員会訓令第 4 号）の定めるところによる。

#### (職員の服務等)

第 7 条 職員の服務、勤務時間及び勤務時間の割振りについては、別に定めるところによる。

#### (文書)

第 8 条 文書の処理については、教育庁文書管理規程（昭和 53 年沖縄県教育委員会訓令第 2 号）の定めるところによる。

#### (開館時間)

第 9 条 博物館の開館時間は、午前 9 時から午後 5 時までとする。ただし、館長は、都合

によりこれを変更することができる。

(休館日)

第 10 条 博物館の休館日は、次のとおりとする。

(1)定期休館日 月曜日

(2)国民の祝日に関する法律（昭和 23 年法律第 178 号）の規定する日（子どもの日及び文化の日を除く。）

(3)慰霊の日 6 月 23 日

(4)年始休館日 1 月 2 日から 1 月 4 日まで

(5)年末休館日 12 月 28 日から 12 月 31 日まで

(6)臨時休館日 特別の事情により、館長が休館を必要と認めた日

2 前項第第 2 号及び第 3 号に規定する休館日が定期休館日に当たるときは、その日の後日のおいて最も近い休館日でない日をもつて、これを替えるものとする。

3 前 2 項の規定にかかわらず、館長が特に必要と認めた場合は、開館することができる。

(寄贈及び寄託)

第 11 条 博物館に資料を寄贈又は寄託しようとする者は、寄贈申込書（第 1 号様式）又は寄託申込書（第 2 号様式）を提出しなければならない。

2 受託を決定したものについては、受託承認書（第 3 号様式）を交付するものとする。

3 前項の規定により、寄贈を受けた資料は、理由のいかんにかかわらず返却しない。

(寄託資料の保管)

第 12 条 寄託された資料の管理は、博物館所蔵の資料の管理に準ずるものとする。

(寄託資料の返付)

第 13 条 寄託資料は、寄託者の請求又は博物館の都合により返付する。

(経費の負担)

第 14 条 寄贈又は寄託に要する経費は、寄贈者又は寄託者の負担とする。ただし、館長が必要と認めた場合はこの限りでない。

第 15 条 寄託資料が火災その他の不可抗力により、滅失し、汚損し又は損傷したときは、博物館は損害賠償の責任を負わない。

(入館料の交付)

第 16 条 博物館の展示品を観覧しようとする者が、所定の入館料を納付した場合は、入館券を交付するものとする。

(入館料の免除)

第 16 条の 2 沖縄県立教育機関使用徴収条例（昭和 47 年沖縄県条例第 37 号）第 4 条の規定により入館料を免除することができる場合は、次のとおりとする。

(1)県内の小学校、中学校、高等学校、盲学校、聾学校及び養護学校に在籍する児童生徒及びその引率者が教育課程に基づく教育活動として常設展を観覧する場合

(2)県内の小学校、中学校、高等学校、盲学校、聾学校及び養護学校に在籍する児童生徒が学校週 5 日制の休業土曜日に常設展を観覧する場合

(3)前各号に定めるもののほか、館長が特に必要と認めた場合

2 前項第 1 号又は第 3 号の規定により入館料の免除を受けようとする者は、あらかじめ入館料免除申請書（第 4 号様式）を館長に提出し、その承認を受けなければならない。

(入館の禁止等)

第 17 条 館長は、次の各号の一に該当する者に対して入館を禁じ、又は退館を命ずることができる。

- (1)館内の秩序を乱すおそれがあると認められる者
- (2)伝染病患者及びめいていと認められる者
- (3)その他館長が適当でないと認められる者

(施設使用の許可等)

第 18 条 博物館施設（講堂、第 2 陳列室等で団体又は個人が使用するものをいう。以下、同じ。）を使用しようとする者は、あらかじめ使用許可申請書（第 5 号様式）を提出し、館長の許可を受けなければならない。

2 館長は、次の各号の一に該当するものを除き、その使用目的に合致し、住民の教育、学術及び文化の発展に寄与するものと認められる場合には博物館施設の使用を許可することができる。

- (1)専ら営利を目的とする事業を行うもの
- (2)特定の政党の利害に関する事業を行い、又は公務の選挙に関し、特定の候補者を支持するもの
- (3)特定の宗教を支持し、又は特定の教派、宗派若しくは教団を支持するもの
- (4)社会教育上不適切であると認められるもの

3 館長は、博物館施設を使用させる場合においては、博物館施設の維持運営のために必要なときに限り、使用の対価を徴収することができる。

(現状回復の義務)

第 19 条 使用者は、施設の使用を終わったときは、使用に係る施設及び附属設備を現状に復さなければならない。

(損害の賠償)

第 20 条 観覧者又は使用者が施設、設備及び展示品等を損傷し、若しくは紛失したときは、その損害を賠償しなければならない。ただし、やむを得ない理由があると認めたときは、館長は、これを減額し、又は免除することができる。

(報告)

第 21 条 館長は、博物館の月別利用状況報告書を翌月 10 日までに、教育長に提出しなければならない。

(補則)

第 22 条 この規則の施行に関し、必要な事項は、教育長の承認を得て館長が定める。

附 則（平成 12 年 3 月 30 日教育委員会規則第 17 号）

この規則は、平成 12 年 4 月 1 日から施行する。

第1号様式（第11条関係）

博物館資料寄贈申込書	
沖縄県立博物館長 殿	平成 年 月 日
申込者	住所 氏名
私所有の下記の資料を沖縄県立博物館へ寄贈したいので、受領される よう申込みます。	
種 別	記
1 作者名	
2 作品名	
3 製作年月日	
4 附属品	
5 資料の所在地	
6 時価見積額	
7 寄贈の理由	

受 諸 書	
上記の品寄贈を受諾いたします。ただし、寄贈を受けた資料について は、沖縄県立博物館の管理に関する規則（昭和47年沖縄県教育委員会規 則第13号）第11条第3項の規定により返却されません。	
平成 年 月 日	印
沖縄県立博物館長	

第2号様式（第11条関係）

博物館資料寄託申請書	
沖縄県立博物館長 殿	平成 年 月 日
申請者	住所 氏名
私所有の下記の資料を沖縄県立博物館へ寄託したいので、受諾ください るよう申込みます。	
種 別	記
1 種 別	
2 作者名	
3 作品名	
4 製作年月日	
5 附属品	
6 資料の所在地	
7 寄託期間	平成 年 月 日から 平成 年 月 日まで

## 第3号様式(第11条関係)

## 博物館資料受託承認書

平成 年 月 日

沖縄県立博物館長

印

平成 年 月 日付け申請のあった博物館資料の寄託について  
は、下記により受託します。

## 記

- 1 種別
- 2 作者名
- 3 作品名
- 4 製作年月日
- 5 附属品
- 6 受託期間 平成 年 月 日から 年 月 日まで
- 7 備考

## 第4号様式(第16条の2関係)

## 入館料免除申請書

平成 年 月 日

沖縄県立博物館長 殿

申請者住所  
氏名  
電話

下記の理由により博物館入館料の免除を受けたいので、沖縄県立博物館の管理に関する規則(昭和47年沖縄県教育委員会規則第37号)第16条の2第2項の規定に基づき申請します。

- 1 入館者 団体名 記
- 2 入館者数 人
- 3 入館日時 年 月 日 (曜日)
- 4 申請理由

承認証

年 月 日付け申請の博物館の入館料免除の件、申請  
どおり承認します。  
年 月 日 沖縄県立博物館長

印

○沖縄県立博物館協議会規則 昭和 47. 10. 2 教育委員会規則第 29 号

(趣旨)

第 1 条 この規則は、沖縄県立教育機関設置条例（昭和 47 年沖縄県条例第 24 号）第 6 条 第 4 項の規定に基づき、博物館協議会（以下「協議会」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(組織)

第 2 条 協議会は、委員 10 人で組織する。

(委員)

第 3 条 協議会の委員は、沖縄県教育委員会が任命する。

2 委員は、非常勤とする。

(任期)

第 4 条 委員の任期は 2 年とする。ただし、委員に欠員が生じた場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

(会長及び副会長)

第 5 条 協議会に会長及び副会長を置く。

2 会長及び副会長は、委員の互選による。

3 会長は、会務を総理する。

4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき、又は会長が欠けたときは、会長の職務を行う。

(会議)

第 6 条 協議会は、必要に応じ会長が招集する。

2 協議会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

(費用弁償)

第 7 条 委員は、その職務を行うために要する費用の弁償を受けることができる。

(庶務)

第 8 条 協議会の庶務は、沖縄県立博物館において処理する。

(雑則)

第 9 条 この規則に定めるもののほか、議事の手続その他の運営に関して必要な事項は、会長が協議会にはかつて定める。

附 則

この規則は、公布の日から施行する。

○沖縄県立教育機関使用料徴収条例

昭和 47. 5. 15 条例第 37 号

[最終改正] 平成 9 年 7 月 16 日条例第 23 号

(趣旨)

第 1 条 この条例は、地方自治法（昭和 22 年法律第 67 号）第 228 条の規定に基づき、教育機関の使用料の徴収について必要な事項を定めるものとする。

(使用料の徴収)

第2条 教育委員会は、教育機関の施設を使用する者から、別表第1又は別表第2に定める額の使用料を徴収する。

2 教育委員会は、博物館において特別に展示する資料を観覧させる場合には、前項の規定にかかわらず、500円を超えない範囲内でその都度入館料を定め、徴収することができる。

(使用料の納期)

第3条 使用料は、前納とする。

(使用料の減免)

第4条 第2条の規定にかかわらず、教育委員会は、貧困その他特別の理由があると認める者に対しては、使用料の全部又は一部を免除することができる。

(使用料の不還付)

第5条 既に納めた使用料は、還付しない。ただし、教育委員会が特別の理由があると認めるときは、この限りでない。

(罰則)

第6条 虚偽その他不正の行為により使用料の徴収を免れた者は、その徴収を免れた金額の5倍に相当する金額以下の過料に処する。

(教育委員会規則への委任)

第7条 この条例に定めるもののほか、使用料金の徴収に関して必要な事項は、教育委員会規則で定める。

#### 附 則

この条例は、公布の日から施行する。

附 則(平成9年7月16日条例第23号)

この条例は、平成9年8月1日から施行する。

別表第1(博物館の入館料)(第2条関係)

使 用 者	入 館 料
一 般	210円
大学生及び高校生	100円
中学生及び小学生	50円
団体(20人以上)	1人につきそれぞれ上記入館料の2割引

○沖縄県立博物館保管資料の利用に関する取扱要領(平成14年3月14日教育長決裁)  
(目的)

第1条 この要領は、沖縄県立博物館が保管する資料(以下「資料」という。)の利用について必要な事項を定めるものとする。

(定義)

第2条 この要領において利用とは、次の各号に掲げることをいう。

(1) 展示会等における原資料等の借用

- (2) 同資料の撮影
- (3) 原資料等を被写体として製作された写真原板や印画などの借用
- (4) 撮影等による複製品の製作
- (5) 原資料等の閲覧
- (6) 教育普及資料の借用

(許可の基準)

第3条 博物館長（以下「館長」という。）は、教育・学術・文化等に係わる事業、学術研究の推進並びに文化の向上に資する事業、又は館長が特に必要と認めた場合において資料の利用を許可することができる。ただし、次の各号の一に掲げる事項はこの限りでない。

- (1) 資料の保存に悪影響が生じると認められる場合
- (2) 好ましくない用途に供されると認められる場合
- (3) 館の事務処理に支障が生じると認められる場合
- (4) 資料のうち、ほかに権利を有する者があるものについて、事前に書面による同意を得ていない場合
- (5) 過去に目的外使用の事実又は許可条件に違反する事実があると認められる場合
- (6) その他、許可することが適当でないと認められる場合

(許可申請の手続き)

第4条 資料の利用を希望する者は、以下の各号に応じ、資料利用申請書（以下「申請書」という。）に事業の趣旨や主体者、事業計画等を記載した企画書等を添えて館長に利用開始14日前までに、申請しなければならない。

- (1) 原資料等の借用（第1号様式）
- (2) 写真撮影、原板・印画の借用（第2号様式）
- (3) 複製品の製作（第3号様式）
- (4) 原資料等の閲覧（第4号様式）
- (5) 教育普及資料の借用（第5号様式）

(審査及び決定)

第5条 前条の規定による申請があった場合、館長は次の各号に掲げる事項について、審査し、許可するかどうかを決定しなければならない。

- (1) 事業の趣旨及び内容
- (2) 事業の主体者
- (3) 事業計画
- (4) その他必要な事項

(許可書の交付)

第6条 資料利用を許可する決定を行ったときは、次の各号により当該申請者に対し別表のとおりの条件を不した資料利用許可書（以下「許可書」という。）を交付するもの

とする。ただし、館長が特に必要と認めた軽微なものについては、その限りでない。

- (1) 原資料等の借用（第1-1号様式）
- (2) 写真撮影、原板・印画の借用（第2-1号様式）
- (3) 複製品の製作（第3-1号様式）
- (4) 原資料等の閲覧（第4-1号様式）
- (5) 教育普及資料の借用（第5-1号様式）

2 館長は前項のほか、必要と認められる場合は、別に条件を付することができる。

#### 附 則

この要領は、平成14年4月1日から実施する。

別表（第6条関係）各申請の資料利用の許可条件

利用申請の内容 (各申請様式)	資 料 利 用 の 許 可 条 件
原資料等の借用 (第1号様式)	<p>共 通 条 件</p> <p>①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。          ②資料の利用に当たっては、必要に応じ「沖縄県立博物館所蔵」と明記すること。          ③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。          ④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。          ⑤申請の際には、返信用封筒（切手貼付）を添えること。</p> <p>個 別 条 件</p> <p>①資料の梱包または輸送、借用期間の保存管理については申請者が一切の責任を負うこと。          ②資料の運搬その他費用を要する場合は、申請者が負担すること。          ③貸与期間は原則として2ヶ月以内とする。          ④借用によって生じた成果品を当館に1部（1点）を納付すること。</p>
写真撮影、原板・印画の借用 (第2号様式)	<p>①撮影は原則として休館日の午後に行うこと。          ②製作された写真デュープやビデオ、CD等を当館に無償で1部（1点）納付すること。          ③製作された製作品は当館が展示等で自由に使うことができる。          ④写真原板の貸与期間は3週間以内とする。          ⑤郵送費は申請者が負担すること。          ⑥資料利用によって製作されたものは、登録商標化等により独占しないものとし、所有権を侵害しないものとする。</p>
複製品の製作 (第3号様式)	<p>①撮影は原則として休館日の午後に行うこと。          ②撮影等製作過程における事故等によって与えた損傷は、申請者が一切の責任を負うこと。          ③製作工程表、製作記録など当館の指示するものを提出すること。          ④製作された写真デュープやビデオ、CD等を当館に無償で1部（1点）納付すること。          ⑤製作された製作品は当館が展示等で自由に使うことができる。          ⑥資料利用によって製作されたものは、登録商標化等により独占しないものとし、所有権を侵害しないものとする。</p>
原資料等の閲覧 (第4号様式)	<p>①展示資料の閲覧は休館日の午後に行うこと。          ②閲覧する資料は、原則として1日5点以内とする。          ③閲覧によって得られた成果（論文や著作等）は、当館に1部（1点）納付すること。</p>
教育普及資料の借用 (第5号様式)	<p>①貸与期間は1週間以内とする。          ②資料の運搬その他費用を要する場合は、申請者が負担すること。          ③資料の利用にあたっては、事故が生じないよう取り扱いに十分留意すること。          ④万一の事故等については、申請者が一切の責任を負うこと。</p>

第1号様式 (第4条関係)

資料利用申請書  
(原資料等の借用)

平成 年 月 日

沖縄県立博物館長 殿

申請者

代表者名:

団体名:

(担当者氏名 )

住所(〒 )

Tel: fax:

下記により原資料等の館外利用を許可くださるようお願いします。

記

事業名			
借用希望期間	平成 年 月 日 ~ 月 日		
目的			
展示等場所			
資料名	員数	備考	
1			
2			
3			
4			
5			

※留意事項

- ①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。
- ②資料の利用に当たっては、必要に応じ「沖縄県立博物館所蔵」と明記すること。
- ③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。
- ④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。
- ⑤申請の際には、返信用封筒(切手貼付)を添えること。
- ⑥資料の梱包または輸送、借用期間の保存管理については申請者が一切の責任を負うこと。
- ⑦資料の運搬その他費用を要する場合は、申請者が負担すること。
- ⑧貸与期間は原則として2ヶ月以内とする。
- ⑨借用によって生じた成果品を当館に1部(1点)を納付すること。

前項に違反した行為があったときは、この許可を取り消すことがある。

資料利用申請書  
(写真撮影、原板・印画の借用)

平成 年 月 日

沖縄県立博物館長 殿

申請者 代表者名 :

団体名 :

(担当者氏名 )

住所 (〒 )

TEL: fax:

下記により資料の写真撮影、原板・印画の利用を許可くださるようお願いします。

記

利用区分 (○で囲む)	1 写真原板使用 2 撮 影			
希望日時・期間	平成 年 月 日 ~ 月 日 時 ~ 時			
目的 的	事項	名称	部数	製作予定日
	出版物 映 画 テレビ ビデオ D V D C D その他			
資 料 名		仕様	数量	備 考
1				
2				
3				
4				
5				

## ※留意事項

- ①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。
- ②資料の利用に当たっては、必要に応じ「沖縄県立博物館所蔵」と明記すること。
- ③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。
- ④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。
- ⑤申請の際には、返信用封筒（切手貼付）を添えること。
- ⑥撮影は原則として休館日の午後に行うこと。
- ⑦製作された写真デュープやビデオ、CD等を当館に無償で1部（1点）納付すること。  
納付された製作品は当館が展示等で自由に使うことができる。
- ⑧写真原板の貸与期間は3週間以内とする。
- ⑨郵送費は申請者が負担すること。
- ⑩資料利用によって製作されたものは、登録商標化等により独占しないものとし、所有権を侵害しないものとする。

前項に違反した行為があったときは、この許可を取り消すことがある。

第3号様式 (第4条関係)

資料利用申請書  
(複製品の製作)

平成 年 月 日

沖縄県立博物館長 殿

申請者

代表者名 :

団体名 :

(担当者氏名 )

住所 (〒 )

Tel: fax:

下記により複製品製作のため資料の利用を許可くださるようお願いします。

記

利用区分 (○で囲む)	1 写真原板使用 2 撮影				
希望日時・期間	平成 年 月 日 ~ 月 日 時 ~ 時				
目的					
製作仕様					
製作予定日	平成 年 月 日	製作点数		販売価格	円
資料名	仕様	数量	備考		
1					
2					
3					
4					

※留意事項

- ①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。
  - ②資料の利用に当たっては、必要に応じ「沖縄県立博物館所蔵」と明記すること。
  - ③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。
  - ④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。
  - ⑤申請の際には、返信用封筒(切手貼付)を添えること。
  - ⑥撮影は原則として休館日の午後に行うこと。
  - ⑦撮影等製作過程における事故等によって与えた損傷は、申請者が一切の責任を負うこと。
  - ⑧製作工程表、製作記録など当館の指示するものを提出すること。
  - ⑨製作された写真デュープやビデオ、CD等を当館に無償で1部(1点)納付すること。  
納付された製作品は当館が展示等で自由に使うことができる。
  - ⑩写真原板の貸与期間は3週間以内とする。
  - ⑪資料利用によって製作されたものは、登録商標化等により独占しないものとし、所有権を侵害しないものとする。
- 前項に違反した行為があったときは、この許可を取り消すことがある。

資料利用申請書  
(原資料等の閲覧)

平成 年 月 日

沖縄県立博物館長 殿

申請者 代表者名 :

団体名 :

(担当者氏名 )

住所 (〒 )

Tel: fax:

下記により原資料等の閲覧を許可くださるようお願いします。

記

目的			
閲覧希望日時	平成 年 月 日 時 ~ 時	閲覧人員	
資料名	員数	備考	
1			
2			
3			
4			
5			

## ※留意事項

- ①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。
- ②資料の利用に当たっては、必要に応じ「沖縄県立博物館所蔵」と明記すること。
- ③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。
- ④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。
- ⑤申請の際には、返信用封筒(切手貼付)を添えること
- ⑥展示資料の閲覧は休館日の午後に行うこと。
- ⑦閲覧する資料は、原則として1日5点以内とする。
- ⑧閲覧によって得られた成果(論文や著作等)は、当館に1部(1点)納付すること。

前項に違反した行為があったときは、この許可を取り消すことがある。

第5号様式 (第4条関係)

資料利用申請書  
(教育普及資料の借用)

平成 年 月 日

沖縄県立博物館長 殿

申請者

代表者名 :

団体名 :

(担当者氏名 )

住所 (〒 )

Tel: fax:

下記により教育普及資料の利用を許可くださるようお願いします。

記

利用区分 (○で囲む)	1 学校(学年・学級)行事 2 地域・団体行事 3 その他		
希望日時・期間	平成 年 月 日 ~ 月 日 ( 時 ) ( 時 )		
行事名			参加人員
目的			
資料名	数量	備考	
1			
2			
3			
4			
5			

※留意事項

- ①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。
- ②資料の利用に当たっては、必要に応じ「沖縄県立博物館所蔵」と明記すること。
- ③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。
- ④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。
- ⑤申請の際には、返信用封筒(切手貼付)を添えること。
- ⑥貸与期間は1週間以内とする。
- ⑦資料の運搬その他費用を要する場合は、申請者が負担すること。
- ⑧資料の利用にあたっては、事故が生じないよう取り扱いに十分留意すること。
- ⑨万一の事故等については、申請者が一切の責任を負うこと。

前項に違反した行為があったときは、この許可を取り消すことがある。

第1-1号様式（第6条関係）

資料利用許可書  
(原資料等の借用)

博物  
平成 第年 月 号日

殿

沖縄県立博物館長

平成 年 月 日付けで申請のあった資料の館外利用については、下記により許可します。

記

事業名		
借用期間	平成 年 月 日 ~ 月 日	
目的		
展示等場所		
資料名	員数	備考
1		
2		
3		
4		
5		

※許可条件

- ①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。
  - ②資料の利用に当たっては、必要に応じ「沖縄県立博物館所蔵」と明記すること。
  - ③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。
  - ④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。
  - ⑤申請の際には、返信用封筒（切手貼付）を添えること。
  - ⑥資料の梱包または輸送、借用期間の保存管理については申請者が一切の責任を負うこと。
  - ⑦資料の運搬その他費用を要する場合は、申請者が負担すること。
  - ⑧貸与期間は原則として2ヶ月以内とする。
  - ⑨借用によって生じた成果品を当館に1部（1点）を納付すること。
- 前項に違反した行為があったときは、この許可を取り消すことがある。

第2-1号様式（第6条関係）

資料利用許可書  
(写真撮影、原板・印画の借用)

博物 第年 月 号  
平成 年月日

殿

沖縄県立博物館長

平成 年 月 日付けで申請のあった資料の利用については、下記により許可します。

記

利用区分 (○で囲む)	1 写真原板使用 2 撮 影			
日時・期間	平成 年 月 日 ~ 月 日 時 ~ 時			
目的	区分事項	名称	部数	製作予定日
	出版物			
	映画			
	テレビ			
	ビデオ			
	D V D			
	C D			
その他の 資料名		仕様	数量	備考
1				
2				
3				
4				
5				

※許可条件

- ①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。
- ②資料の利用に当たっては、必要に応じ「沖縄県立博物館所蔵」と明記すること。
- ③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。
- ④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。
- ⑤申請の際には、返信用封筒（切手貼付）を添えること。
- ⑥撮影は原則として休館日の午後に行うこと。
- ⑦製作された写真デュープやビデオ、C D等を当館に無償で1部（1点）納付すること。  
納付された製作品は当館が展示等で自由に使うことができる。
- ⑧写真原板の貸与期間は3週間以内とする。
- ⑨郵送費は申請者が負担すること。
- ⑩資料利用によって製作されたものは、登録商標化等により独占しないものとし、所有権を侵害しないものとする。

前項に違反した行為があったときは、この許可を取り消すことがある。

第3-1号様式（第6条関係）

資料利用許可書  
(複製品の製作)

博物 第 年 月 号  
平成

殿

沖縄県立博物館長

平成 年 月 日付けで申請のあった特別利用については、下記により許可します。

記

利用区分 (○で囲む)	1 写真原板使用 2 撮影				
日時・期間	平成 年 月 日 ~ 月 日 時 ~ 時				
目的					
製作仕様					
製作予定日	平成 年 月 日	製作点数		販売価格	円
資料名		仕様	数量	備考	
1					
2					
3					
4					

※許可条件

- ①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。
- ②資料の利用に当たっては、必要に応じ「沖縄県立博物館所蔵」と明記すること。
- ③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。
- ④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。
- ⑤申請の際には、返信用封筒（切手貼付）を添えること。
- ⑥撮影は原則として休館日の午後に行うこと。
- ⑦撮影等製作過程における事故等によって与えた損傷は、申請者が一切の責任を負うこと。
- ⑧製作工程表、製作記録など当館の指示するものを提出すること。
- ⑨製作された写真デュープやビデオ、CD等を当館に無償で1部（1点）納付すること。  
納付された製作品は当館が展示等で自由に使うことができる。
- ⑩写真原板の貸与期間は3週間以内とする。
- ⑪資料利用によって製作されたものは、登録商標化等により独占しないものとし、所有権を侵害しないものとする。

前項に違反した行為があったときは、この許可を取り消すことがある。

第4-1号様式（第6条関係）

資料利用許可書  
(原資料等の閲覧)

博物 第 年 月 号  
平成

殿

沖縄県立博物館長

平成 年 月 日付けで申請のあった資料の閲覧については、下記により許可します。

記

目的			
閲覧希望日時	平成 年 月 日 時 ~ 時	閲覧人員	
担当学芸員			
資料名	員数	備考	
1			
2			
3			
4			
5			

※許可条件

- ①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。
- ②資料の利用に当たっては、必要に応じ「沖縄県立博物館所蔵」と明記すること。
- ③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。
- ④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。
- ⑤申請の際には、返信用封筒（切手貼付）を添えること
- ⑥展示資料の閲覧は休館日の午後に行うこと。
- ⑦閲覧する資料は、原則として1日5点以内とする。
- ⑧閲覧によって得られた成果（論文や著作等）は、当館に1部（1点）納付すること。

前項に違反した行為があったときは、この許可を取り消すことがある。

第5-1号様式（第6条関係）

資料利用許可書  
(教育普及資料の借用)

博物 第 年 月 号

殿

沖縄県立博物館長

平成 年 月 日付けで申請のあった資料利用については、下記により許可します。

記

利用区分 (○で囲む)	1 学校(学年・学級)行事 2 地域・団体行事 3 その他	行事名	
希望日時・期間	平成 年 月 日 ( 時 ) ~ 月 日 ( 時 )		
目的			
資料名	数量	備考	
1			
2			
3			
4			
5			

※許可条件

- ①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。
  - ②資料の利用に当たっては、必要に応じ「沖縄県立博物館所蔵」と明記すること。
  - ③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。
  - ④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。
  - ⑤申請の際には、返信用封筒（切手貼付）を添えること。
  - ⑥貸与期間は1週間以内とする。
  - ⑦資料の運搬その他費用を要する場合は、申請者が負担すること。
  - ⑧資料の利用にあたっては、事故が生じないよう取り扱いに十分留意すること。
  - ⑨万一の事故等については、申請者が一切の責任を負うこと。
- 前項に違反した行為があったときは、この許可を取り消すことがある。

**沖縄県立博物館年報 No.35**

**発 行 日 : 2002 年 5 月 20 日**

**編 集・発 行 : 沖縄県立博物館**

**住 所 : 〒 903-0823 那覇市首里大中町 1-1**

**TEL 098-884-2243 FAX 098-886-4353**

**ホームページ : <http://w1.nirai.ne.jp/oki-muse/>**

**印 刷 : 株式会社尚生堂**

**住 所 : 〒 901-2114 浦添市安波茶 1-6-3**

**TEL 098-876-2232**

# 2002年度 沖縄県立博物館年間行事一覧

## ○特別展

- 港川人 ..... 2002年8月20日(火)～9月29(日)  
シンポジウム「港川人の世界」 ..... 8月24日(土)  
パネリスト 馬場悠男(国立科学博物館人類研究部部長)ほか  
野外巡検 ..... 8月25日(日)・9月8日(日)・14(土)  
化石・岩石鑑定会 ..... 8月28日(水)・29日(木)  
特別講演会「港川人がいた頃の沖縄は」 ..... 9月21日(土)  
講師 長谷川善和(群馬県立自然史博物館長)

## ○企画展

- 新収蔵品展 ..... 2002年7月23日(火)～8月11日(日)  
沖縄の文化財展 ..... 2002年10月29日(火)～11月24日(日)  
沖縄ナースものがたり  
—看護学校の青春群像— ..... 2003年2月4日(火)～3月23(日)

## ○第27回 移動博物館－多良間村－ ..... 2002年6月21日(金)、22日(土)

## ○博物館文化講座

- 第321回 きからじの世界 ..... 2002年5月18日(土)  
講師 小波則夫(琉球髪結師)  
第322回 収蔵品解説会—彫刻— ..... 6月15日(土)  
講師 津波古 聰(県立博物館主幹兼学芸課長)  
第323回 海の生物の観察 ..... 7月21日(日)  
講師 屋比久壮実(写真家)  
第324回 方言で語る首里の暮らし ..... 8月3日(土)  
講師 宮里朝光(沖縄方言普及協議会会長)  
第325回 考古学から見た港川フィッシャー遺跡 ..... 9月7日(土)  
講師 岸本義彦(県教育庁文化課主任専門員)  
第326回 海の群星—漁撈体験を交えて ..... 10月19日(土)  
講師 稲福政吉(漁撈研究家)  
第327回 久高島の民俗とイザイホー ..... 11月24日(日)  
講師 湧上元雄(玉城村文化協会会长)  
第328回 近世琉球の海運と海人 ..... 12月1日(日)  
講師 豊見山和行(琉球大学助教授)  
第329回 野鳥観察会 ..... 2003年1月19日(日)  
講師 嵩原建二(県立博物館指導主事)  
第330回 戦後沖縄の看護学校 ..... 2月9日(日)  
講師 大城弘子(元県立沖縄看護学校長)  
第331回 首里の文化財めぐり ..... 2月15日(土)  
講師 萩尾俊章(県教育庁文化課文化財係長)  
第332回 糸の話 ..... 3月8日(土)  
講師 片岡 淳(琉球大学助教授)

## ○博物館体験学習教室(定員あり)

- ①サトウキビを栽培して黒砂糖をつくろう ..... 4月27日/7月6日/10月26日/12月14・15日  
②ウチナーそばをつくろう ..... 5月25日(土) 6月1日(土)  
③石うすを使って豆腐をつくろう ..... 9月22日(日)  
⑤しつくいシーサーをつくろう ..... 11月9日(土)・10日(日)  
⑥指導者養成の黒砂糖づくり ..... 2月9日(土)

## ○博物館シアター(会場:県立博物館講堂、開演時間:午後2時～)

- ①喜劇王たちの世界 ..... 4月28日(日)  
チャップリンの百万長者(サイレント・モノクロ・約40分)  
キートンの西部成金(弁士音声・モノクロ・約70分)

## ②夏休み親子アニメ祭り

- 日本の民話(短編)5本(カラー・約90分) ..... 8月4日(日)  
海外の民話(短編)5本(カラー・約90分) ..... 8月11日(日)